NEC

LaVie L

2 準備と設定

◎「あなたのパソコン」として使うために◎

パソコンは、ほかの電化製品とちがって
電源をいれただけでは使えません。
付属品をとりつけ、あなた個人が使うための
設定をし、インターネットにつなぐところまで、
この本の手順にそって、準備してみましょう。

もう一台パソコンを買ったときの
内容の移しかえや、パソコン内部に機器を
取り付ける方法も、この本がご案内します。

新しいパソコンがやってきました！

箱を開いて、

嬉しいような、そわそわするような、

そんな、新しい道具を手にするときの気持ちを

たいせつにしながら、

間違いなく確実に、

パソコンの準備と設定を進めていけるよう、

この本は作られています。

853-810601-693-B

『準備と設定』の読み方

第1章～第3章まで

「箱を開けて最初にすること」「電源を入れる前に接続しよう」「セットアップを始める」

箱の中の添付品を確認したり、バッテリやACアダプタを接続する手順、はじめて電源を入れたときの設定（Windowsのセットアップ）手順を説明しています。

第4章

「基本中の基本の操作」

パソコンの始め方／終わり方、音量調節、CD-ROMやDVDなどのディスクの扱い方など、基本的な操作について説明しています。

第5章

「これからインターネットを始めるかたへ」

これまでにパソコンを持っていなかったかたは、この章をご覧ください。インターネットに接続する方法について説明しています。

第6章

「パソコンを買い替えたかたへ」

パソコンを買い替えたかたは、この章をご覧ください。インターネットに接続する方法や、以前のパソコンの設定やデータを新しいパソコンに移す方法について説明しています。

第7章

「前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ」

複数のパソコンをネットワーク接続して利用したいかたは、この章をご覧ください。

第8章

「パソコン内部に取り付ける」

このパソコンにメモリを取り付ける方法を説明しています。

付　録

このパソコン特有の機能を紹介しています。パソコンのお手入れの方法、仕様一覧など、さまざまな情報を記載しています。

853-810601-693-B
2007年9月　2版

このマニュアルの表記について

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります

⚠注意　人が傷害を負う可能性が想定される内容、および、物的損害の発生が想定される内容を示します。

障害や事故の発生を防止するための指示事項は、次のマークで表しています。

使用者に対して指示に基づく行為を強制するものです。

その他の指示事項は、次のマークで表しています。

そのページで説明している手順で、特に大切なことです。

してはいけないことや、注意していただきたいことです。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているソフトの破壊、パソコンの破損などの可能性があります。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
DVD/CDドライブ	DVDスーパーマルチドライブ、またはマルチプレードライブのいずれかを指します。
「サポートナビゲーター」	電子マニュアル「サポートナビゲーター」を起動して、各項目を参照することを示します。「サポートナビゲーター」は、デスクトップの（サポートナビゲーター（電子マニュアル））をダブルクリックして起動します。

◆このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

次ページの表をご覧になり、ご購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

このパソコン、本機	表の各モデル（機種）を指します。
DVDスーパーマルチドライブモデル	DVDスーパーマルチドライブ（DVD-R/RW with DVD+R/RWドライブ（DVD-R/+R 2層書込み））を搭載しているモデルのことです。
マルチプレードライブモデル	マルチプレードライブ（CD-R/RW with DVD-ROMドライブ）を搭載しているモデルのことです。
ワイヤレスLANモデル	ワイヤレスLAN機能を搭載しているモデルのことです。
トリプルワイヤレスLANモデル	IEEE802.11a(5GHz）とIEEE802.11b/g(2.4GHz）の両方の規格に対応した通信機器と接続でき、Atheros Communications社が開発したワイヤレス通信の高速化技術「Super AG」に対応したワイヤレスLANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
FeliCa対応モデル	「FeliCaポート」を搭載、または添付したモデルのことです。
Windows Vista Home Premiumモデル	Windows Vista® Home Premiumがあらかじめインストールされているモデルのことです。
Office Personal 2007モデル	Office Personal 2007が添付されているモデルのことです。

<table>
<tr><th rowspan="2">シリーズ名</th><th rowspan="2">型名（型番）</th><th colspan="5">表記の区分</th></tr>
<tr><th>DVD/CDドライブ</th><th>ワイヤレスLAN</th><th>FeliCaポート</th><th>OS</th><th>添付ソフト</th></tr>
<tr><td rowspan="3">LaVie L
(アドバンストタイプ)</td><td>LL850/KG
(PC-LL850KG)</td><td rowspan="4">DVDスーパーマルチドライブモデル</td><td rowspan="4">トリプル
ワイヤレスLAN
モデル</td><td>FeliCa対応モデル</td><td rowspan="4">Windows Vista
Home Premium
モデル</td><td rowspan="4">Office Personal
2007モデル</td></tr>
<tr><td>LL800/KG
(PC-LL800KG)</td><td>—</td></tr>
<tr><td>LL750/KG
(PC-LL750KG)</td><td>FeliCa対応モデル</td></tr>
<tr><td>LaVie L
(スタンダードタイプ(e))</td><td>LL370/KG
(PC-LL370KG)</td><td>—</td></tr>
</table>

◆LaVie Gシリーズについて

LaVie Gシリーズの各モデルについては、添付の『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

◆本文中の記載について

・ 本文中の画面やイラスト、ホームページは、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。
・ 記載している内容は、このマニュアルの制作時点のものです。お問い合わせ先の窓口、住所、電話番号、ホームページの内容やアドレスなどが変更されている場合があります。あらかじめご了承ください。

◆このマニュアルで使用しているソフトウェア名などの正式名称

（本文中の表記）	（正式名称）
Windows、Windows Vista	Windows Vista® Home Basic Windows Vista® Home Premium Windows Vista® Business Windows Vista® Ultimate
Windows XP、Windows XP Home Edition	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system日本語版Service Pack 2
Windows XP、Windows XP Professional	Microsoft® Windows® XP Professional operating system日本語版Service Pack 2
Windows XP Windows XP Media Center Edition	Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2005 operating system 日本語版
Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Office Personal 2007	Microsoft® Office Personal 2007（Microsoft® Office Word 2007、Microsoft® Office Excel® 2007、Microsoft® Office Outlook® 2007、（Microsoft® Office ナビ 2007））
Office Personal 2007 with PowerPoint 2007	Microsoft® Office Personal 2007 with Microsoft® Office PowerPoint® 2007
Outlook、Outlook 2007	Microsoft® Office Outlook® 2007
インターネットエクスプローラ、Internet Explorer	Windows® Internet Explorer®
Windows転送ツール	Windows® 転送ツール
Windows Media Center	Windows® Media Center
「スタート」、「スタート」ボタン	Windows Vista® スタート ボタン
ウイルスバスター	ウイルスバスター™ 2007 トレンド フレックス セキュリティ
パーソナルシェルター	パーソナルシェルター for NEC PC104NBG
スクリーンセーバーロック2	スクリーンセーバーロック2 for NEC PC104NBG
EdyViewer	EdyViewer 2.1.1.0
かざしてナビ	かざしてナビ for NEC PC104NBG
シンプルログオン	シンプルログオン for NEC PC104NBG（Webカメラを搭載したモデルは、シンプルログオン for NEC PC104NBGN）
Windows Live Messenger	Windows Live™ Messenger

ご注意

（1）本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
（2）本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
（3）本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、NEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
（4）当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、（3）項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
（5）本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
（6）海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
（7）本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows Vista® Home Basic、Windows Vista® Home Premium、Windows Vista® BusinessまたはWindows Vista® Ultimateおよび本機に添付のCD-ROM、DVD-ROMは、本機のみでご使用ください。
（8）ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

商標について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Internet Explorer、Office ロゴ、Excel、Outlook、PowerPoint は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
インテル、Intel、Pentium、Celeron、Intel Coreはアメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
ATI、ATI logo、Mobility、Radeonは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。
TRENDMICRO及びウイルスバスターは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
SDおよびminiSDロゴ、およびSDHCロゴは商標です。
"MagicGate Memory Stick"("マジックゲートメモリースティック")および"Memory Stick"("メモリースティック")、MEMORY STICK、、MEMORY STICK、MEMORY STICK PRO、MEMORY STICK DUO、"MagicGate"("マジックゲート")、MAGICGATE、OpenMGはソニー株式会社の商標です。
xD-Picture Card、「xD-ピクチャーカード™」は富士写真フイルム（株）の商標です。
ExpressCardならびにそのロゴはPCMCIA(Personal Computer Memory Card International Association)の商標です。
Windows Live は、米国 Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。
Logitech, Logitechロゴ, QuickCamは、米国及び他国でのLogitechの商標又は登録商標です。
Logicool, Logicoolロゴ, その他Logicoolマークは、日本及び他国でのLogicoolの商標又は登録商標です。
Atheros、ABG、Super AG、XR、XSPANおよびTotal 802.11のロゴは、Atheros Communications, Inc.の商標または登録商標です。
121 ポップリンクは、日本電気株式会社の登録商標です。
BIGLOBEはＮＥＣビッグローブ株式会社の登録商標です。
「FeliCa」は、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式で、ソニーの登録商標です。
「Edy」は、ビットワレット株式会社が管理するプリペイド型電子マネーサービスのブランドです。
「eLIO」は、株式会社ソニーファイナンスインターナショナルが開発したネット決済用のクレジットサービスで、同社の登録商標です。
「Suica」は、東日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。

「TOICA」は東海旅客鉄道株式会社の登録商標です。
「ICOCA」は西日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。
「PiTaPa」は株式会社スルッとKANSAIの登録商標です。
「おサイフケータイ」はNTTドコモの登録商標です。
は、フェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
「かざしてポン！」および「かざポン」はフェリカネットワークス株式会社の商標です。
(株)パスモ商標利用許諾済　第18号

mo

PASMOマーク mo及びPASMOは(株)パスモが本商品・サービスの内容・品質を保証するものではありません。

PASMO

(株)パスモの都合により予告なくPASMOカードが交換されることがあります。
「PASMO」は、株式会社パスモの登録商標です。
「ホットスポット」はNTTコミュニケーションズの登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

目次

■輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
従いまして、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law. Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1: NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

第1章

箱を開けて最初にすること

この章には、パソコンの箱を開けて最初にすることが書いてあります。添付品が全部そろっているか、型番や製造番号が合っているか確認しましょう。

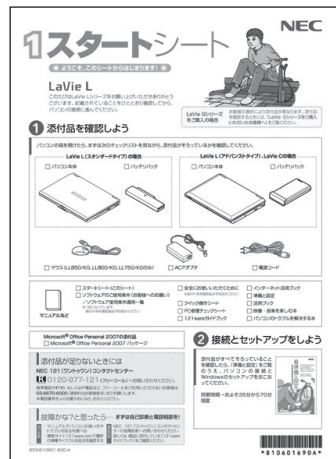
この章の所要時間：10～15分程度

添付品はそろっていますか？

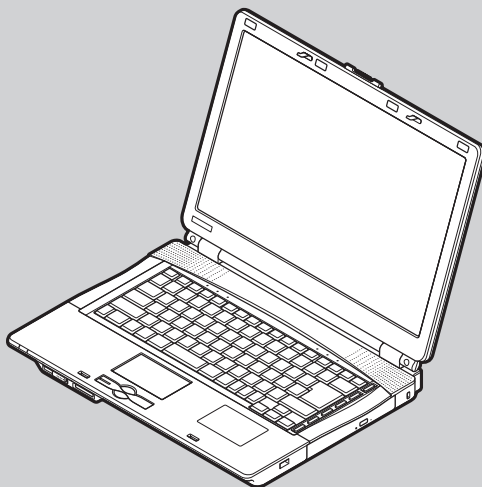
1 『スタートシート』を見る

マニュアルセットの中に『スタートシート』が入っています。『スタートシート』の「①添付品を確認しよう」を見て、添付品が全部そろっているか確認してください。万一、足りないものがあったり、添付品の一部が破損していたときは、すぐに下記までお問い合わせください。

LaVie Gシリーズをご購入の場合は、『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、添付品を確認してください。

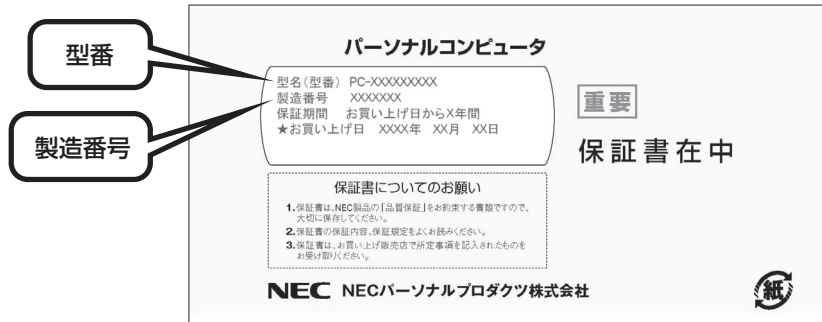
困ったときには…
NEC 121（ワントゥワン）コンタクトセンター
0120-977-121
※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。
※携帯電話やPHS、もしくはIP電話など、上記電話番号をご利用いただけないお客様は次の電話番号へおかけください。
03-6670-6000（通話料お客様負担）

添付品の内容はモデルにより異なる場合があります。

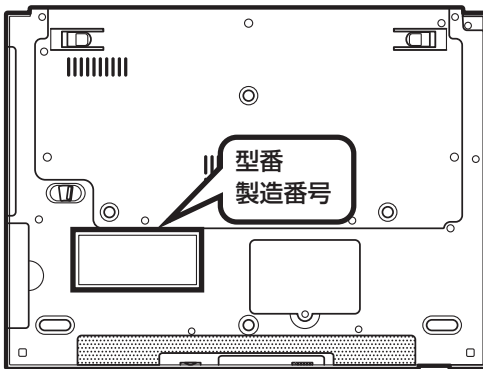
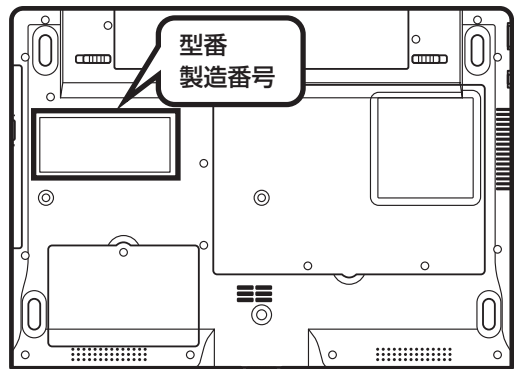
LaVie Lについて

LaVie Lには、次の3種類があります。まず、下のイラストを見て、ご購入されたパソコンを確認してください。

型番と製造番号を確認する

ポイント

● 保証書と本体のラベルの記載が一致していることを確認する

1 パソコン本体の保証書を見る

2 パソコン底面のラベルと一致しているか確認する

LaVie Lアドバンストタイプの場合

LaVie Lスタンダードタイプ（e）の場合

・機器に記載された番号が保証書と異なっている場合、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

・保証書は、所定事項（販売店名、お買い上げ日など）が記入されていることを確認して、保管しておいてください。保証期間中に万一故障した場合は、保証書記載内容に基づいて修理いたします。保証期間終了後の修理についてはNEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

第2章

電源を入れる前に接続しよう

添付品と保証書の内容を確認したら接続です。バッテリとACアダプタを取り付けましょう。電源を扱うことになるので、慎重に作業しましょう。次ページから順番に作業を進めてください。

この章の所要時間：5〜10分程度

インターネットや周辺機器は後から接続

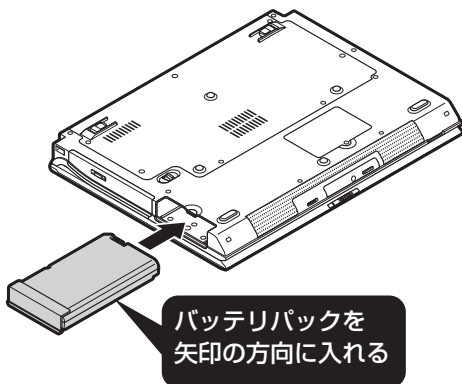
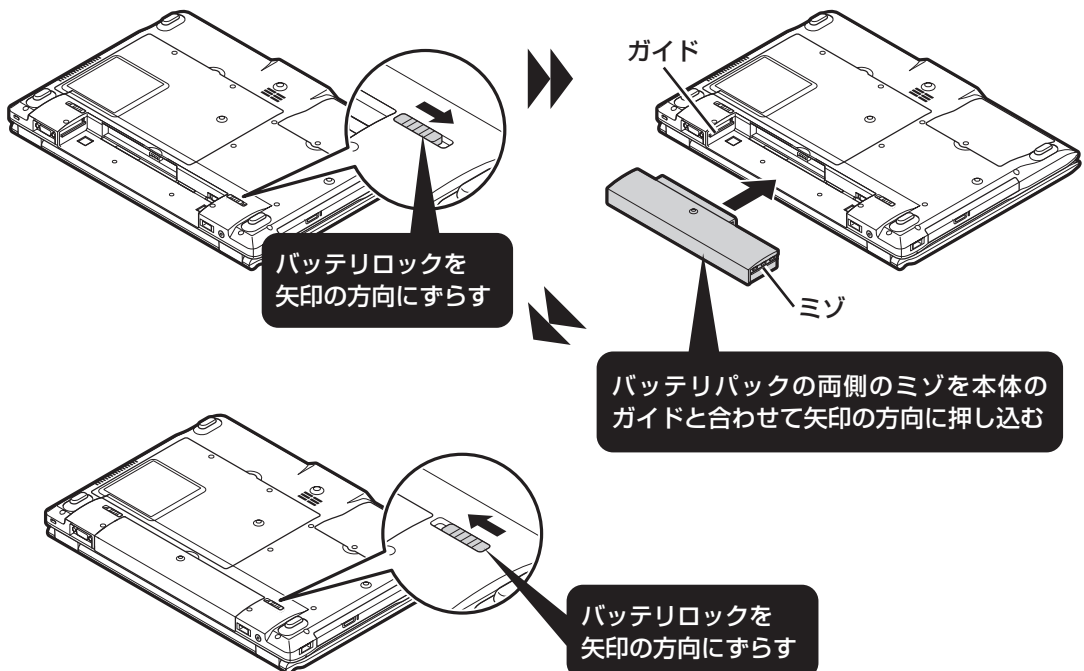
ここではまだ、インターネットには接続しません。また、プリンタなどの周辺機器があるときも、まだ接続しないでください。「第3章　セットアップを始める」で説明している作業が終わってから、インターネットや周辺機器の接続をおこないます。

バッテリパックを取り付ける

● バッテリパックの向きに注意

パソコンを裏返し、バッテリパックを取り付ける

バッテリパックの向きに注意して、矢印の方向にカチッと音がするまでしっかり取り付けてください。

LaVie Lアドバンストタイプの場合

LaVie Lスタンダードタイプ（e）の場合

バッテリパックの取り外し方

1 パソコンの電源を切る

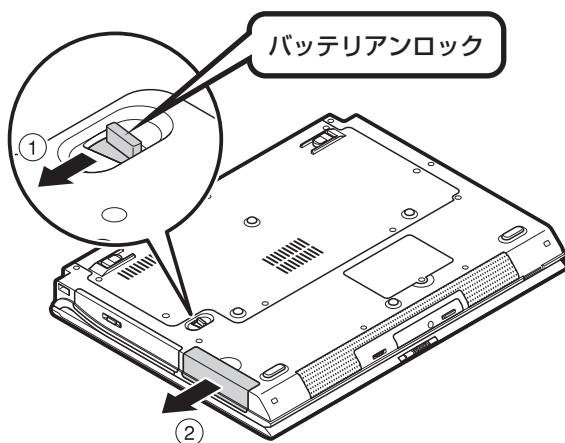
通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっています。一度、Windowsを起動してから、「電源を切る（シャットダウンする）」（40ページ）の手順で電源を切ってください。

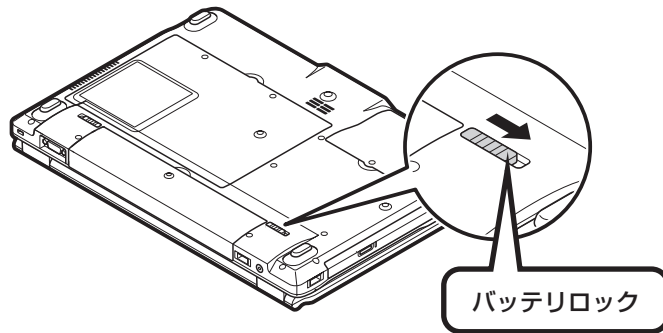
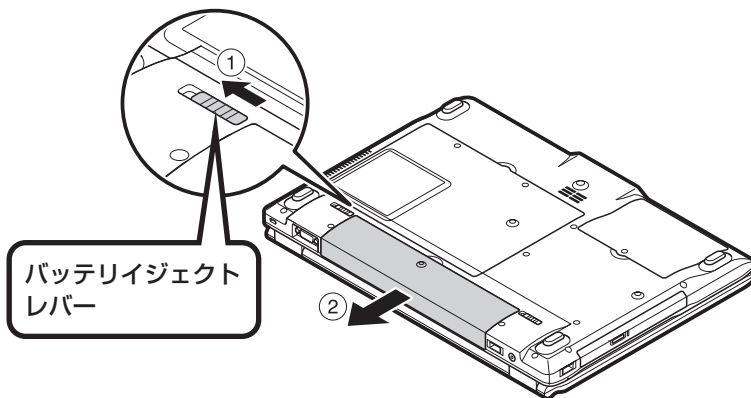
2 電源コードのプラグをコンセントから抜いて、ACアダプタをパソコンから取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す

4 バッテリパックを取り外す

LaVie Lアドバンストタイプの場合

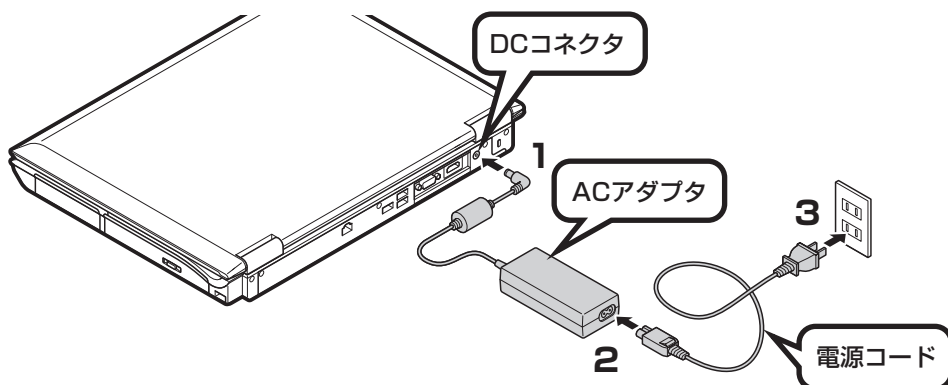
バッテリパックの横にあるバッテリアンロック（ ）を矢印の方向にずらしたまま（①）、バッテリパックを矢印の方向へスライドさせて取り外す（②）

LaVie Lスタンダードタイプ（e）の場合

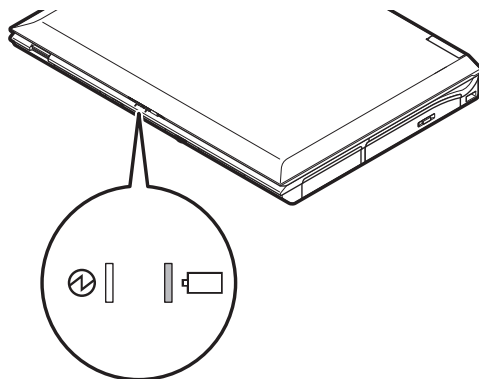
バッテリロックを矢印の方向にスライドさせ、ロックを解除する

バッテリイジェクトレバー( ) を図の矢印の方向にスライドさせたまま（①)、バッテリパックを外側にスライドさせて取り外す（②)

ACアダプタを接続する

ポイント

● 手順をよく読み、接続する順番を守りましょう

LaVie Lアドバンストタイプ

1 ACアダプタ（PC-VP-WP80）をDCコネクタ（⎓）に接続する
2 電源コードをACアダプタに接続する
3 電源コードのプラグをコンセントに差し込む

プラグをコンセントに差し込むとバッテリ充電ランプ が点灯して、バッテリの充電が始まります。
バッテリがフル充電されるとバッテリ充電ランプが消灯します。
今はフル充電されるまで待つ必要はありませんので、ACアダプタを接続したまま次へ進んでください。
バッテリ充電ランプについて詳しくは巻末の「各ランプの状態」をご覧ください。

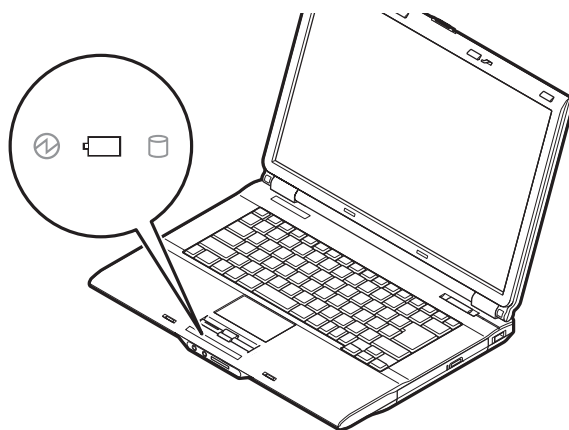
- セットアップ作業が終わるまで、ACアダプタを抜かないでください。
- ご購入直後は、バッテリ駆動ができなかったり動作時間が短くなることがあります。またバッテリ残量が正しく表示されない場合もあります。バッテリがフル充電されるまでACアダプタを抜かないでください。
- バッテリ容量が95%以上の場合、バッテリが十分に充電され、改めて充電する必要がないため、ランプが点灯せず、充電状態にならない場合があります。

LaVie Lスタンダードタイプ（e）

1 ACアダプタ（PC-VP-WP36-01）をDCコネクタ（⎓）に接続する
2 電源コードをACアダプタに接続する
3 電源コードのプラグをコンセントに差し込む

・セットアップ作業が終わるまで、ACアダプタを抜かないでください。

・ご購入直後は、バッテリ駆動ができなかったり動作時間が短くなることがあります。またバッテリ残量が正しく表示されない場合もあります。バッテリがフル充電されるまでACアダプタを抜かないでください。

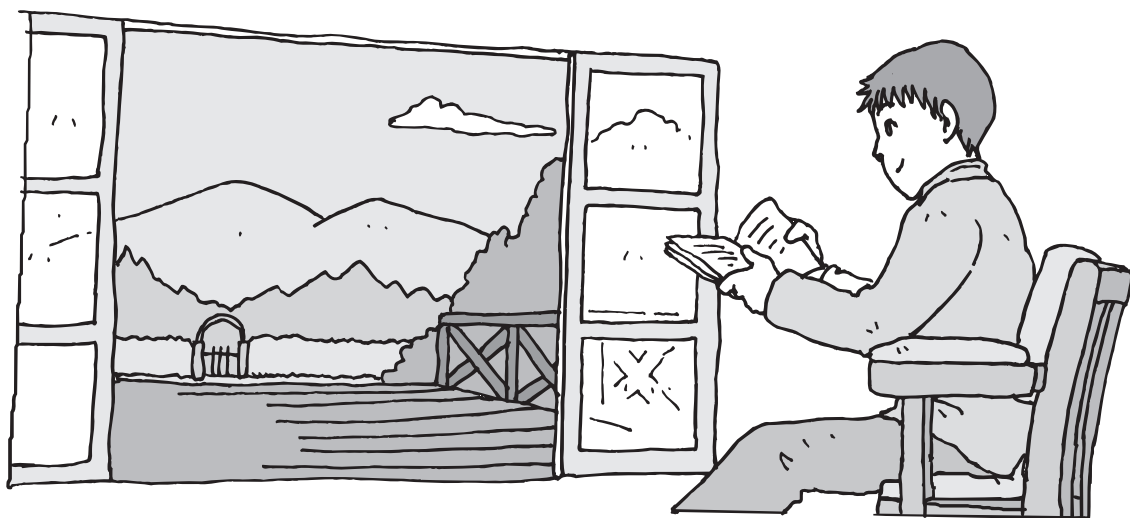
・バッテリ容量が95％以上の場合、バッテリが十分に充電され、改めて充電する必要がないため、ランプが点灯せず、充電状態にならない場合があります。

プラグをコンセントに差し込むとバッテリ充電ランプ▭が点灯して、バッテリの充電が始まります。
バッテリがフル充電されるとバッテリ充電ランプが消灯します。
今はフル充電されるまで待つ必要はありませんので、ACアダプタを接続したまま次へ進んでください。
バッテリ充電ランプについて詳しくは巻末の「各ランプの状態」をご覧ください。

インターネット、周辺機器などの接続は後から

ここまでの接続が終わったら、続けて「第3章　セットアップを始める」に進んでください。第3章で説明している作業が終わってからインターネット、周辺機器などの接続をおこないます。

電源コードなどが人の通る場所にないことを確認してください。ケーブルを足に引っかけたりするとパソコンの故障の原因になるだけでなく、思わぬけがをすることもあります。

第3章

セットアップを始める

今度は、いよいよパソコンの電源を入れます。最初に電源を入れるときは、「セットアップ作業」といって、自分の名前を登録したりする操作が必要です。この後の説明をよく読んで、ゆっくり確実に操作してください。

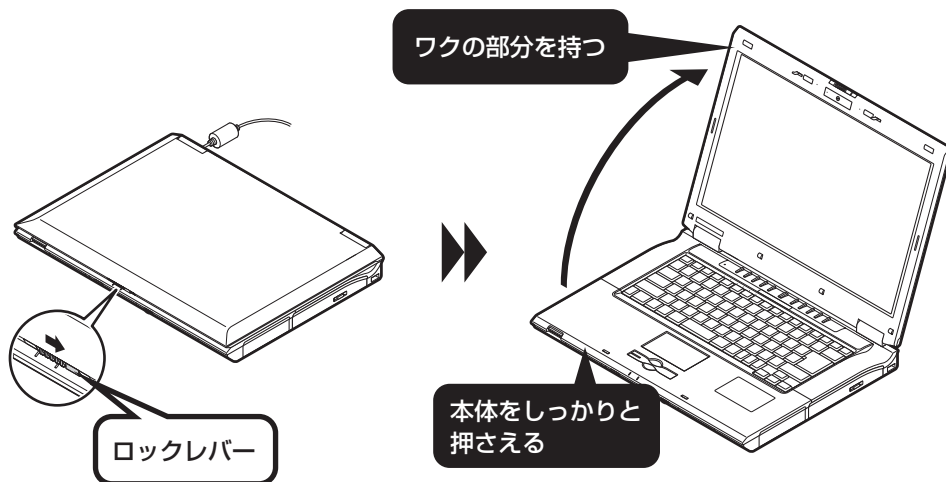
この章の所要時間：30〜60分程度

電源を入れる

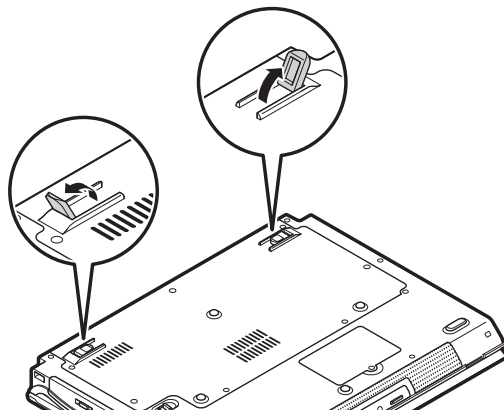
ポイント

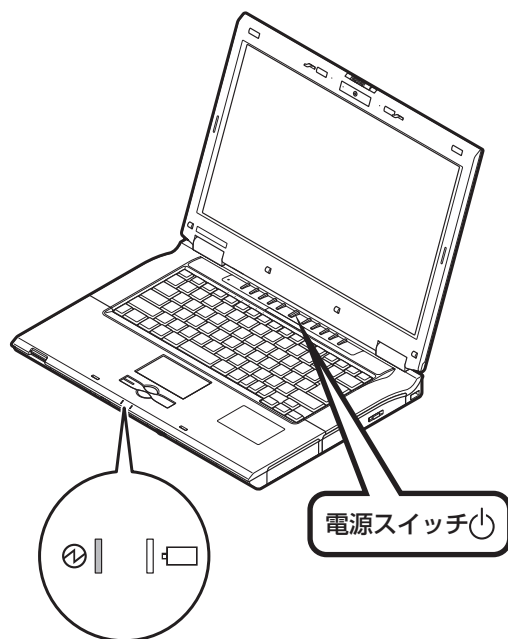
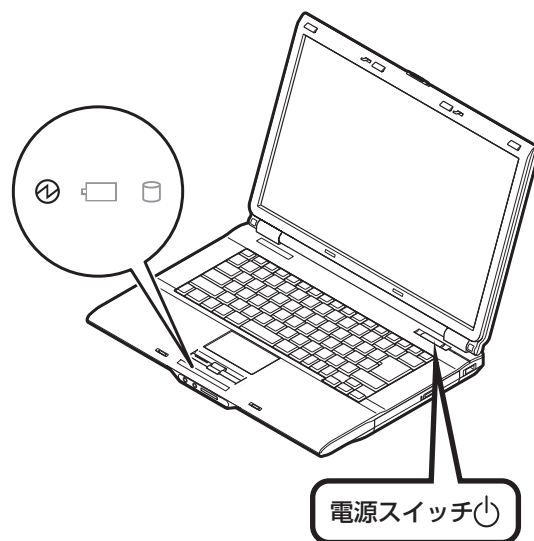
● 電源スイッチの場所を確認しておく

1 パソコンのふたを開ける

ロックレバーを右にスライドしたまま、ふたを持ち上げます。ふたの裏がディスプレイになっています。

LaVie Lアドバンストタイプの場合、ふたの開閉をするときは、下の本体をしっかりと押さえてください。また、液晶画面に力を加えないように、ワクの部分を持つようにしてください。

足を立てて使うこともできる

LaVie Lアドバンストタイプは、本体底面にある足を立てて使うこともできます。足を立てると、パソコンの角度が変わります。使いやすいほうを選んでください。

2 電源を入れる

電源スイッチ⏻を1秒程度押すと電源が入り、電源ランプ⏻が点灯します。
電源ランプについて詳しくは巻末の「各ランプの状態」をご覧ください。

LaVie Lアドバンストタイプの場合 **LaVie Lスタンダードタイプ（e）の場合**

液晶ディスプレイのドット抜けについて

液晶ディスプレイは、非常に高精度な技術で作られていますが、画面の一部にドット抜け※（ごくわずかな黒い点や、常時点灯する赤、青、緑の点）が見えることがあります。
また、見る角度によっては、色むらや明るさのむらが見えることがあります。
これらは、液晶ディスプレイの特性によるものであり、故障ではありませんのであらかじめご了承ください。

※社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)のガイドラインに従い、ドット抜けの割合を「付録」の「仕様一覧」（160ページ）または『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』の「仕様一覧」に記載しています。ガイドラインの詳細については、以下のホームページをご覧ください。

「パソコン用液晶ディスプレイのドット抜けに関する定量的表記ガイドライン」
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/0503dot/index.html

画面が表示されるまで数分かかることもある

電源スイッチを押してから、次ページの画面が表示されるまでに数分かかることがあります。その間、NECのロゴ（社名のマーク）などが表示されたり、画面が真っ暗になったりしますが、故障ではありません。あわてて電源を切ったりせずに、そのままお待ちください。

操作の途中では、絶対に電源を切らない！

セットアップ作業がすべて終わるまでに、30～60分程度かかります。「ここで一段落」（30ページ）までの手順が完了する前には、絶対に電源を切らないでください。電源コードをいきなり抜いたりするのも、絶対ダメです。セットアップ作業が終わらないうちに電源を切ると、故障の原因になります。

停電などのときは

万一、停電などの理由で電源が切れてしまったときは、一度電源コードをコンセントから抜いて1分ほど待ち、再度コンセントに差しなおしてから、電源スイッチを押してください。セットアップの画面が表示されるときは、その画面からセットアップ作業を続けてください。セットアップの画面が表示されないときは、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

パソコンの設定を始める

ポイント
- 画面の矢印を動かしてみる
- 「クリック」という操作を覚える

1 セットアップの最初の画面を確認する

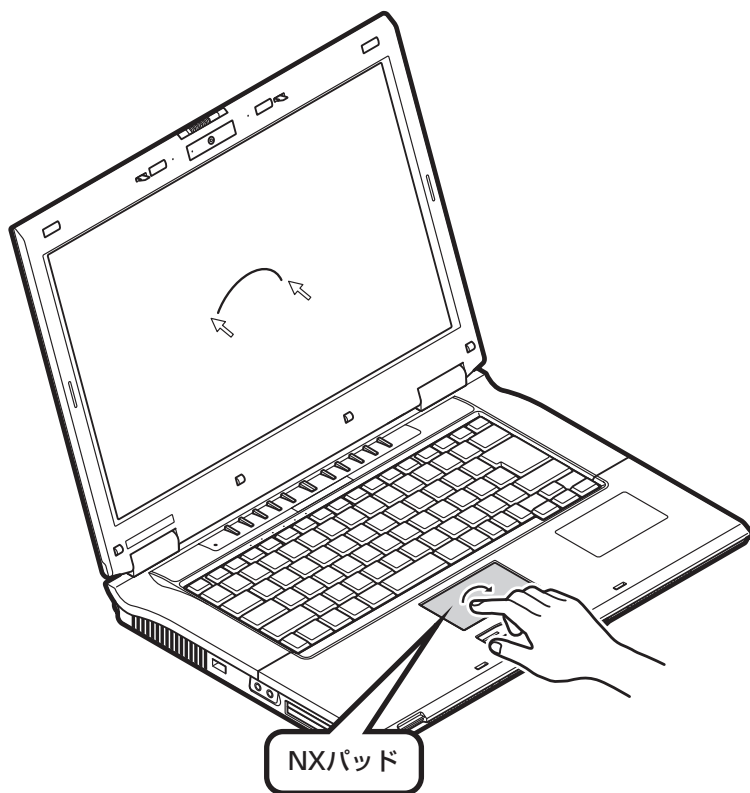
「Windowsのセットアップ」という画面が表示されていますね。これがセットアップ作業の出発点です。

◎は、「何もしないで待ってて」の合図

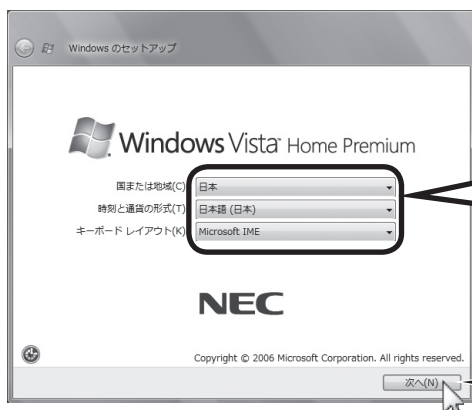
パソコンの内部で何かの処理が進んでいて、操作できないときには、画面に◎のマークが出ることがあります。このマークが表示されているときや、「しばらくお待ちください」などと文字が表示されているときは、キーを押したり、ボタンを押したりせずに、待っていてください。

パソコン内部での処理の進み具合を示すグラフが表示されることもあります。その場合も、何も操作せずに待ってください。

2 画面の矢印を動かす

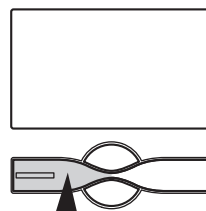
NX（エヌエックス）パッドの上で指をすべらせます。

指を動かすと、その動きに合わせて画面の矢印が動きます。指がNXパッドの端で止まって、それ以上動かせなくなったときは、一度指を離してNXパッドの中央に戻して操作すると続けて矢印を動かすことができます。

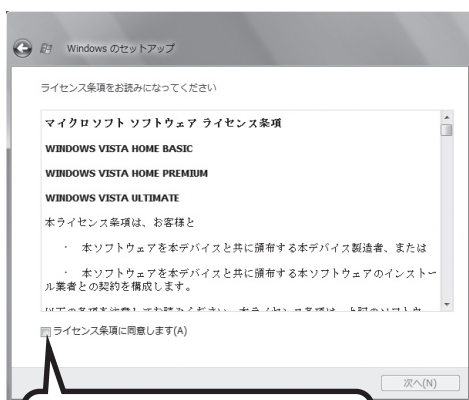
まだ、NXパッドのボタンを押さないでください。

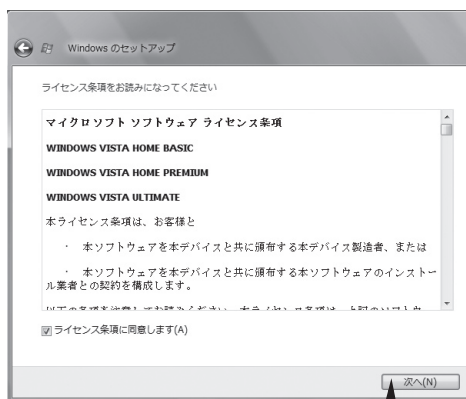
3　画面内の右下に矢印を動かす

何も設定を変えず、「次へ」に画面の矢印 （マウスポインタ）を合わせて左のクリックボタンを押すと、画面の表示が切り換わって「ライセンス条項をお読みになってください」と書かれた画面になります。

この画面では、設定を変えないでください。設定を変えると、画面表示が日本語にならないなどの問題が起こる場合があります。

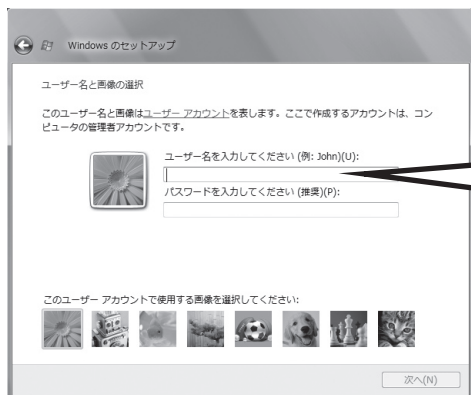
クリック

このような操作で、手順を次に進めたり、次ページを表示したりすることができます。
画面の絵や文字などに矢印を合わせて左ボタンを1回押す操作を「クリック」と呼びます。パソコンを使うときの一番基本的な操作なので、覚えてくださいね。

4 ライセンス条項に同意する

ライセンス条項に同意していただけない場合は、パソコンを使うことができません。

これで、ライセンス条項に同意することになります。「ライセンス条項に同意します」の左がからに変わらないときは、矢印がうまく合っていなかったので、やりなおしてください。

「ライセンス条項」とは、このパソコンに入っているソフトを違法にコピーして他人に渡したりしないという約束をしていただくことです。画面に表示されている契約文の続きを読むには、文書表示欄の右下にあるをクリックします。

キーボードを使って名前を入れる

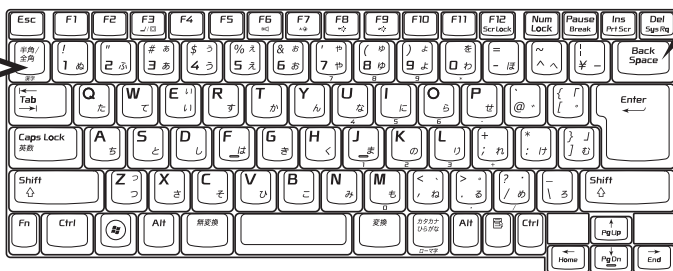
ポイント
- ユーザー名とユーザーアイコンを選ぶ

1 自分の名前を入れる

ここに小さな縦棒（｜）が点滅しているのを見てから、キーボードで自分の名前を入力する

【例】「mita」と入力する場合なら

点滅していないときは、「ユーザー名を入力してください」の下の欄をクリックしてください。

【BackSpace】

【半角/全角】

※イラストはモデルによって多少異なります。

- 日本語で名前を入れる場合、環境依存文字（日本語変換で一覧に「環境依存文字」と表示される文字）は利用できません。ソフトによっては、正しく動作しなくなります。
- 日本語で名前を入れると、コンピュータ名が「ユーザー名-PC」となり、日本語がまざります。利用するネットワークによっては不具合の原因になりますので、ネットワークの設定をする前にコントロールパネルを利用してコンピュータ名を入れなおしてください。
- ユーザー名の追加や変更は、セットアップ作業が終わった後でできます。
- 次の文字列は、パソコンのシステムですでに使われているため、入力しないでください。
CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9

入力を間違えたら

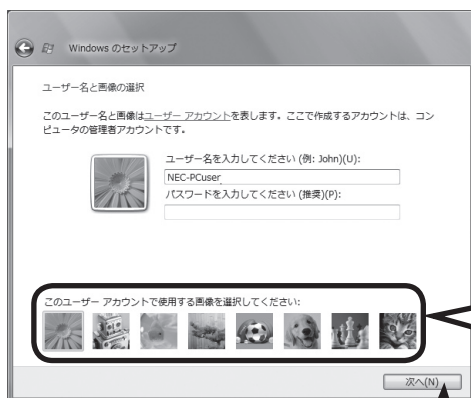
キーボードの【BackSpace】(バックスペース）を押してください。

ローマ字で入力したいのにひらがなが表示されるときは

キーボードの【半角/全角】を押すと、日本語とアルファベットが切り換わります。

入力した名前を控えておく

ユーザー名：

パソコンのトラブルを解決するために、後でセットアップ作業をやりなおす（再セットアップする）とき、この名前が必要です。上の欄に控えておいてください。

この中から、ユーザーアイコン（スタートメニューなどで表示される画像）を選んでクリックする
※どの画像を選んでもかまいません。このマニュアルでは、一番左の画像を選んだ場合を例に説明します。
何も選ばずに「次へ」をクリックすると、自動的に一番左の画像が選ばれます。

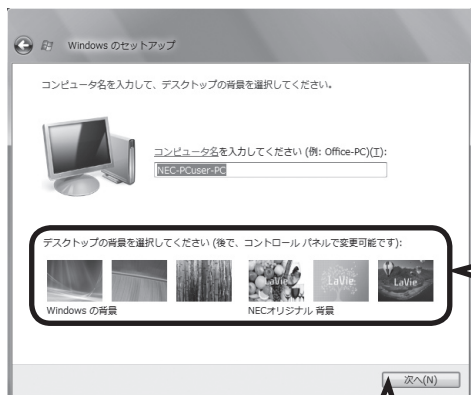
「次へ」をクリックする

パスワードは、ここでは設定しません。セットアップ作業が終わってから設定します。

画面を見ながら手順を進める

ポイント

● 画面に書かれたことを読みながら、指示にしたがってクリック

1　次の画面に進む

この中から、デスクトップの背景（壁紙）にする画像を選べる
※画像をクリックして選びます。どの画像を選んでもかまいません。
何も選ばずに「次へ」をクリックすると、自動的に右から3番目の画像が選ばれます。
このマニュアルでは、何も選ばずに「次へ」をクリックした場合を例に説明します。

「次へ」をクリックする

・デスクトップの背景を選んでクリックすると、画面が選んだ背景に変わります。

・キーボードの操作に慣れていないかたは、表示された名前のまま次に進んでかまいません。

・キーボードを使った文字入力に慣れている場合、半角英数文字でコンピュータの名前を自由に入力してください。名前を思いつかない場合は「LaVie」(ラヴィ）とするとよいでしょう。すでに何台かパソコンをお持ちの場合、「PC1」、「PC2」のように数字で区別してもかまいません。

・次の文字列は、パソコンのシステムですでに使われているため、入力しないでください。
CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9

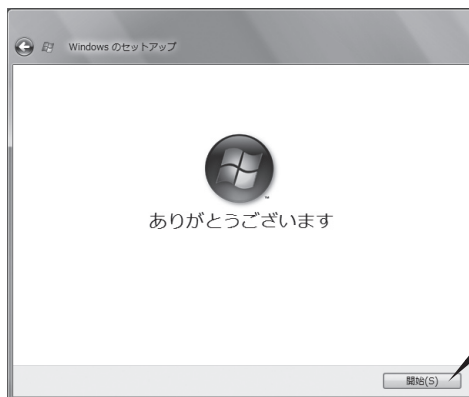
・すでに何台かパソコンをお使いの場合は、同じ名前を付けないでください。ネットワークで接続したときにエラーが表示されます。

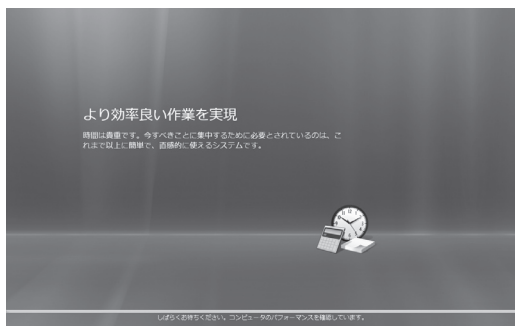
・21ページで入力した自分の名前と同じ名前は入力しないでください。

2 コンピュータを保護する設定をする

「推奨設定を使用します」をクリックする

Windowsがいつも最新の状態になるように、インターネット経由で定期的に更新情報が確認され、自動的にインストールされるようになります。Windowsの更新について詳しくは、『活用ブック』の「しっかりセキュリティであんしんインターネット」をご覧ください。

3 さらにセットアップ作業を進める

「開始」をクリックする

「開始」をクリックすると、次の画面が表示されます。

その後、しばらくしてからパソコンの電源が切れ、自動的に再度電源が入ります（これを「再起動」といいます）。
次ページの画面が表示されるまで何も操作せずに待っていてください。

この後、再起動するたびに、「ウェルカムセンター」の画面が表示されますが、ここではまだ操作しないでください。「ウェルカムセンター」の説明は、「ここで一段落」（30ページ）でおこないます。

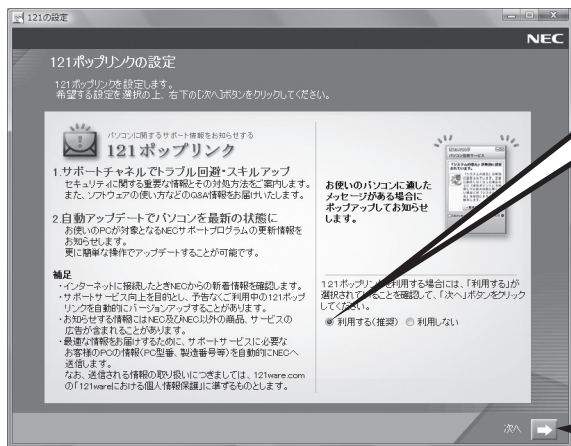
パソコンが再起動しても、
まだセットアップ作業が残っています。

続けて次ページ以降の作業を進めてください。

121ポップリンクを設定する

ポイント

● NECから新しい情報が届くように、「利用する」を選ぶ

1 ➡ をクリックする

「利用する（推奨）」の左が◉になっていることを確認して、

➡ をクリックする

121（ワントゥワン）ポップリンクは、お使いのパソコンに適したサービスサポート情報（危険度の高いウイルスに対するセキュリティパッチ（修正プログラム）やアップデートプログラム）を、NECからインターネット経由でお知らせするサービスです。このパソコンでインターネット接続できるようになってから、新しい情報が発表されるたびに自動的に届くようになります。

121ポップリンクの設定は、後から利用しないように変更することもできます。

画面右下に次のようなメッセージが表示されることがあります。

ユーザー アカウント制御の設定を確認してください
ユーザー アカウント制御は無効になっています。
問題を解決するには、この通知をクリックしてください。

コンピュータのセキュリティを確認してください
お使いのコンピュータには、セキュリティの問題がいくつかあります。
問題を解決するには、この通知をクリックしてください。

ここでこの画面が表示されても問題ありません。今はこのメッセージをクリックせずに、セットアップ作業を進めてください。

ソフトを使えるようにする

ポイント

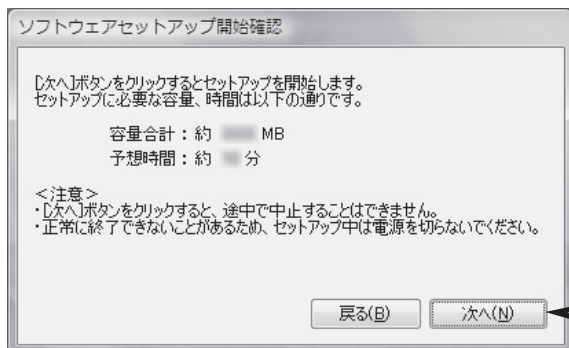
● 目的に合わせて、パソコンに入れるソフトを選べる

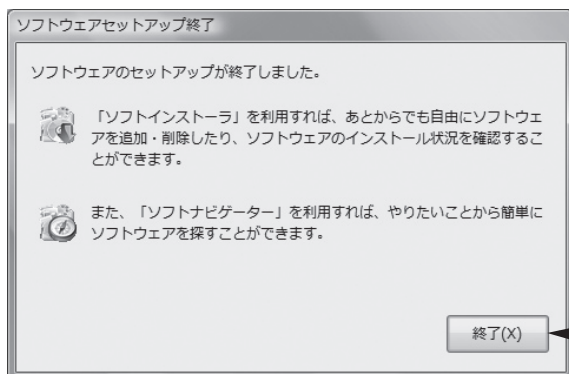
1 次の画面に進む

・通常は、「標準セットアップ」を選んでください。

・「ソフトウェア一覧から選択」の左にある□をクリックして☑にすると、一覧から使いたいソフトを選んでインストールできます。この方法を選んだ場合は、画面の説明を読んで操作してください。

・「最小セットアップ」を選ぶと、ソフトを追加せず、必要最小限のソフトだけでパソコンを使い始められます。この方法を選んだ場合は、画面の説明を読んで操作してください。

2 ソフトを追加する

画面に表示される予想時間は目安です。「ソフトウェアセットアップ終了」の画面が表示されれば、ソフトが正しく追加されています。

「インストール中」画面が表示され、ソフトの追加が始まります。ソフトの追加が終わると、次の画面が表示されます。

自動的に再起動します。次の画面が表示されるまで、そのままお待ちください。

3 ガジェットを登録する

再起動後、「復元ポイントを作成しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
しばらくすると、次の画面が表示されます。

画面右側に、NECオリジナルガジェットが表示されます。

ここで一段落

● パソコンを使い始めるときの画面を見ておこう

しばらくすると、「ウェルカムセンター」が表示されます。今は、 x をクリックして画面を閉じてください。次に起動したときからは、ウェルカムセンターの画面に「起動時に実行します」のチェックが追加されます。

ウェルカムセンター

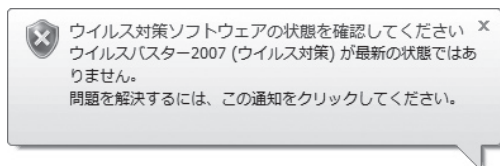
ウェルカムセンターの画面からは、簡単にソフトをインストールすることができたり、ガジェットの登録をすることができます。パソコンを起動するたびに表示する必要がないかたは、「起動時に実行します」の左のをクリックして□にすると、次回からこの画面は表示されなくなります。

最初のセットアップ作業は一段落です。次回から、パソコンの電源スイッチを押すと、いつもこの画面（デスクトップ画面と呼びます）が表示されるようになります。

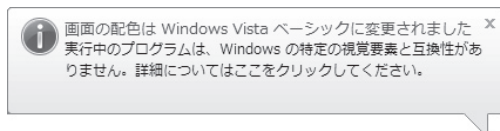
デスクトップ画面

サイドバー

- 複数のユーザーを登録している場合、左の画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。
- サイドバーに表示されているガジェットは、左の画面と順序が異なる場合があります。解像度によってはガジェットが隠れていることがありますが、画面右上の ▶ をクリックすると表示できます。

画面右下に次のようなメッセージが表示される場合があります。

これは、このパソコンに入っているウイルス対策ソフト「ウイルスバスター」が最新の状態ではない可能性があることをお知らせするものです。この後、パソコンをインターネットにつなぐとソフトを最新の状態にできます。インターネットにつなぐまでは、このメッセージが表示されても、何もしなくてかまいません。
詳しくは、「パソコンを安全に使うための設定をおこなう」(105ページ)をご覧ください。

画面の表示について

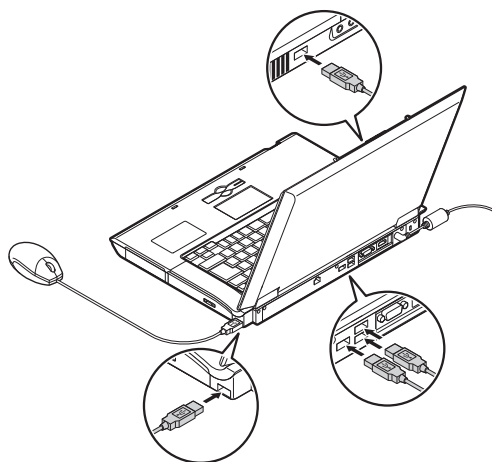
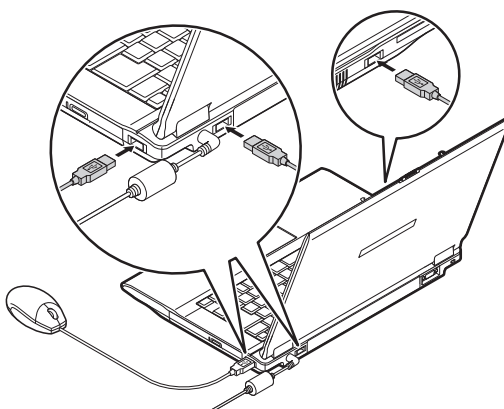
ソフトを使っているときに、次のようなメッセージが表示されることがあります。

これは、ソフトを利用するために、Windows Vistaの画面表示が変わることをお知らせするものです。このメッセージが表示されたときは、ウィンドウの透明部分など一部の表示が変更されます。
変更された画面表示は、ソフトを終了するともとに戻ります。

マウスを接続する

USB(ユーエスビー)マウスが添付されているモデルは、必要に応じてパソコンにUSBマウスを接続することができます。プラグの向きに注意して取り付けてください。

マウスのプラグをパソコンのUSBコネクタに差し込む

マウスのプラグの向きに注意して、パソコンのUSBコネクタに差し込んでください。
どのUSBコネクタに差し込んでもかまいません。

LaVie Lアドバンストタイプの場合

LaVie Lスタンダードタイプ(e)の場合

このマウスは、マウス底面から出ている赤い光をセンサーが検知して、動きを判断します。濃淡のはっきりした模様や柄のないところ、光沢や反射のないところで使うと、センサーが光を検知しやすく、快適に動きます。

マウスの底面から出ている光を直接見ないでください。

はじめてUSBマウスを差し込んだときは、画面右下に次のメッセージが出ると、画面の矢印を動かせるようになります。

USBマウスを動かすと、画面の矢印が動きます。
うまく動かないときは、一度プラグを抜いて、もう一度差し込んでください。

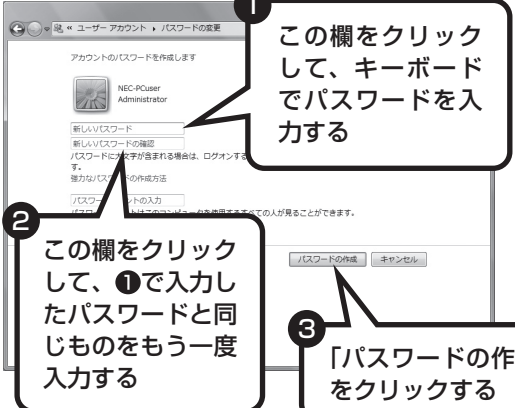
マウスの設定については、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「マウス」をご覧ください。

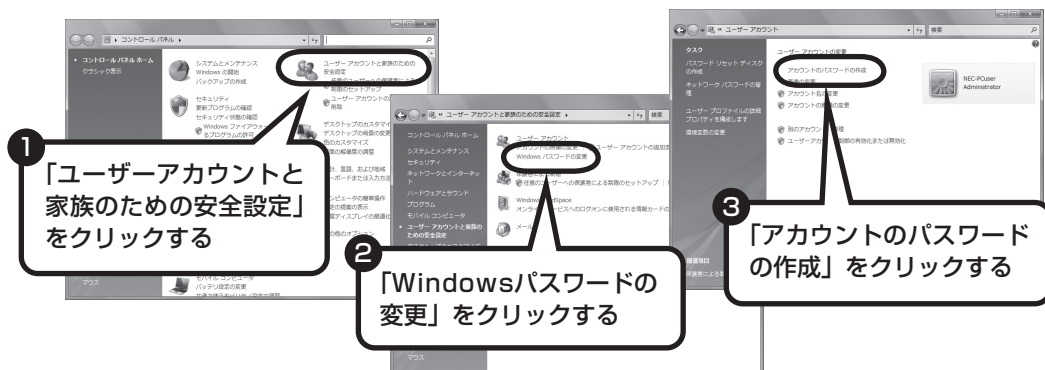
Windowsのパスワードを設定する

ポイント

- パソコンをより安全に使うために、パスワードを設定
- パスワードは覚えやすく、忘れないものを

パスワードの設定

不正アクセス被害防止や情報の保護など、セキュリティ対策のため、次の手順でパソコンを使うときにパスワードを入力する設定をしておくことをおすすめします。

1 コントロールパネルの画面を表示する

2 設定画面を表示する

3 パスワードを設定する

- 入力したパスワードは「●●●」のように表示されます。これは、入力したパスワードが他人に見られてもわからないようにするためです。
- 覚えやすく、忘れにくいパスワードを決めてください。大文字、小文字も入力したとおりに区別されます。
- 「パスワードのヒントの入力」欄に、パスワードを思い出すためのヒントを入力しておくと、パスワード入力を間違えたときにヒントが表示されるようになります。

これで、Windowsのパスワードが設定されました。次回から、パソコンの電源を入れたり、スリープ状態、休止状態から復帰したりするときには、パスワードの入力が必要になります。

お客様登録のお願い

121wareでは「お客様登録」することで、さまざまなメリットを提供しています。あなたのデジタルライフをグッとオトクに、そしてさらに便利でもっと身近に感じる121wareのサービスを是非ご利用ください。
※ 法人のお客様としてご使用の場合も、ご登録をおすすめします。

登録料・会費無料

ご登録の特典

お客様登録（ログインID取得）の2つの特典

1「充実サポートで安心パソコンライフ」 ～サポート情報の提供、Web修理受付、買い取りサービス～
セキュリティやマイクロソフトモジュール更新のお知らせ、Webからの修理受付、不要になったパソコンの買い取りサービスを無料でご利用いただけます。

2「NEC Directでオトクにお買い物」 ～ポイントサービスを利用してお値引価格で～
NEC Directでの商品購入、アンケートの回答、イベント参加などで獲得したポイントをためて、お値引き価格でお買い物できます。
※ポイントサービスの利用については「NEC Direct ポイントサービスご利用規約」に同意していただく必要があります。

さらに、NEC商品を登録して2つの特典

1 あなたのパソコンにピッタリのサポート情報をお届け！
Q&A、商品仕様、商品マニュアルなど、お手持ちのNEC商品に関する情報を121wareの「マイページ」で的確・簡単にお届け！

2 オススメ情報、優待特典もグレードアップ！
お手持ちのNEC商品をご登録いただくことによりマイページがご提供するオススメ情報、優待特典が一層グレードアップします。

■お客様登録による特典一覧

		メール登録すると…	保有商品登録すると…
お得な情報&お役立ち情報をGETできる！		◎セキュリティ情報、MSモジュール更新など充実したサポート情報をGETできる！ ◎お得な限定キャンペーンのお知らせをGETできる！ ◎活用提案情報をGETできる！ ○お客様とNECとのコンタクト情報がわかる！ ○NEC Directでの購入履歴が確認できる！	◎保有商品に関するQ&A情報をすばやくGET ！ ◎保有商品に合うモジュールをすばやくGET ！ ◎パソコンを最新の状態に！「自動アップデート」 ◎保有商品の情報をすばやくGET ！
優待特典が受けられる！	サービス	◎NEC Directのおすすめ、お買い得情報をGET ！ ◎NEC Directでポイントサービスを利用できる！ ○買い取りサービスのお申込みができる！ ○121wareオリジナル壁紙がダウンロードできる！ ○121wareオリジナルメールマガジンをお届け！	◎121wareからオススメ商品情報をGETできる！ ○NEC Directから優待販売情報をGETできる！
	サポート	◎修理の申し込みができる！	

最新情報・詳細につきましてはインターネットでご確認ください。

お客様登録の方法

お客様登録（お持ちのNEC製品も登録してください）をして、電話の問い合わせのときに必要な「121wareお客様登録番号」と、インターネットサポート・サービスをご利用になる際に必要な「ログインID」を取得してください。
ご登録いただくことでお客様に合ったサポート・サービスをご提供させていただきます。

インターネットによる登録をおすすめします。
「121wareお客様登録番号」と「ログインID」を同時に取得でき、すぐにインターネットサポートが受けられます。
まだインターネットをお使いになれないお客様にはFAX登録をご用意しております。ただし、FAX登録からでは「121wareお客様登録番号」のみの取得になり、インターネットでのさまざまなサービスがご利用いただけません。
インターネットが使えるようになり次第、「ログインID」の取得をおすすめします。

インターネット登録（推奨）

登録の前に、インターネット接続の設定が必要です。設定の方法については、第5章または第6章をご覧ください。

インターネットに接続して、NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」のマイページ（http://121ware.com/my/）から登録します。詳しくは、『121wareガイドブック』をご覧ください。

FAX登録

FAX用紙はNECパソコン情報FAXサービスから取り出してください。

お手持ちのFAXから「0120-977-121」(フリーコール）に電話します。ご希望の窓口案内のアナウンスが流れますので、FAX情報サービス窓口番号である「9」を押します。
FAX情報サービスにつながりますので、アナウンスにしたがい、BOX番号3002と＃を押し、お客様登録用紙を取り出してください。必要事項をご記入の上、FAXでお送りください。
※番号をよくお確かめになり、おかけください。

※すでにお客様登録がお済みのお客様は、保有商品の追加登録をお願いいたします。「121ware.com」のマイページ（http://121ware.com/my/)内の「保有商品情報」で、ご購入いただいた商品を追加することができます。

第4章

基本中の基本の操作

電源の入れ方／切り方、メモリーカードやCD-ROM、DVDのディスクをセットする方法など、このパソコンを使うときの最も基本的な操作を説明します。インターネットの接続や設定に進む前に、この章に目をとおしておくとよいでしょう。

パソコンを終了する

パソコンを終了するときは、NXパッドやマウスで操作します。本体のスイッチやボタンを押すのではありません。

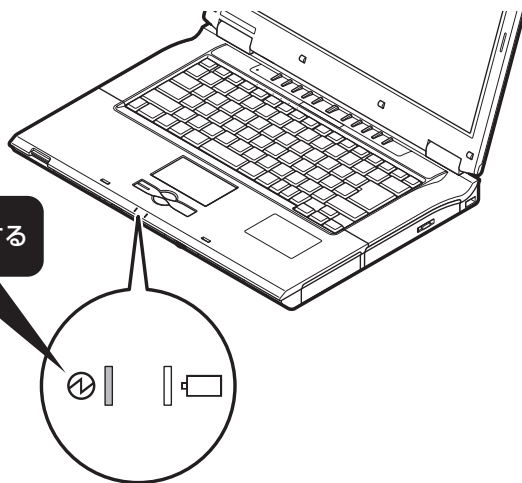
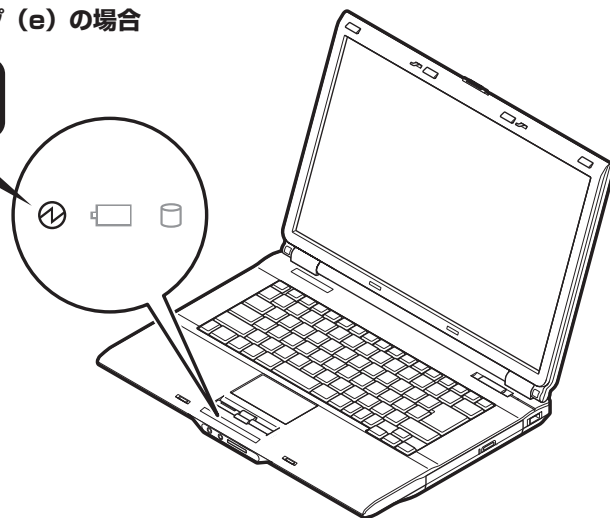
Windows Vistaでは、通常、パソコンを終了するときに電源を切らず（シャットダウンせず）、スリープ状態にします。スリープ状態は、電力の消費を抑えながら、すぐに作業を再開できるようにする省電力機能です。完全に電源を切りたい（シャットダウンしたい）場合は、「電源を切る（シャットダウンする）」（40ページ）をご覧ください。

1 画面を見ながら矢印を動かして、パソコンを終了する

Windows Updateなどが自動的におこなわれ、パソコンをいったん終了する必要があるときに、 が のように変わることがあります。その場合も、そのままクリックしてください。このとき、パソコンはスリープ状態ではなく電源を切った（シャットダウンした）状態になるため、次回パソコンを使うときに、通常よりも時間がかかります。

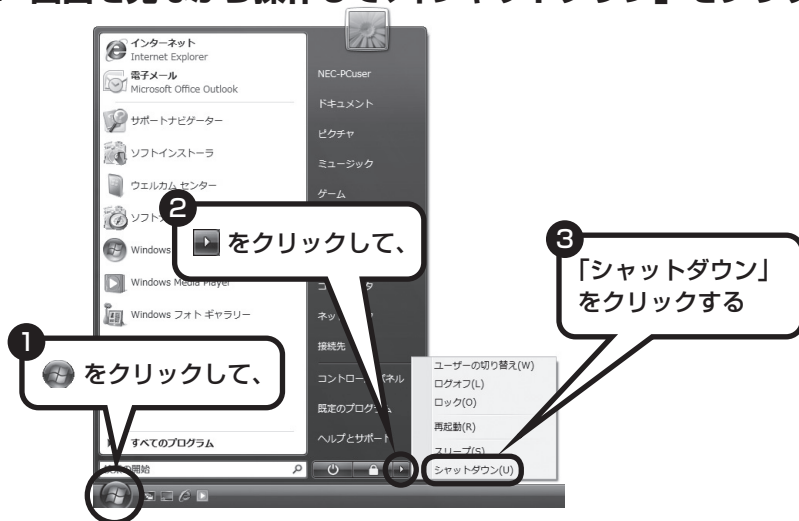
2 電源ランプを確認する

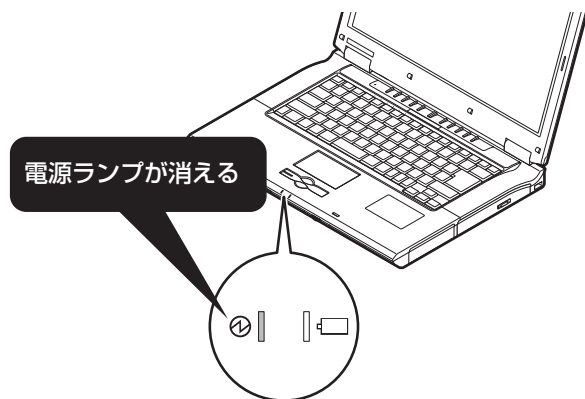
画面が暗くなり、スリープ状態になります。

LaVie Lアドバンストタイプの場合

LaVie Lスタンダードタイプ（e）の場合

スリープ状態の間は、少量の電力を消費します。スリープ状態になってから約30時間経ったとき、またはバッテリの電力だけでスリープ状態になり、バッテリの残量が少なくなったときは、自動的にパソコンが休止状態になり、電源ランプが消灯します。
休止状態からの復帰は、スリープ状態からの復帰よりも少し時間がかかります。
詳しくは「省電力機能について」(44ページ）をご覧ください。

電源を切る（シャットダウンする）

長期間パソコンを使わないときや、パソコン内部に機器を取り付けるときは、電源を切ります。電源を切ることを、「シャットダウン」と呼びます。

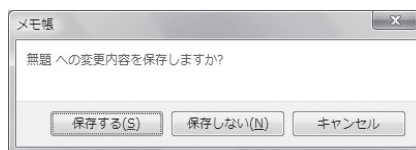
1 画面を見ながら操作して、「シャットダウン」をクリックする

2 電源が切れたことを確認する

数秒後に、画面が暗くなり、自動的に電源が切れます。

LaVie Lアドバンストタイプの場合　　**LaVie Lスタンダードタイプ（e）の場合**

電源が切れるまでに少し時間がかかることも

パソコンの状態によっては、「シャットダウン」をクリックした後、電源が切れるまでに数秒以上の時間がかかることもあります。あわてずにお待ちください。

保存していない文書があるとき

ソフトを使って文書などを作成している場合、文書を保存しないで電源を切ろうとすると、画面にメッセージが表示されることがあります。
そのままにしていると、数秒後、画面が暗くなり、メッセージが表示されます。
作成した文書などを保存したい場合、「次のプログラムが実行中です」の画面が表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。使用中のソフトで文書などを保存してから電源を切るようにしましょう。

続けて電源を入れる

いったん電源を切ってから電源を入れなおすときは、電源が切れてから5秒以上待って電源スイッチを押してください。

画面の操作で電源が切れないとき

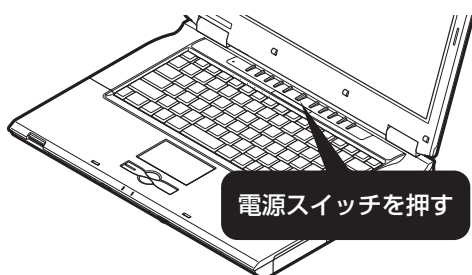
画面の表示が動かなくなったり、操作の途中でNXパッドやマウス、キーボードが反応しなくなったりして、パソコンの電源が切れなくなってしまうことがあります。その場合、パソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けると、強制的に電源を切ることができます。強制的に電源を切ったときは、電源が切れてから5秒以上待ち、もう一度電源スイッチを押してパソコンの電源を入れなおしてください。パソコンの電源が入ったら、改めて画面の操作で電源を切ってください。

パソコン本体の電源スイッチを押し続けて強制的に電源を切ると、パソコンに負担がかかります。何度も繰り返すと、パソコンが起動しなくなってしまうこともあるため、この方法で電源を切ることは、できるだけ避けてください。

パソコンを使い始める

電源スイッチを1秒程度押して
使い始めます。

電源スイッチを押す

LaVie Lアドバンストタイプの場合

LaVie Lスタンダードタイプ（e）の場合

プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコンを使い始める前に周辺機器の電源を入れてください。

使う人の名前が画面に表示されるので、名前の上のアイコンをクリックしてください。Windowsのパスワードを設定している場合は、続けてパスワードも入力してください。

デスクトップ画面が表示されます。

モデルによって、表示される画面の絵柄が異なる場合があります。

- **電源スイッチを押してから、デスクトップ画面が表示されて、CD/ハードディスクアクセスランプが点滅しなくなるまで、パソコンを操作したり、電源スイッチを押したりしないでください。無理に電源を切ると、故障の原因になります。**
- **電源を切った（シャットダウンした）状態で電源スイッチを押し電源を入れた場合は、使う人の名前とアイコンは画面に表示されずにデスクトップ画面が表示されます。しかし、複数のユーザーを登録している場合、デスクトップ画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。**
- **パソコンの電源を切ったときや、パソコンが休止状態になっていたときは、デスクトップ画面が出て、CD/ハードディスクアクセスランプが点滅しなくなるまでにすこし時間がかかります（長い場合5分、通常は1 ～ 2分程度）。**

省電力機能について

パソコンを使わないと、自動的に省電力状態になるようになっています。また、LaVie Lアドバンストタイプの場合は、ECOボタンを使って電力を節約することもできます。

10分以上使わないと自動的に画面が消える（ご購入時）

ご購入時には、パソコンを操作していない時間が続くと、自動的にパソコンが省電力状態になるように設定されています。パソコンを使っていない時間によって、「ディスプレイの電源を切る」、「スリープ状態」、「休止状態」の3つの段階があります。

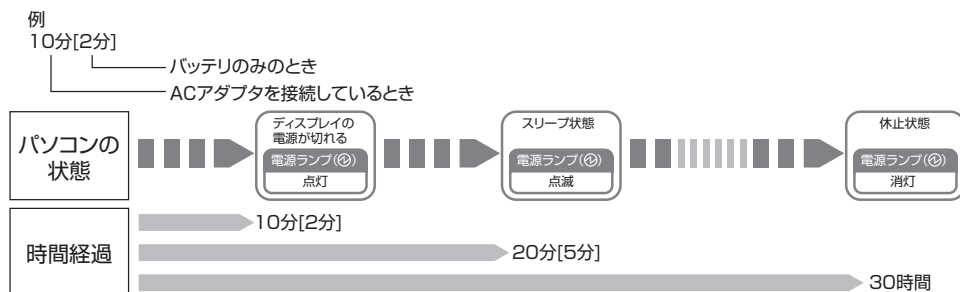
省電力状態について

それぞれの省電力状態は、次のように電力を節約します。

・ディスプレイの電源を切る
パソコンは起動したまま、ディスプレイの電源だけを切ります。通常よりも少し消費電力が下がります。

・スリープ状態
ハードディスクなどの電源を切り、消費電力を節約している状態です。パソコンの電源は完全には切れていません。作業中のデータがメモリに保存されているため、わずかに電力を消費しますが、スリープ状態を解除すると、すぐに作業の続きを始めることができます。

・休止状態
パソコンの状態や作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずにパソコンの電源を切っている状態です。消費電力は、シャットダウンしたときとほとんど同じです。普通に電源を切るのとは異なり、Windowsを終了せずに電源を切るため、休止状態からもとの状態に戻すときにWindowsが起動する時間は省かれます。ただしスリープ状態からもとの状態に戻すよりも時間がかかります。

パソコンを使っていない時間と省電力状態

ハイブリッドスリープについて

このパソコンでは、ご購入時の状態で「ハイブリッドスリープ」をおこなうように設定されています。「ハイブリッドスリープ」は、スリープ状態になるのと同時に、ハードディスクにも作業中のデータを保存します。これによって、スリープ状態のときに電源コードが抜けるなどしても、作業内容を失わずに再開できます。
ハイブリッドスリープは、使用しないように設定することもできます。設定方法については、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「省電力機能」をご覧ください。

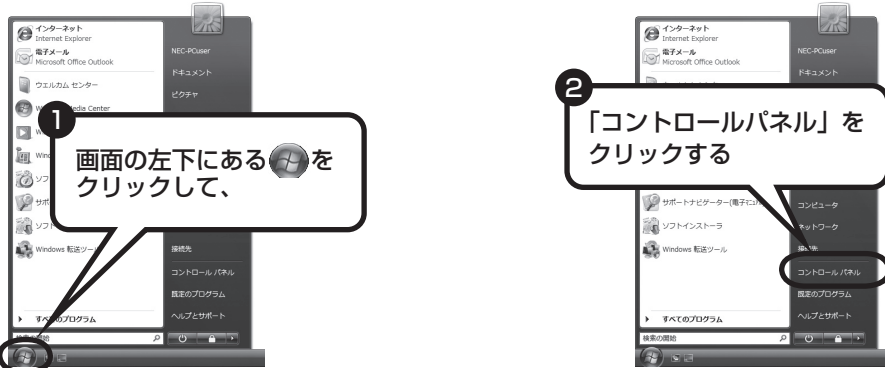
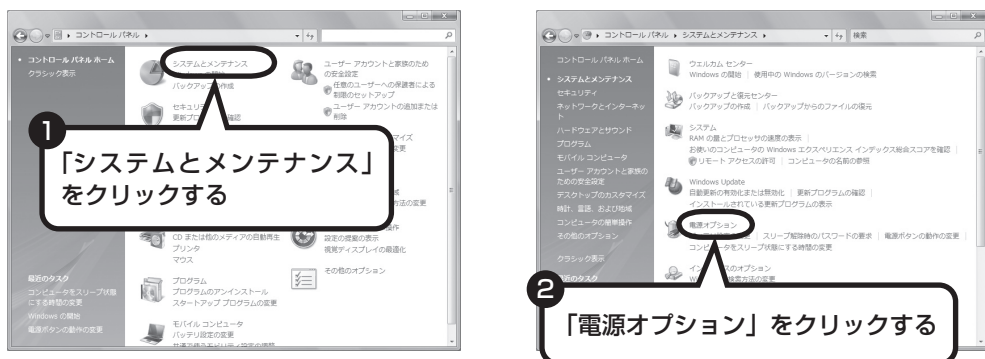
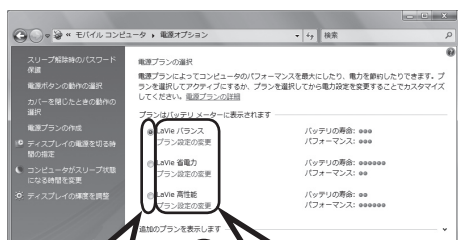
暗くなった画面をもとに戻すには

まず、キーボードのキー(【Shift】など)を押してください。キーボードのキーを押しても画面が暗いままのときは、電源スイッチを軽く1回押してください。

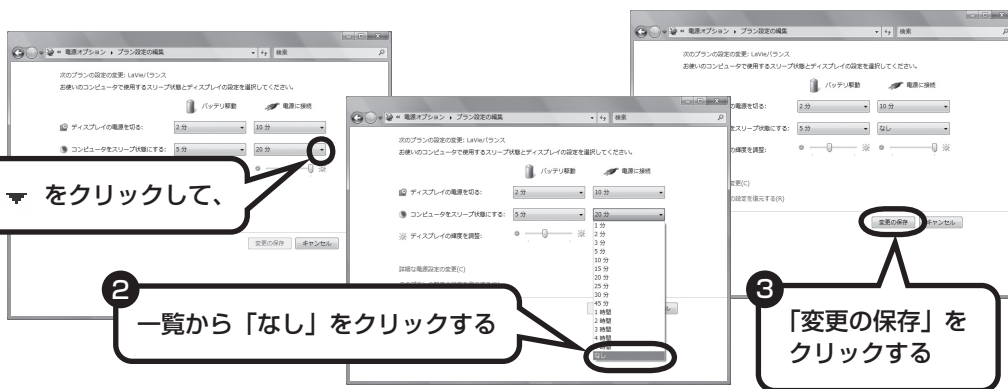
電源スイッチを押し続けないでください。4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

自動的にスリープ状態にならないようにするには

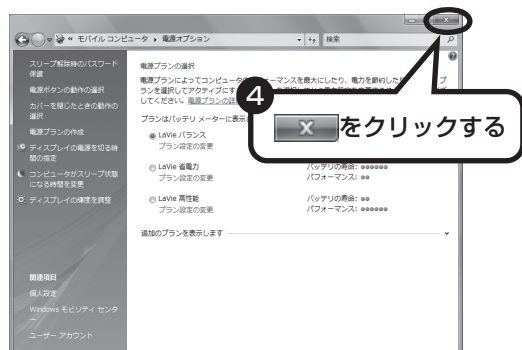
次の手順で、自動的にスリープ状態にならないように設定を変えることができます。

1 コントロールパネルの画面を表示する

2「システムとメンテナンス」、「電源オプション」の順にクリックする

3 設定したい電源プランをクリックし、電源プランの下の「プラン設定の変更」をクリックする

画面左側の「コンピュータがスリープ状態になる時間を変更」をクリックして、現在選択されている電源プランの設定を変更することもできます。

4「コンピュータをスリープ状態にする」で「なし」に変更する

この画面で「ディスプレイの電源を切る」までの時間も設定できます。

❶ ▼ をクリックして、

❷ 一覧から「なし」をクリックする

❸「変更の保存」をクリックする

❹ ✕ をクリックする

これで、設定の変更は終わりです。

省電力機能の詳しい説明は、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」で

スリープ機能は、このパソコンが備えている「省電力機能」のひとつです。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「省電力機能」に説明があります。

ECOボタンを使う(LaVie Lアドバンストタイプのみ)

ECOボタンは、押すだけでパソコンの消費電力のモード(Windows Vistaでは電源プランと呼びます)を切り換えることができる機能です。ECOボタンを上手に活用することで、バッテリの消耗を抑えたり、必要なときに機能を最大限に引き出すことができるようになります。
電力の節約とパフォーマンスのバランスによって、次の3つのモードがあります。

ECOボタンのランプの色	電源モード	パソコンの状態
青色	LaVie高性能	電力の節約よりもパフォーマンスを優先した設定です。
水色	LaVieバランス	パフォーマンスと電力の節約のバランスをとった設定です。
緑色	LaVie省電力	パフォーマンスよりも電力の節約を優先した設定です。

※ご購入時の状態では、「LaVieバランス」に設定されています。

たとえば、外出先でバッテリのみで使用するときは、「LaVie省電力」に設定しておくとバッテリが長持ちします。比較的電力を必要とする処理をするときは、「LaVie高性能」に設定すると、処理が速くおこなわれます。
また、表の中の3つの電源プランのほかにも、使用状況や目的に応じた電源プランが用意されています。DVDやゲームでパソコンを使うことが多い人は、「DVD/ゲーム」という電源プランをECOボタンに設定しておくと、DVDを見る前に、ボタン操作ひとつで、DVD視聴に適した状態に変更できます。

ECOボタンの設定について詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「キーボード/ワンタッチスタートボタン」をご覧ください。

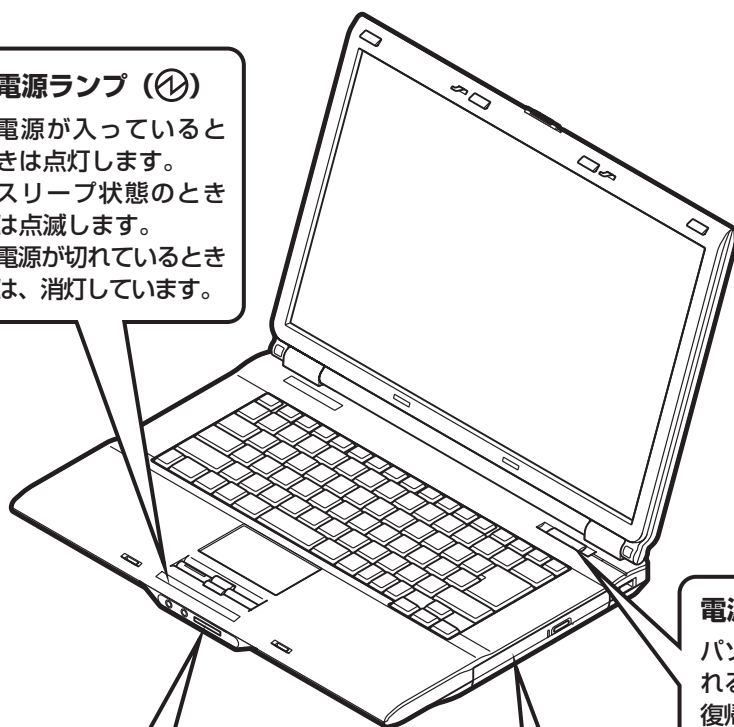
よく使うボタンなど

ここでは、基本的なボタンなどにかぎって説明します。そのほかのボタンなどについて知りたいときは、巻末の「各部の名称」をご覧ください。

LaVie Lアドバンストタイプ

LaVie Lスタンダードタイプ（e）

電源ランプ（ ）

電源が入っているときは点灯します。
スリープ状態のときは点滅します。
電源が切れているときは、消灯しています。

電源スイッチ（ ）

パソコンの本体の電源を入れるとき、省電力状態から復帰するときに押します。

トリプルメモリースロット

デジタルカメラで撮影した写真などをパソコンに取り込むときは、ここにメモリーカードを差し込みます。

DVD/CDドライブ

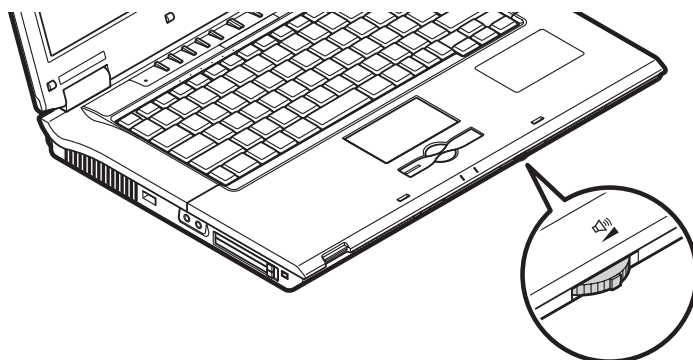
CD-ROMやDVD-Video、音楽用CDなどを楽しむときは、ここにセットします。ランプが点灯しているときは、ディスクを取り出さないでください。

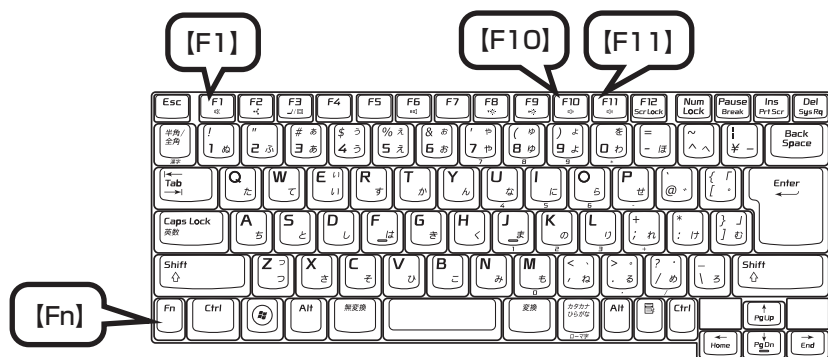
音量を調節する

パソコンの音が大きすぎる、小さすぎると感じたときは、音量を調節できます。

音量を調節する方法

LaVie Lアドバンストタイプの場合

音量調節つまみを右にまわすと大きく､左にまわすと小さくなります。音量調節つまみを押すと、音声のオン/オフが切り換えられます。画面右下の通知領域に が表示されているときは音声が消え、 が表示されているときは音声が聞こえます。

LaVie Lスタンダードタイプ（e）の場合

キーボードのキーを使って、内蔵スピーカの音量を調節します。
【Fn】を押しながら【F10】を押すと、音が小さくなります。
【Fn】を押しながら【F11】を押すと、音が大きくなります。
【Fn】を押しながら【F1】を押すと、音声のオン/オフが切り換えられます。画面右下の通知領域に が表示されているときは音声が消え、 が表示されているときは音声が聞こえます。

音量調節つまみ、キーボードから音量を変更するとき、起動しているソフトによっては、音量の表示が変わらない場合があります。

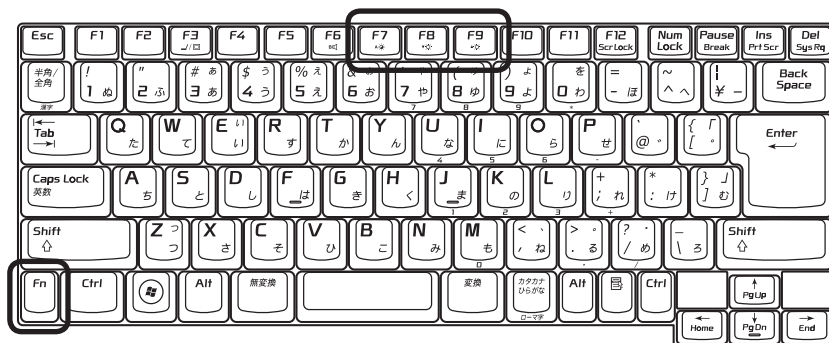
画面の輝度を調節する

画面が明るすぎる、暗すぎると感じたときは、ディスプレイの輝度を調節できます。

輝度を調節する方法

輝度は、キーボードから調節できます。

・【Fn】を押しながら【F9】を押す　：輝度が上がります。
・【Fn】を押しながら【F8】を押す　：輝度が下がります。
・【Fn】を押しながら【F7】を押す※：輝度の自動調節がオンになり、周囲の明るさにあわせて自動的に輝度が変わるようになります。もう一度【Fn】を押しながら【F7】を押すと、輝度の自動調節がオフになります。

※LaVie Lアドバンストタイプのみ

イラストはモデルによって多少異なります。

・キーボードで輝度を調節した場合、省電力状態から復帰したり、パソコンを再起動するともとの輝度に戻ります。いつも同じ輝度で使用したいときは、次の「起動時の輝度を設定するときは」をご覧ください。

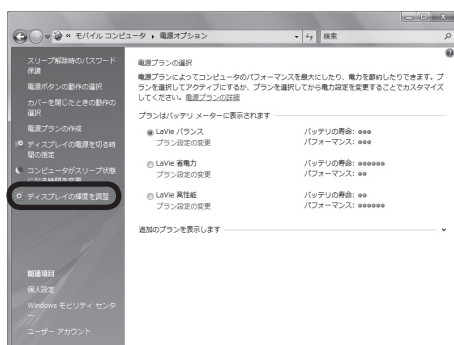
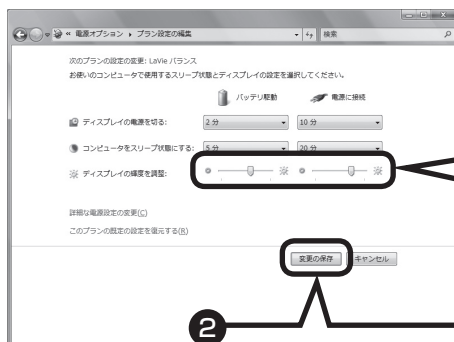
・LaVie Lアドバンストタイプの場合、輝度を変更すると、輝度の自動調節機能はオフになります。

・ワンタッチスタートボタンを無効に設定しているか、または終了させている場合は、輝度の自動調節は有効になりません。また、オンスクリーン表示は表示されません。

起動時の輝度を設定するときは

いつも同じ輝度で使用する場合は、次の手順で起動時の輝度を設定してください。

1 「スタート」-「コントロールパネル」-「システムとメンテナンス」-「電源オプション」をクリックする

2 画面左の「ディスプレイの輝度を調整」をクリックする

3 ディスプレイの輝度を設定する

輝度が変更され、「電源オプション」画面に戻ります。

をドラッグしただけでは輝度は変更されません。「変更の保存」をクリックすると、輝度が変更されます。

4 をクリックする

これで、起動時の輝度が設定されました。次回から、設定した輝度でパソコンが起動します。

メモリーカードの扱い方

ここでは、メモリーカードを使うときの注意事項や、使用方法について説明します。

使用できるメモリーカードについて

このパソコンでは「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「メモリースティック」、「メモリースティックPRO」、および「xD-ピクチャーカード」を使うことができます。「miniSDカード」、「microSDカード」、「メモリースティックDuo」、「メモリースティックPRO Duo」も使用できます。ただし、市販のアダプタが必要になります。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンにつなげる」-「トリプルメモリースロット」をご覧ください。

- **すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。メモリーカードの説明書をよく読んでから使用してください。**
- **大切なデータはハードディスクなどにコピーして、バックアップを取っておくことをおすすめします。**

取り扱い上の注意

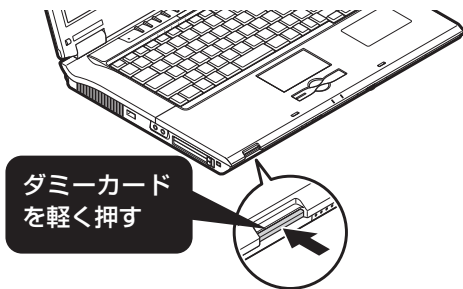
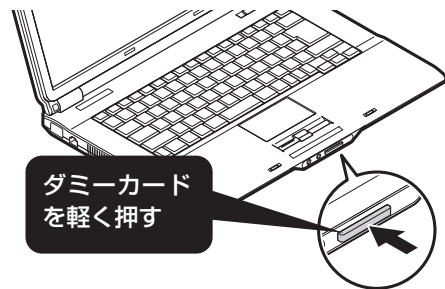
メモリーカードを取り扱う際は、次のことに気を付けてください。

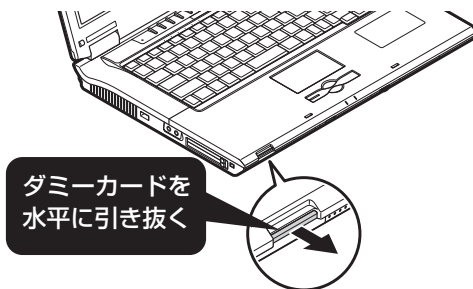
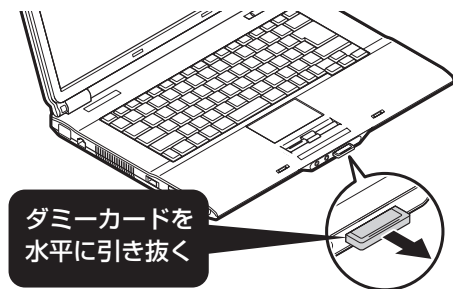
- 静電気による故障を防ぐため、静電気を放電してからメモリーカードを取り扱ってください。
- 小型のメモリーカードなど、アダプタが必要なカードは、必ずアダプタを装着してください。
- メモリーカードは、方向を確認して取り付けてください。
- メモリーカードスロットには、対応以外のメモリーカードを挿入しないでください。
- メモリーカードの読み込み／書き込み中は、メモリーカードスロットからメモリーカードを取り出さないでください。
- メモリーカードやトリプルメモリースロットの金属端子部分を触らないでください。
- 裏面に導通性がある金属が使用されているメモリーカードや変換アダプタは使用しないでください。
- 汚れたメモリーカードは、汚れをとってからトリプルメモリースロットに取り付けてください。
- 分解しないでください。
- 上に重いものを載せたり、曲げたりしないでください。
- 溶剤類、飲み物などを近づけないでください。
- クリップなどではさんだり、投げたり、落としたりしないでください。
- ゴミやホコリが多い場所での使用は避けてください。
- 使わないときは収納箱に入れて保管してください。
- 直射日光の当たる場所、暖房器具の近くなど温度が高くなる所、ゴミやホコリが多い所に置かないでください。
- 長期期間使用しないときは、メモリーカードやアダプタを、トリプルメモリースロットに取り付けたままにしないでください。
- メモリーカードには、添付の指定ラベル以外を貼らないでください。
- メモリーカードには、指定の貼付箇所以外にラベルを貼らないでください。

- **Windows上でメモリーカードのフォーマットやディスクデフラグをおこなわないでください。**
- **メモリーカードにデータを保存中または読み込み中にPCカードなどの周辺機器を接続しないでください。また、データの保存中はスリープ状態にしないでください。メモリーカード内のデータが破損したり誤動作の原因になります。**

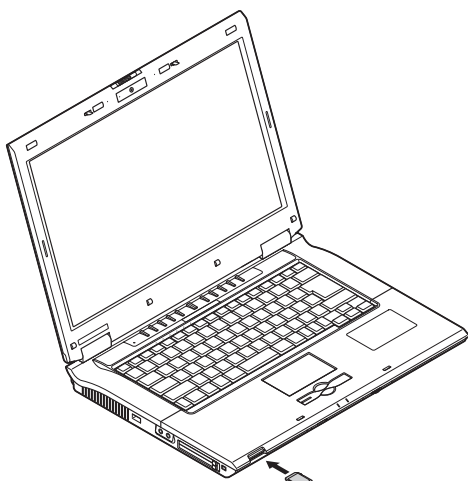
1 ダミーカードを取り外す

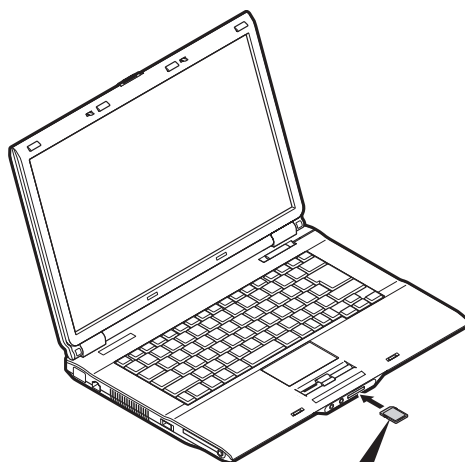
はじめてご使用になるときは、トリプルメモリースロットにダミーカードが取り付けられています。取り出してから使用してください。

LaVie Lアドバンストタイプの場合

LaVie Lスタンダードタイプ（e）の場合

ダミーカードが少し出てきます。

LaVie Lアドバンストタイプの場合

LaVie Lスタンダードタイプ（e）の場合

2 メモリーカードを差し込む

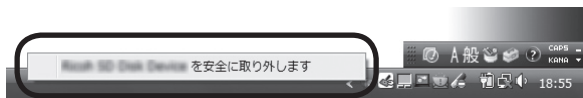
- 「miniSDカード」、「microSDカード」、「メモリースティックDuo」、「メモリースティック PRO Duo」を使う場合は、アダプタに差し込んでおいてください。アダプタの装着方法について詳しくは、メモリーカードまたはアダプタの説明書をご覧ください。
- メモリーカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向が決まっています。間違った向きで無理に差し込むと、カードやスロットが破損することがあります。詳しくは、メモリーカードの説明書をご覧ください。

LaVie Lアドバンストタイプの場合

メモリーカードの表面を上にして、トリプルメモリースロットに奥までしっかり差し込む

LaVie Lスタンダードタイプ（e）の場合

メモリーカードの表面を上にして、トリプルメモリースロットに奥までしっかり差し込む

メモリーカードをセットしたとき、「自動再生」の画面が表示されることがあります。表示された項目を選ぶと、フォルダを開いてファイルを表示したり、ソフトを使って画像を表示することができます。

3 メモリーカードを取り外す準備をする

画面右下の通知領域にあるをクリックすると表示される「××××を安全に取り外します」で、取り外す機器名をクリックします。

「このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます」というメッセージが表示されたら「OK」をクリックしてください。

- **画面右下の通知領域にが表示されていないときは、をクリックしてください。**
- **トリプルメモリースロットアクセスランプ点灯中は、メモリーカードを絶対に取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因になります。**
- **LaVie Lスタンダードタイプ（e）には、トリプルメモリースロットアクセスランプがありません。メモリーカードを取り出すときは、ファイルのコピーなどアクセス中でないことをよくお確かめください。**

4 メモリーカードを取り外す

手順1でダミーカードを取り外したのと同じ方法で、メモリーカードを取り外します。
メモリーカードを取り外した後は、手順2と同じ方法で、ダミーカードをトリプルメモリースロットに差し込んでください。

CD-ROMやDVDの扱い方

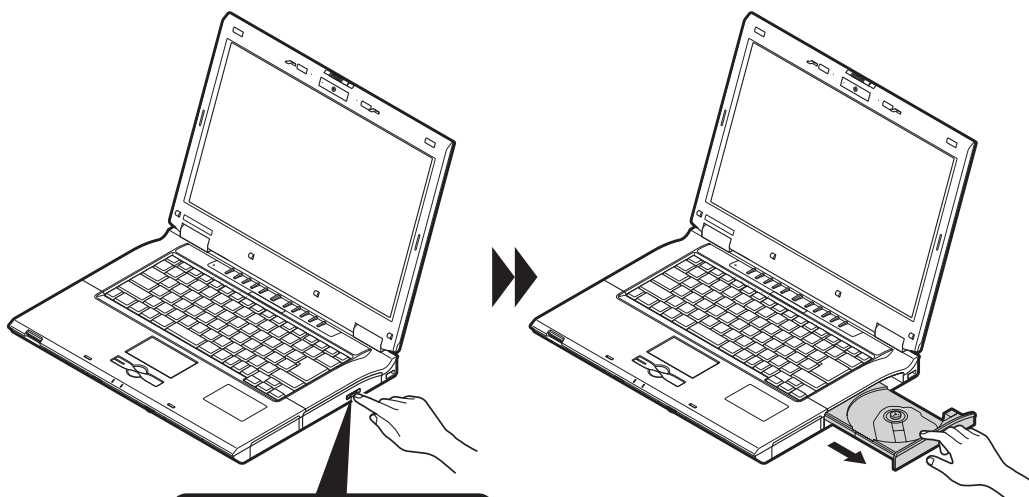
CD-ROMやDVDなどをパソコンで楽しむときの取り扱い上の注意、入れ方と出し方を説明します。

- DVD/CDドライブ内のレンズには触れないでください。
- ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、使用時の振動や故障の原因になります。
- このパソコンにインストールされているOS以外のOSに対応したCDやDVDは、使えないものがあるため、ご購入前に確認してください。
- 使用するディスクによっては、最高速度で書き込み、読み込みができない場合があります。
- このパソコンで使えるディスクについて詳しくは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「DVD/CDドライブ」をご覧ください。

ディスクを取り扱うときの注意

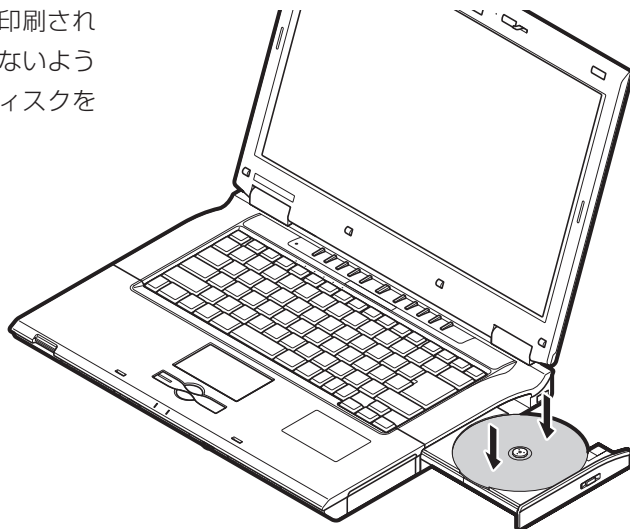
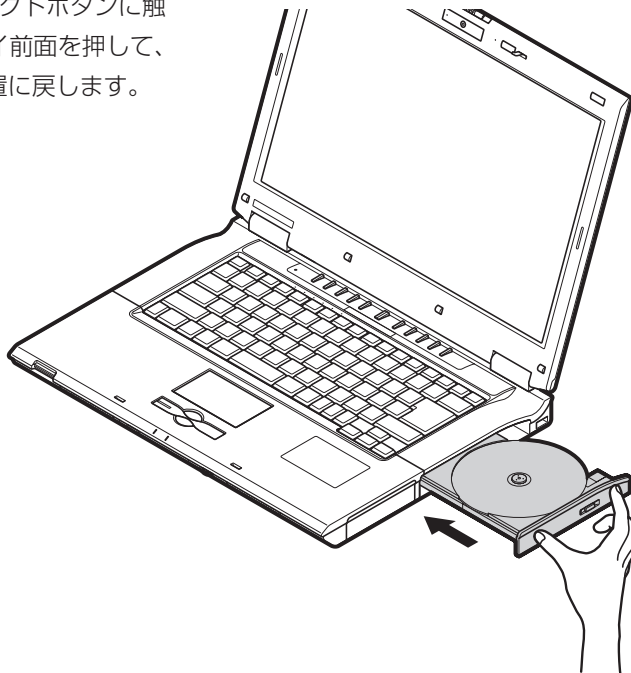
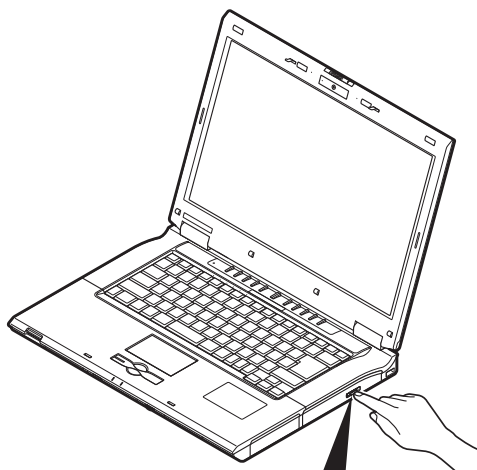
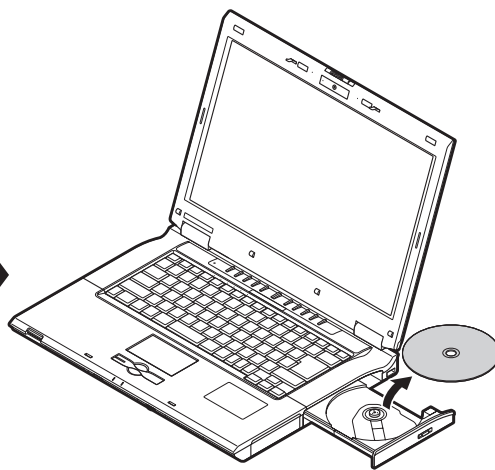
次の注意事項を守ってください。

- データ面（文字などが印刷されていない面）に手を触れない。
- ディスクにラベルを貼ったり、傷つけたりしない。
- ラベル面に文字を書くときは、フェルトペンなどペン先の柔らかいものを使う。
- ディスクの上に重い物を載せない。ディスクを曲げたり落としたりしない。
- 汚れたときは、柔らかい布で内側から外側に向けてふく。
- 汚れが落ちにくいときは、CD専用のスプレーを使う。
- ベンジン、シンナーなどは使わない。
- ゴミやホコリの多い場所で使わない。
- 直射日光の当たる場所や湿度の高い場所に保管しない。

1 イジェクトボタンを押してディスクトレイを出す

ディスクトレイが少し飛び出したら、手で静かに引き出します。

- ディスクトレイは、パソコンの電源が入っているときのみ出すことができます。
- レンズ保護シートがあらかじめ取り付けられている場合は、使用する前に必ずレンズ保護シートを取り外してください。

2 ディスクを入れる

ディスクのデータ面（文字などが印刷されていない面）を下にして、傷つけないようディスクトレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりはめ込みます。

DVD/CDドライブのイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイ前面を押して、ディスクトレイをもとの位置に戻します。

3 ディスクを取り出す

ディスクを取り出したら、ディスクトレイを押して、収納してください。

パソコンの基本的な使い方を学ぶ「パソコンのいろは3」

「パソコンのいろは3」を使って、パソコンやWindows Vistaの基本操作を学んでみましょう。パソコンを使うのがはじめてというかたは、インターネットを始める前にキーボードで文字を入力する練習をしておくことをおすすめします。

「パソコンのいろは3」で操作を学ぶ

このパソコンには、基本的なことからパソコンの操作が学べる「パソコンのいろは3」が入っています。「パソコンのいろは3」では、文字の入力、電子メールのやりとり、ホームページを見る方法などを学ぶことができます。パソコンやWindows Vistaの基本操作を覚えたいかたは、次の手順にしたがって「パソコンのいろは3」で学習を始めてみましょう。

ほかのソフトが起動しているときは、「パソコンのいろは3」を始める前にすべて終了させてください。

1 ランプを確認する

のランプが消えていること

【NumLock】(ニューメリックロック) を押すと、ランプの点灯/消灯が切り換わります。

のランプが消えていること

【Shift】(シフト) を押したまま【CapsLock】(キャップスロック) を押すと、ランプの点灯/消灯が切り換わります。
【Shift】はキーボードに2つありますが、どちらか1つを押すだけでかまいません。

※イラストはモデルによって多少異なります。

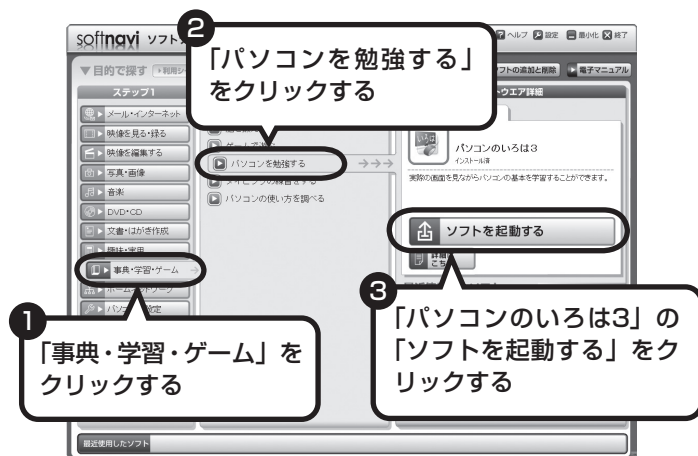
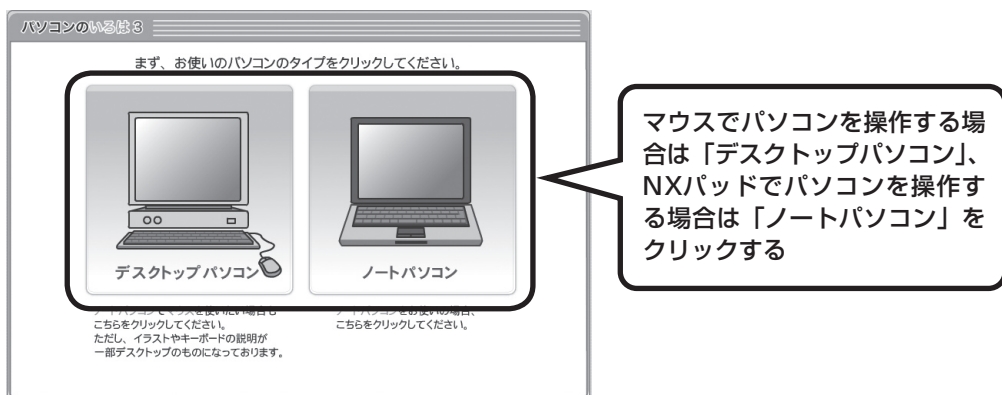
2 ソフトナビゲーターを起動する

ソフトナビゲーターの最初の画面が表示されます。

LaVie Lアドバンストタイプの場合、ご購入時の状態では、キーボード上部の【ソフト】ボタンを押してもソフトナビゲーターを起動できます。

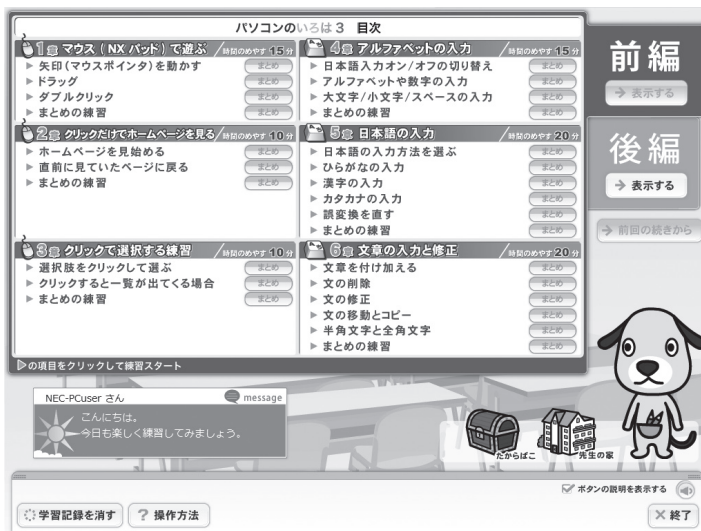
ソフトナビゲーターとは

このパソコンに入っているソフトを見つけたり、使い始めるときに利用します。
「ソフトナビゲーター」では、画面左の「ステップ1」からやりたいことのジャンルをクリックして、「ステップ2」でやりたいことの内容をクリックすると、必要なソフトが自動的に選ばれます。選ばれたソフトの「ソフトを起動する」をクリックすると、ソフトを使い始められます。
「ソフトナビゲーター」について詳しくは、『活用ブック』の「パソコン初心者道場」-「基本編」をご覧ください。

3 「パソコンのいろは3」を始める

自動的に「パソコンのいろは3」が始まります。

パソコンを使うのがはじめてのかたは、1章から順番に始めてください。章や項目のどこからでも始められ、1～2時間で文字の入力まで練習することができます。練習の途中で「パソコンのいろは3」を終了させることもできます。その場合、画面右下に表示されている「終了」をクリックしてください。画面中央に確認の画面が表示されるので、「終了します」をクリックすると「お疲れさまでした。」と表示され、終了します。

「終了」をクリックしても終了しないときは、キーボードの【Esc】を押してから、再度「終了」をクリックしてください。

途中から練習するときは

次回から、「パソコンのいろは3」を起動すると、目次が表示されるようになります。やりたい章や項目をクリックすると、練習を始められます。

はじめてWindows Vistaを使うときは

Windows Vistaを使うのがはじめてのかたは、12章の「Windows Vistaを使う」に目をとおしておくとよいでしょう。サイドバーの使い方や、電源の切り方など、今までのOSとは違ったWindows Vistaの機能を学ぶことができます。

12章を表示するには、「パソコンのいろは3」の目次で、画面右側にある後編の「表示する」をクリックしてください。

パソコンの画面で解説、検索「サポートナビゲーター」

紙で見るマニュアルのほかに、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」があります。このパソコンのさらに詳しい使い方を知りたいとき、パソコンを使っていて困ったときに見てみましょう。

サポートナビゲーターを起動する

「サポートナビゲーターの使い方」のムービーが表示された後、「サポートナビゲーター」の最初の画面が表示されます。

ムービーは、をクリックして省略することもできます。

目的に応じて3つの入り口があります。これから知りたいこと、やろうとしていることに合わせて、ボタンをクリックしてください。

▶安心安全に使う

インターネットを安心して使うためのウイルス対策やセキュリティの設定などについて説明しています。

▶ 使いこなす

Windowsの便利な使い方、このパソコンに入っているソフトの使い方、このパソコンの各部の機能や設定についての詳しい情報など、一歩進んだ使い方を説明しています。

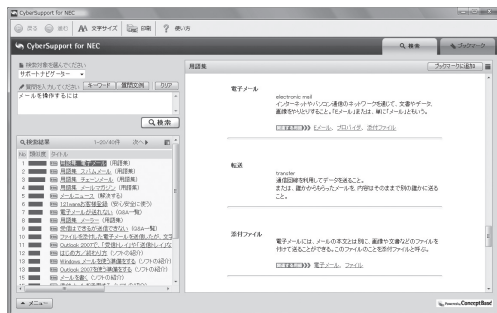
▶ 解決する

うまくいかないときや、故障かな？と思ったときに利用してください。サポート窓口への問い合わせ方なども説明しています。

「サポートナビゲーター」の詳しい内容については、付録の「「サポートナビゲーター」詳細目次」（170ページ）をご覧ください。

知りたい項目を検索してみる

知りたい項目が見つからないときは、キーワードを入力して検索してみましょう。

選んだ検索範囲の中から、入力したキーワードが含まれる項目が検索されます。

はじめて検索するときは、CyberSupportの「使用許諾契約書」が表示されます。内容をよく読み、「同意する」をクリックしてください。その後、パソコンが検索するための設定をおこないますので、結果が出るまで少しお待ちください。
次回からは、すぐに結果が出るようになります。

詳しい機能については「パソコン各部の説明」

このパソコンのいろいろな部分の機能や使い方を知ろう

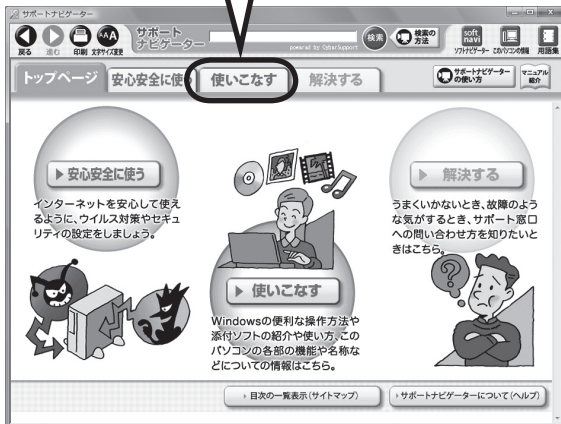
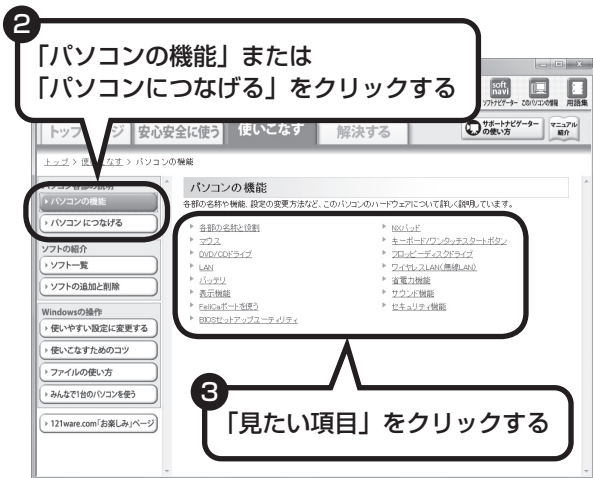
ここで紹介しているボタンやドライブについて、詳しく知りたいときには、「パソコン各部の説明」を見てみましょう。たとえば、次のような機能や使い方について知ることができます。

・ワイヤレススイッチ
　ワイヤレスLAN(無線LAN) が使えます。パソコンにケーブルをつなぐことなくインターネットへのアクセスができます。

・省電力機能
　省電力機能は、作業を中断しているときでもパソコンの電源を切らずに消費電力を節約し、すぐに作業を再開できる便利な機能です。

ほかにも、「パソコン各部の説明」では、このパソコンの便利な設定の方法についても詳しく説明しています。

「パソコン各部の説明」を見るためには

1 「使いこなす」をクリックする

「パソコン各部の説明」の画面が表示されます。画面左のしおりをクリックすると、ほかのページを見ることができます。

もしものときに備えて

ポイント

● バックアップ、再セットアップディスク、パスワードでもしもに備える

大切なデータはバックアップを取る

バックアップとは

パソコンに内蔵されているハードディスクには、大切なデータが保存されています。このハードディスクは、ちょっとした衝撃によって壊れたり、長期間使用するうちに突然動かなくなったりすることがあります。このような場合、ハードディスクを交換したり再セットアップすることでパソコンをご購入時の状態に戻すことはできますが、大切なデータが失われてしまいます。万一のアクシデントに備えて、データの控えを残しておきましょう。このデータの控えのことを「バックアップ」と呼びます。

DVD-RやCD-Rなどにもバックアップを取っておく

このパソコンに搭載されている「バックアップ･ユーティリティ」というソフトを使って、バックアップを取ることができます。「バックアップ・ユーティリティ」の使い方について詳しくは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップを始める前に」-「データのバックアップを取る」をご覧ください。

ただし、ハードディスクのDドライブという場所にバックアップを取っておいても、ハードディスク自体が故障したときは、データをもとに戻すことができません。別売のDVD-RやCD-Rなどにもバックアップを取っておくことをおすすめします。

- セキュリティ機能を使用してデータのバックアップを取る場合、パスワードを控えておいてください。パスワードを忘れると復元できなくなります。
- セキュリティ機能を使用してDVDやCDにデータのバックアップを取る場合や、バックアップを取ったデータを参照・復元する場合、ハードディスクに一時的にデータをコピーする必要があります。そのため、バックアップを取ったデータのサイズに応じて、ハードディスクのいずれかのドライブに約0.9 〜 50Gバイトの空き容量が必要です。

ハードディスク全体のバックアップを取る

「Total Restore」というソフトを使うと、ハードディスク全体をDドライブやDVDなどのディスクにバックアップしたり、復元したりできます。
インターネットやメールの設定や、ソフトの設定など、すべておこなった状態をバックアップ/復元できるので便利です。
まずは、第5章または第6章の作業が終わり、インターネットの設定が完了した直後にハードディスクのバックアップを取っておくことをおすすめします。
そのほか、トラブルが起きたときのために、色々な設定が終わった状態のバックアップを取っておくとよいでしょう。
「Total Restore」は、「ソフトナビゲーター」-「パソコンの設定」-「ハードディスクを丸ごとバックアップ/復元する」-「Total Restore」の「ソフトを起動する」をクリックして起動してください。

「Total Restore」の使い方については『パソコンのトラブルを解決する本』の「ハードディスクをバックアップ/復元する」をご覧ください。

データを保存しておくだけでもバックアップになる

「バックアップ・ユーティリティ」を利用するほかに、大切なデータを定期的にDVD-RやCD-R、外付けのハードディスクなどに保存しておくだけでもバックアップの効果があります。

再セットアップディスクを作成しておく

トラブルがどうしても解決できないときにおこなう「再セットアップ」は、通常、ハードディスク内にある再セットアップ用データを使います。しかし、ハードディスクが故障した場合は、この方法で再セットアップすることができなくなります。そのような場合に備え、再セットアップディスクを作成しておき、そのディスクから再セットアップすることができるようにしておきましょう。再セットアップディスクを作成する方法については、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを作成する」をご覧ください。

再セットアップディスクは、ご購入時の製品構成以外では、作成できないことがあります。

Windows起動時のパスワードを設定する

不正アクセス被害防止や情報の保護など、セキュリティ対策のため、Windows起動時にパスワードを入力する設定をしておくことをおすすめします。
手順については、「Windowsのパスワードを設定する」(33ページ)をご覧ください。

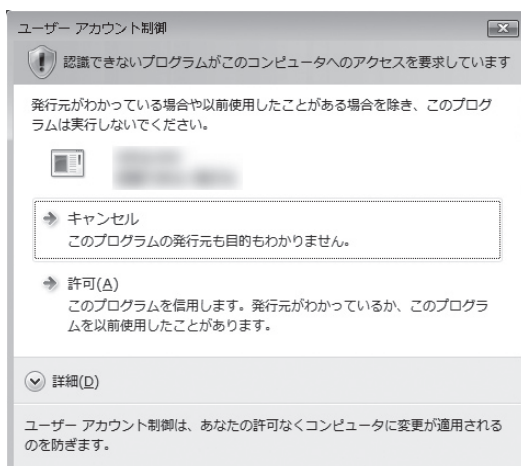
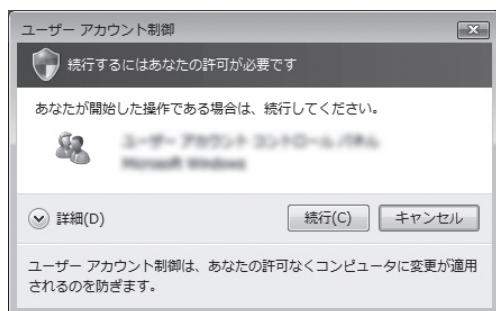
ユーザー アカウント制御について

ポイント

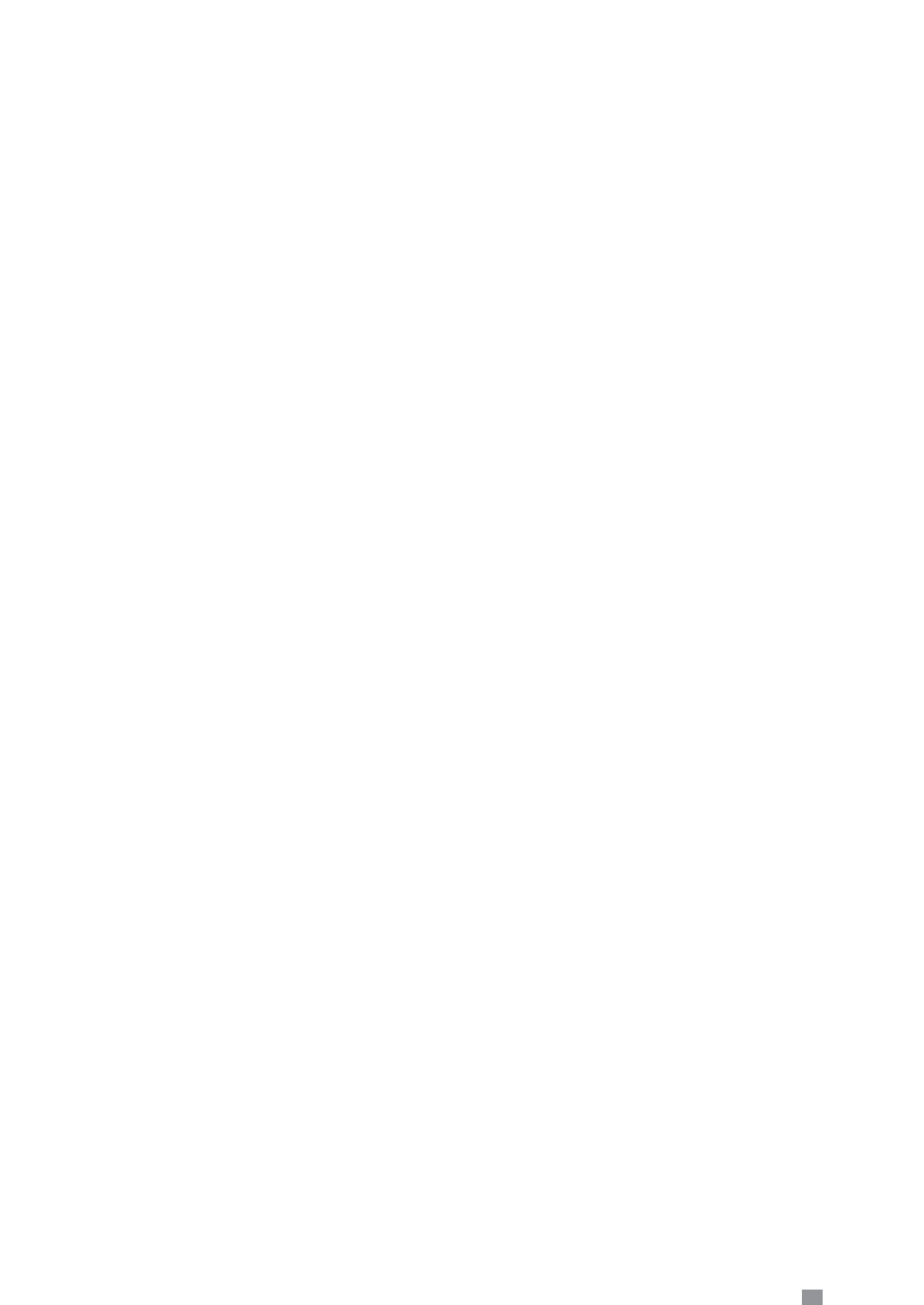
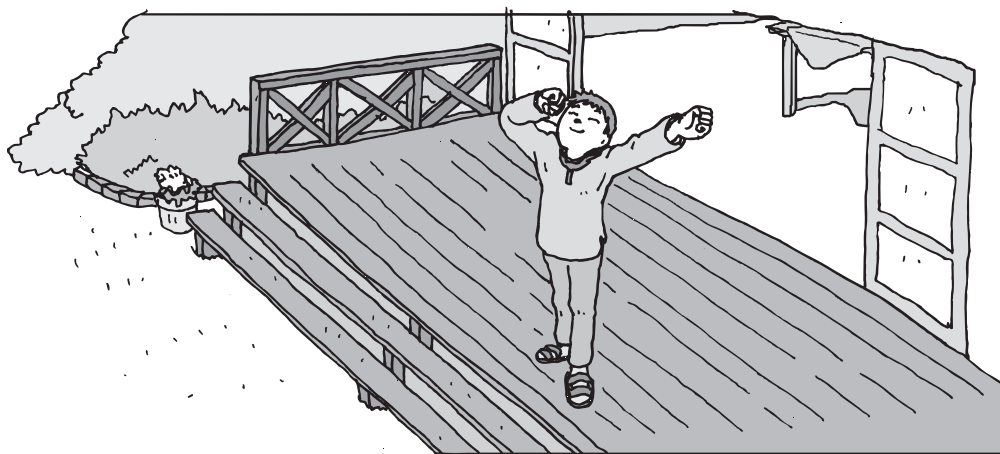
●「ユーザー アカウント制御」でパソコンを守る

内容をよく読んで操作する

ソフトを起動したり、操作しているときに、次のような「ユーザー アカウント制御」画面が表示されることがあります。

「ユーザー アカウント制御」は、パソコンのシステムに影響を及ぼす可能性のある操作がおこなわれたときに、その操作がユーザーの意図したものかどうかを確認するためのものです。コンピュータウイルスなどの「悪意のあるソフトウェア」からパソコンを守るために、「ユーザー アカウント制御」画面で表示された内容をよく読んで操作してください。

※プログラムによっては、メッセージが異なることがあります。

「ユーザー アカウント制御」画面で「管理者」ユーザーのパスワードが必要な場合があります。

第 5 章

これからインターネットを始めるかたへ

インターネットを利用してホームページを楽しんだり、メールをやりとりするためには、パソコンを通信回線に接続し、インターネット接続業者（プロバイダ）に入会する必要があります。ここでは、はじめて自分のパソコンでインターネットを始めるかたを対象に、接続や設定の手順を説明します。前に持っていたパソコンで、すでにインターネットを利用していたかたは、「第6章　パソコンを買い替えたかたへ」（113ページ）へ進んでください。

インターネットの接続方法

インターネットを利用するための接続方法には、いろいろなものがあります。高速なブロードバンド接続と、それ以外に大きく分けられます。

ブロードバンド接続

FTTH(エフティーティーエイチ)

光ファイバーを使ってインターネット接続をする方法です。回線事業者によってサービスの名前が異なります（Bフレッツなど)。
ほかのブロードバンド接続よりも高速な通信をおこなえます。また、受信だけではなく送信速度も高速なため、大きなデータのやりとりに向いています。
光ファイバーを家の中に引き込むための工事が必要になる場合があります。

ADSL(エーディーエスエル)

家庭にあるアナログ回線（一般の電話回線）を使って、インターネット接続をする方法です。いくつかの回線事業者がサービスを提供していて、回線速度もサービスごとに異なります。
サービスの提供地域が広く、アナログ回線を利用するため、手軽にブロードバンドを利用できます。

CATV(ケーブルテレビ/シーエーティーブイ)

ケーブルテレビ会社の回線を使ってインターネット接続をする方法です。インターネットと同時に、ケーブルテレビ放送なども利用できます。回線速度やサービスは、各CATV業者によって異なります。

そのほかの接続

ダイヤルアップ接続

一般の電話回線を使ってインターネットに接続する方法です。電話回線があれば、電話回線ケーブル（モジュラケーブル）を用意するだけでインターネットに接続できます。
回線速度がほかの接続と比べてきわめて遅いため、動画など、サービスによっては利用できないことがあります。また、インターネット利用中は電話を使用できません（電話をかけてきた相手には、話し中になります)。

このパソコンでは、ダイヤルアップ接続は利用できません。

ISDN(アイエスディーエヌ)

NTTのデジタル回線、ISDNでインターネットに接続する方法です。アナログ回線よりも少しだけ高速になります。また、電話とインターネットを同時に利用できます。ダイヤルアップ接続と同じように、動画など、サービスによっては利用できないことがあります。

ブロードバンド接続の流れ

FTTHの場合を例として、インターネットに接続するまでの流れを説明します。

1 プロバイダや申し込みたいコース（料金プラン）を決める

プロバイダとは、インターネット接続業者のことです。特に会社を決めていない場合、BIGLOBEに入会することをおすすめします。
詳しくは、「プロバイダに入会する」（80ページ）をご覧ください。

2 プロバイダに申し込む

入会するプロバイダとコース（料金プラン）を決めたら、電話または書面で入会を申し込みます。
詳しくは、「プロバイダに入会する」（80ページ）をご覧ください。

3 回線の開通を待つ

FTTHは、回線をNTT東日本またはNTT西日本が提供するもの（Bフレッツ）と、別の回線事業者（KDDIやアッカなどという会社があります）が提供するものがあります。どこが回線を提供するかや、通信速度などによってコース（料金プラン）が分かれています。FTTHを利用できるか適合チェックをおこなってから、必要に応じて回線終端装置の準備や光ファイバーの導入工事などをおこないます。申し込みから開通までは、通常、数週間かかります。
申し込みから回線の開通までについて詳しくは、各回線事業者にお問い合わせください。

4 回線終端装置を接続して、パソコンの設定を変更する

回線終端装置をパソコンに接続して、パソコンの設定を変更します。
回線や機器によって接続方法や設定が異なります。「入会手続きが完了したら」（82ページ）をご覧ください。

プロバイダに入会する

BIGLOBEに入会する

インターネットプロバイダBIGLOBEでは、お電話で入会申し込みを受け付けております。
BIGLOBE電話で入会センター(受付時間9:00 ～ 21:00　365日)
フリーコール 0120-15-0962
※ 電話番号はおかけ間違えのないようにご注意願います。
※ 携帯電話、PHSからもご利用になれます。

そのほかのプロバイダに入会する

BIGLOBE以外にもさまざまなプロバイダがあります。入会方法については、各プロバイダにお問い合わせください。

プロバイダって何をするの？

プロバイダはインターネットに24時間つながっているコンピュータ(「サーバー」といいます)を管理しています。このサーバーが、メールを一時的に預かってくれたり、インターネットにつなげる中継役となってくれるのです。プロバイダは、「ISP(インターネット・サービス・プロバイダの略)」と呼ばれることもあります。

申し込みたいコース（料金プラン）を決めるには

多くのプロバイダは、ブロードバンド方式、回線事業者、通信速度などの種類別に、たくさんのコース（料金プラン）を用意しています。あらかじめ、プロバイダのパンフレット（BIGLOBEの『インターネット活用ブック』など）を見て検討してください。また、お住まいの地域や建物の状況によって利用できないサービスがあります。申し込みたいコースが利用できるかどうか、プロバイダにお問い合わせください。また、集合住宅の場合は、オーナーや管理組合の承認が必要な場合があるので、こちらも確認してください。

このパソコンでは、ダイヤルアップ接続はご利用になれません。

FTTH以外の接続の場合

ADSL

お住まいの地域や建物でＡＤＳＬの利用が可能か、回線事業者の担当者がコンサルティングをおこないます。詳しくは、プロバイダにお問い合わせください。
申し込む回線事業者や必要な工事によっても異なりますが、申し込みから開通まで、一般に数週間程度の時間がかかります。

CATV

ケーブルテレビ局への申し込みが必要です。申し込み手続きやインターネット接続用機器の設置などについては、ご利用地域のケーブルテレビ局にお問い合わせください。
開通までに必要な時間は、ケーブルテレビ局によって異なります。各ケーブルテレビ局にお問い合わせください。

ISDN

BIGLOBEの場合、ダイヤルアップコースの中にある「使いほーだい」コースが「フレッツ・ISDN」に対応しています。これまでアナログ回線で電話を利用していたかたは、ISDN回線への切り換え工事をおこない、TA（ターミナルアダプタ）などのISDN接続機器を設置する必要があります。

入会手続きが完了したら

通常、入会手続きが完了したら、回線事業者から導入工事や接続に必要な機器に関するご説明の連絡があります。このときに導入工事の希望日をお伝えください。
導入工事の日取りが決まると、回線事業者からインターネット接続に必要なマニュアル、CD-ROM(接続ツール) などを含むご案内の資料が送られてきます。インターネットに接続する際に必要になりますので、プロバイダから送られてきた資料とともに大切に保管してください。
回線事業者の工事担当者が来て、インターネット接続のための導入工事が終了すると、いよいよインターネットへの接続設定をおこないます。「ブロードバンド接続の設定」(96ページ) をご覧になり、設定をおこなってください。

集合住宅型のブロードバンド接続やCATVのブロードバンド接続など、ご利用になるブロードバンド接続の種類により、設定方法や機器の種類が異なります。詳しくは、回線事業者やケーブルテレビ局へお問い合わせください。

ルータは必要？

ルータは、複数のパソコンやインターネット接続可能機器をインターネットに接続するときに必要になります。このパソコンだけをインターネットに接続する場合は、必要ありません。
ルータを使う場合は、パソコンを直接インターネットに接続する場合と接続方法が異なります。「ブロードバンド接続の設定」(96ページ) をご覧になり接続してください。
ルータは、必要に応じて別途ご購入ください。ADSLの場合、ルータタイプのADSLモデムを選択することもできます。

接続設定の進め方

入会手続きが終わったら、回線の種類やワイヤレスLANの有無によって、どのページを見て設定すればよいか、このページで確認してください。

接続機器によっては、このマニュアルに記載の設定方法と異なる場合があります。インターネット接続機器やワイヤレスLAN接続機器などに添付の設定マニュアルやCD-ROMソフトがある場合は、そちらを使って設定するのが確実です。

回線の種類は？

ブロードバンドで接続する

↓

ワイヤレスLANを使う？

ワイヤレスLANで接続する	ワイヤレスLANを使わない（ケーブルで接続する）

ワイヤレスLANで接続する ↓

「ワイヤレスLANを利用したブロードバンド接続の設定」（次ページ）

↓

「ブロードバンド接続の設定」（96ページ）

↓

「インターネットに接続する」（99ページ）

↓

「メールソフトを設定する」（101ページ）

ワイヤレスLANを利用したブロードバンド接続の設定

無線でインターネットに接続するためにワイヤレスLANの設定をおこないます。

ワイヤレスLAN機能について

ワイヤレスLANとは、LANケーブルを無線（ワイヤレス）にしたものです。ワイヤレスLANを活用すれば、たくさんのケーブルが必要だったインターネット接続が変わります。

家の中で

ブロードバンドを利用するときは、パソコンとネットワーク機器をLANケーブルで接続します。ワイヤレスLANを使うと、この部分のケーブル接続が不要になります。
ワイヤレスLANの規格や使用環境にもよりますが、ワイヤレスLANの電波は、建物の壁などもある程度越えて届きます。ワイヤレスLANを導入すれば、パソコンの設置場所や持ち運びがもっと自由になり、使い方が広がります。

外出先で

最近は、「無線LANスポット」と呼ばれる公衆ワイヤレスLANサービスも増えてきました。これは、ワイヤレスLANを用いたネットワークをホテルや飲食店などに設置し、利用客に無料または有料で、インターネット接続環境を提供するものです。
外出先でも自分のノートパソコンを使ってインターネットに接続できるため、頻繁にパソコンを持ち歩くかたに便利なサービスです。

ワイヤレスLANは便利ですが、セキュリティの対策をしっかりしないと、外部からネットワークに入られて無断で利用され、情報を読まれてしまう危険があります。そうならないように、ワイヤレスLANを使うときは暗号化など、セキュリティをしっかり設定してください。

ワイヤレスLANの種類はいろいろある

ワイヤレスLANには現在、IEEE802.11b 、IEEE802.11g、IEEE802.11a、およびDraft IEEE802.11nの4種類があり、組み合わせによっては接続できない場合もあるので注意が必要です。トリプルワイヤレスLANモデルでは、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11aに対応しています。

ワイヤレスLANそれぞれの種類には、次のような特徴があります。

	規格上の論理値（通信速度）※	周波数	特　徴
IEEE802.11b	11/5.5/2/1 Mbpsモード	2.4GHz	対応機器が多く、互換性が高い規格
IEEE802.11g	54/48/36/24/18/12/6Mbpsモード	2.4GHz	・IEEE802.11bよりも高速な通信が可能 ・IEEE802.11b対応機器との通信も可能
IEEE802.11a		5GHz	電波干渉の問題が少ない
Draft IEEE802.11n	130/117/104/78/52/39/26/13Mbpsモード	2.4GHz/5GHz	・現在、もっとも高速な通信が可能 ・IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11a対応機器との通信も可能

※ 各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記です。通信の実効速度はこの通信モードの50%以下になります。通信速度は、パソコンと相手の機器の間の電波の状態や距離によっても変化します。

お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。お使いの機器に添付されている説明書、プロバイダから入手した説明書、メーカやプロバイダのホームページなどで設定を確認してください。

設定に必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、プロバイダから入手した接続設定用マニュアルやCD-ROMなどがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

回線終端装置またはモデム

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

・FTTH ：回線終端装置（回線工事で設置）　・CATV ：ケーブルモデム（CATV開通工事で設置）

・ADSL：ADSLモデム

ワイヤレスLANアクセスポイントまたはワイヤレスLANルータ

お使いのブロードバンド回線の種類やモデムの種類によって次のような機器が必要です。

- ADSLの場合、ADSLモデムにワイヤレスLANアクセスポイント機能が内蔵されているものもあります。
- 機器を購入するときは、このパソコンと通信できるかどうかを確認してください。
- 機器を購入するときは、お使いのモデムや回線終端装置の種類を確認してください。

◆ワイヤレスLANアクセスポイント（ブリッジタイプ）

次のような場合、ワイヤレスLANアクセスポイント（ブリッジタイプ）が必要です。

・ルータ機能のあるモデムをお使いの場合

・ワイヤレスLAN機能のないルータ（有線）を使って、インターネットに接続している場合

ワイヤレスLANルータでルータ機能を無効にして、ワイヤレスLANアクセスポイント（ブリッジタイプ）として利用できる場合もあります。

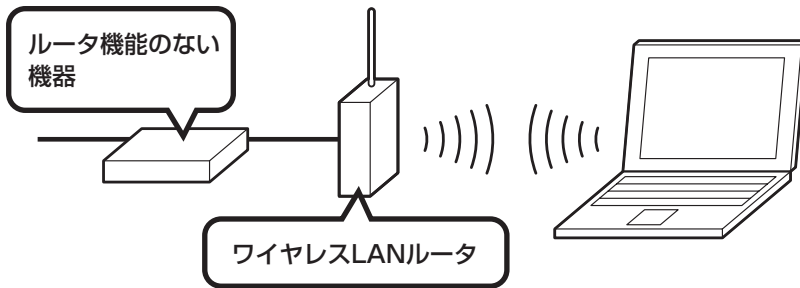
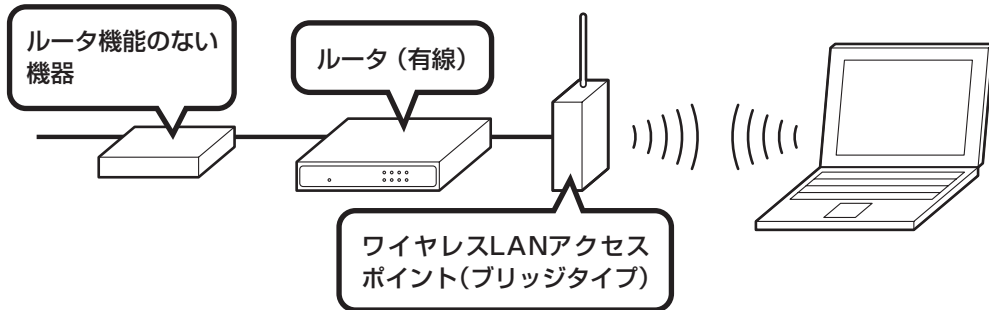
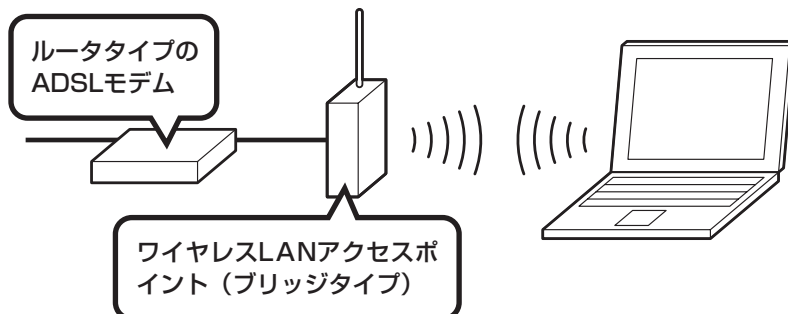
◆ワイヤレスLANルータ（ルータタイプのワイヤレスLANアクセスポイント）

次のような場合、ワイヤレスLANルータ（ルータタイプのワイヤレスLANアクセスポイント）が必要です。

・ルータ機能のないモデムをお使いで、複数のパソコンでインターネットに接続するなどルータ機能が必要な場合

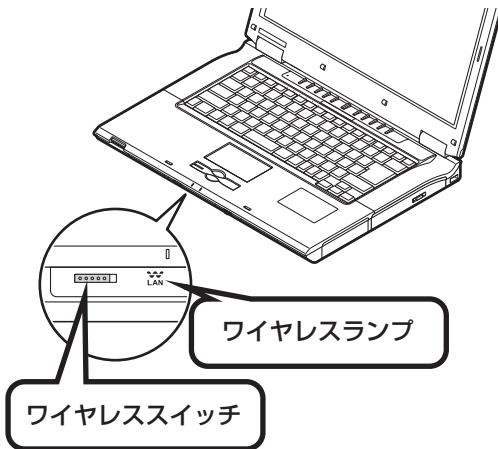
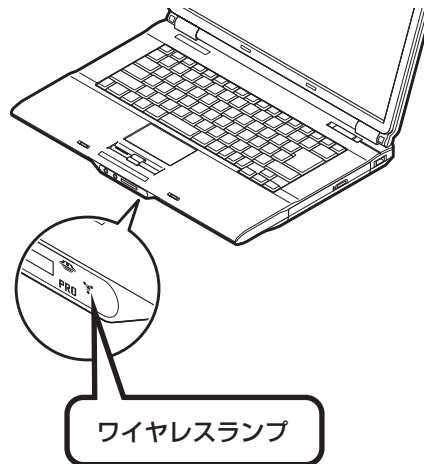
1 機器を接続する

まず、このパソコンとネットワーク機器を接続してください。
詳しい接続方法については、機器に添付されている説明書、プロバイダから入手した説明書、メーカやプロバイダのホームページなどをご覧ください。
FTTHの回線終端装置やADSLモデムをお使いの場合、次のように接続します。

回線終端装置やルータ機能のないADSLモデムの場合

回線終端装置やルータ機能のないADSLモデムの場合（ルータ（有線）を利用する場合）

ルータ機能のあるADSLモデムの場合

2 ワイヤレスLAN機能をオンにする

このパソコンでワイヤレスLANを使うには、ワイヤレススイッチをオン(ON)にしてください。

ワイヤレススイッチがオフ(OFF)になっていると接続できません。

LaVie Lアドバンストタイプの場合
ワイヤレススイッチを右側にスライドします。

LaVie Lスタンダードタイプ(e)の場合
キーボードの【Fn】を押しながら【F2】を押します。

ご購入時の状態では、ワイヤレススイッチはオフ(OFF)に設定されています。
・ワイヤレススイッチがオン(ON)のときにはワイヤレスランプが点灯します。
・LaVie Lアドバンストタイプの場合、ワイヤレススイッチを左側にスライドすると、ワイヤレスLAN機能がオフ(OFF)になり、ワイヤレスランプが消灯します。
・LaVie Lスタンダードタイプ(e)の場合、もう一度キーボードの【Fn】を押しながら【F2】を押すと、ワイヤレスLAN機能がオフ(OFF)になり、ワイヤレスランプが消灯します。

接続する機器の設定について

ワイヤレスLANの接続では、接続するワイヤレスLANアクセスポイントがネットワーク名（SSID）を通知する設定になっているか、通知しない設定になっているかでパソコンの設定が異なります。あらかじめお使いの機器のマニュアルをご覧になり、設定を確認しておいてください。

- ネットワーク名（SSID）は、通知しない設定にする方が、不正アクセスなどへのセキュリティが高まります。
- 手順中に出てくるネットワークキーやセキュリティの設定などについて、詳しい内容は「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「ワイヤレスLAN（無線LAN）」に説明があります。そちらも参照してください。
- 機器によっては、パソコンの設定をする前に、ユーザー名やパスワードなどの接続情報を設定する場合もあります。機器に添付されている説明書などの記載にしたがってください。

ここからの手順は、接続するワイヤレスLANアクセスポイントの設定によって異なります。

- **ネットワーク名（SSID）を通知するワイヤレスLANアクセスポイント**

  →次ページの「3 ネットワーク名（SSID）を通知するワイヤレスLANアクセスポイントに接続する」へ進んでください。

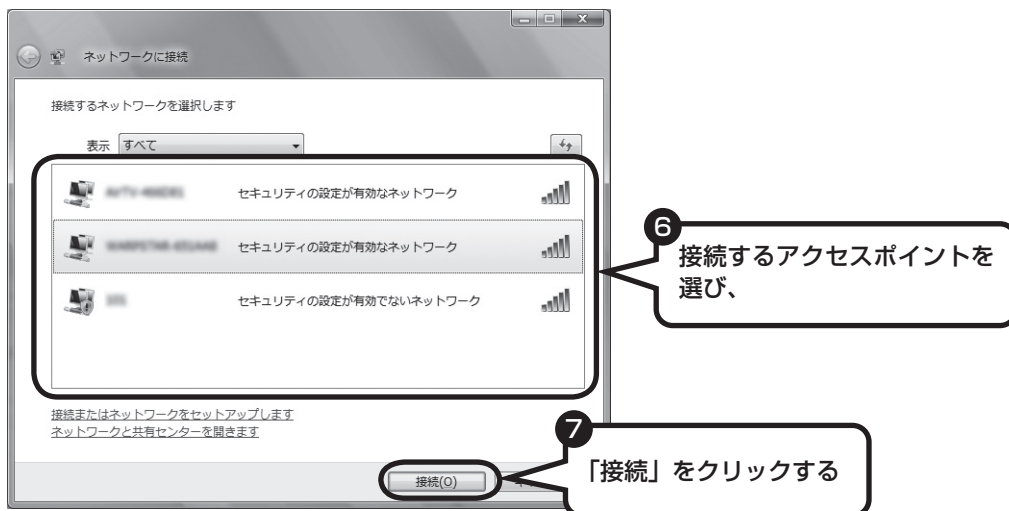
- **ネットワーク名（SSID）を通知しないワイヤレスLANアクセスポイント**

  →93ページの「4 ネットワーク名（SSID）を通知しないワイヤレスLANアクセスポイントに接続する」へ進んでください。

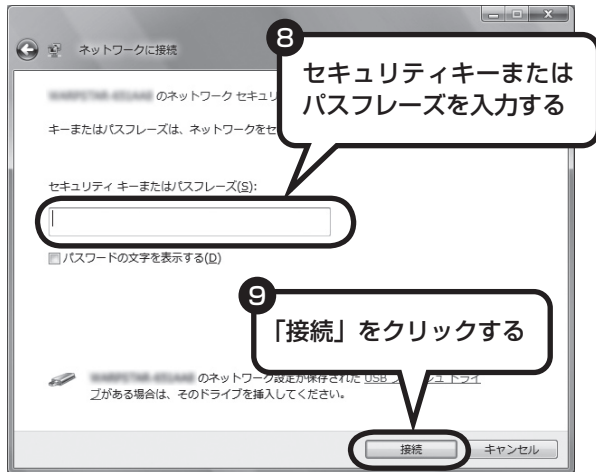
3 ネットワーク名（SSID）を通知するワイヤレスLANアクセスポイントに接続する

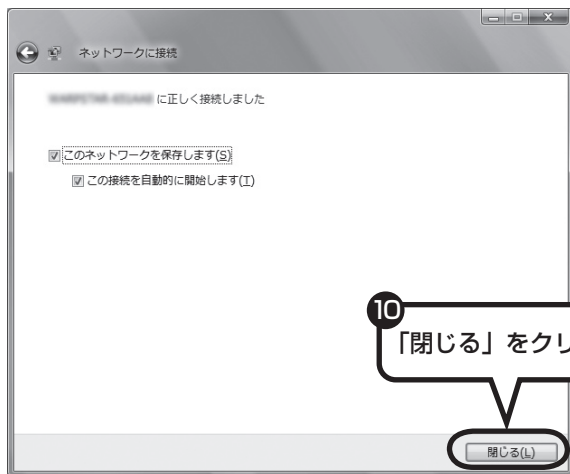
手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

「ネットワークに接続」が表示されます。

「ネットワークに接続」は、「スタート」-「接続先」をクリックしても表示できます。

接続するネットワーク名が表示されていない場合は、画面右の をクリックしてください。
それでもネットワーク名が表示されない場合は、通知領域の を右クリックし、「診断と修復」を選択してください。

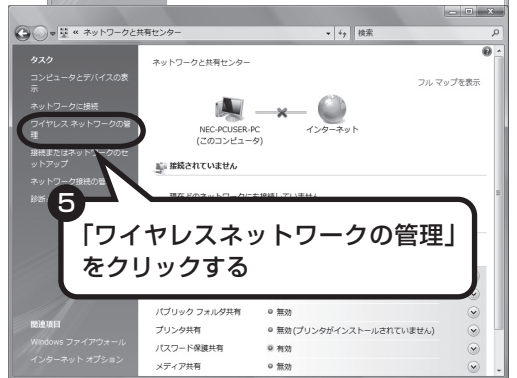
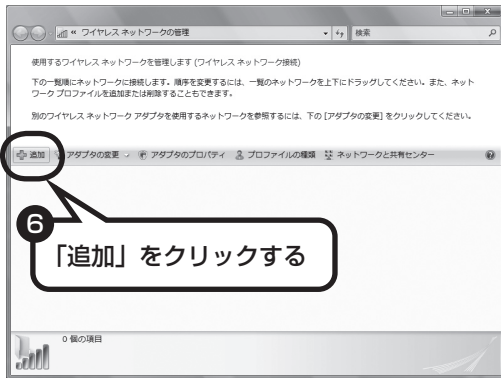
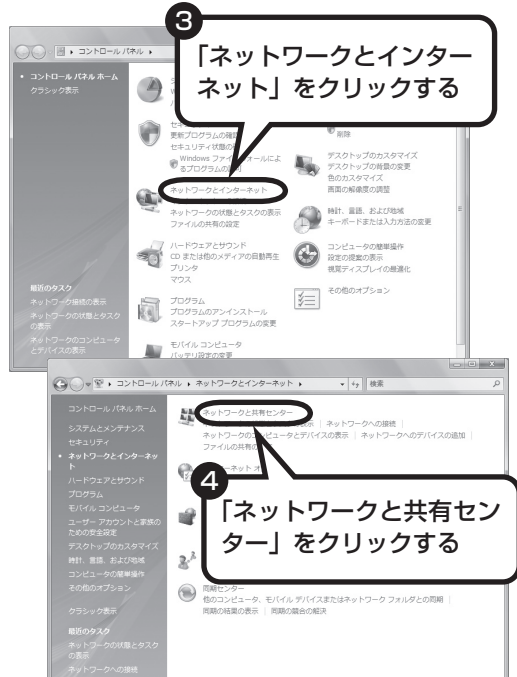
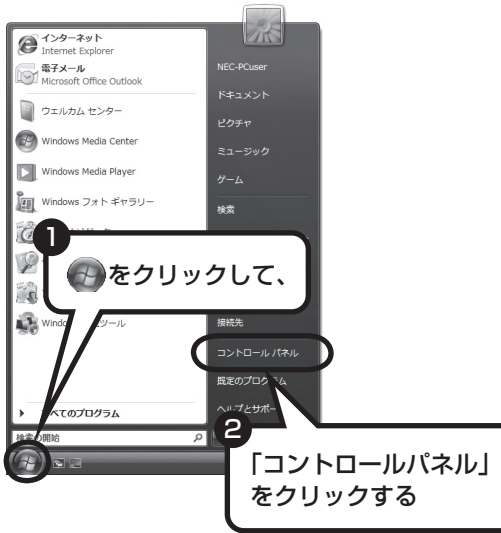
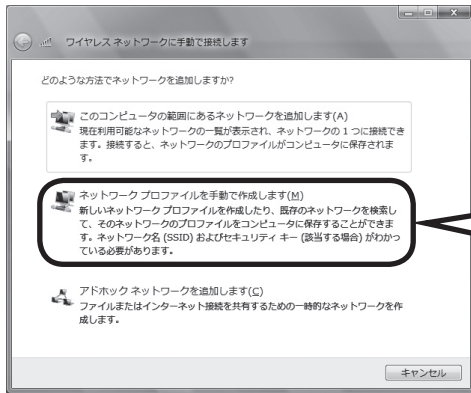
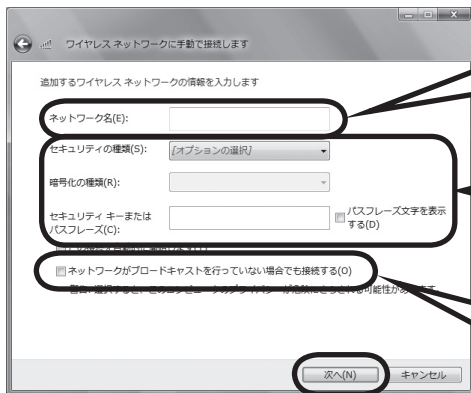
ネットワーク名（SSID）が表示されない場合は、次の理由が考えられます。

- **電波の状態が悪い。**
  電波が確実に届く範囲内に移動して作業してください。
- **ワイヤレスLANアクセスポイントが、ネットワーク名（SSID）を通知しない設定になっている。**
  ワイヤレスLANアクセスポイントのマニュアルなどを見て、設定を確認してください。ネットワーク名（SSID）を通知しない場合の設定については、93ページをご覧ください。

通信をおこなうワイヤレスLANアクセスポイントの設定と同じセキュリティキーまたはパスフレーズ（暗号キーやWEPキーとも呼ばれます）を入力します。

接続相手側機器がセキュリティ機能を無効にしている場合は、警告画面が表示されます。説明をよく読んで、「接続します」をクリックしてください。

接続され、デスクトップ画面右下の通知領域にが表示されます。
「ネットワークの場所の設定」の画面が表示された場合は、画面の説明を読んで設定してください。

画面右下に、が表示されている場合は、セキュリティキーまたはパスフレーズ（暗号キーやWEPキーとも呼ばれます）が正しいか確認してください。

4 ネットワーク名（SSID）を通知しないワイヤレスLANアクセスポイントに接続する

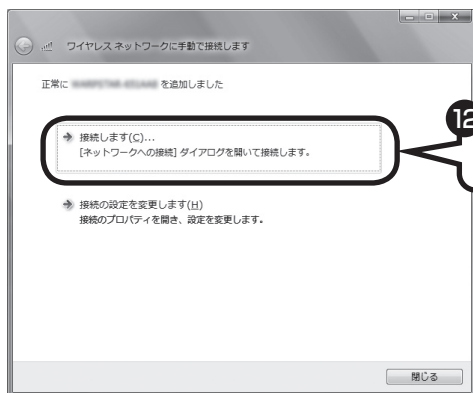
手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

7 「ネットワークプロファイルを手動で作成します」をクリックする

8 「ネットワーク名」を入力する

9 セキュリティの設定をする

10 「ネットワークがブロードキャストを行っていない場合でも接続する」をクリックして☑にする

11 「次へ」をクリックする

通信をおこなうワイヤレスLANアクセスポイントの設定と同じに設定します。

接続相手側機器がセキュリティ機能を無効にしている場合は、手順9の「セキュリティの種類」を「認証なし（オープンシステム）」にしてください。その場合、セキュリティキーまたはパスフレーズ（暗号キーやWEPキーとも呼ばれます）を入力する必要はありません。

接続され、デスクトップ画面右下の通知領域に が表示されます。
「ネットワークの場所の設定」の画面が表示された場合は、画面の説明を読んで設定してください。

画面右下に 、 が表示されている場合は、セキュリティキーまたはパスフレーズ（暗号キーやWEPキーとも呼ばれます）が正しいか確認してください。

設定が完了したら

ワイヤレスLANルータ、ルータタイプのモデム、ルータ（有線）などを使用している場合は、接続情報を設定、登録してください。詳しくは、機器に添付されている説明書、プロバイダから入手した説明書、メーカやプロバイダのホームページなどをご覧ください。

すべての設定が終わったら、「インターネットに接続する」（99ページ）へ進み、インターネットへの接続を試してください。

接続情報を設定、登録しないと、このパソコンでの設定が終わってもインターネットに接続できません。

ブロードバンド接続の設定

ブロードバンドの通信回線が開通したら、パソコンを通信回線に接続して、設定をおこないます。

お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。プロバイダから入手した説明書や、プロバイダのホームページなどで設定を確認してください。

必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、回線事業者から入手した接続設定用マニュアルやCD-ROMなどがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

LANケーブル

回線終端装置などに添付されていなければ、LAN(ラン) ケーブルをお買い求めください。LANケーブルには「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の2種類があります。パソコンと回線終端装置などのインターネット接続機器をつなぐときは、ストレートケーブルを使用してください。

インターネット接続機器

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

・FTTH ：回線終端装置（回線工事で設置）

・ADSL ：ADSLモデム

・CATV ：ケーブルモデム（CATV開通工事で設置）

ルータを使う場合

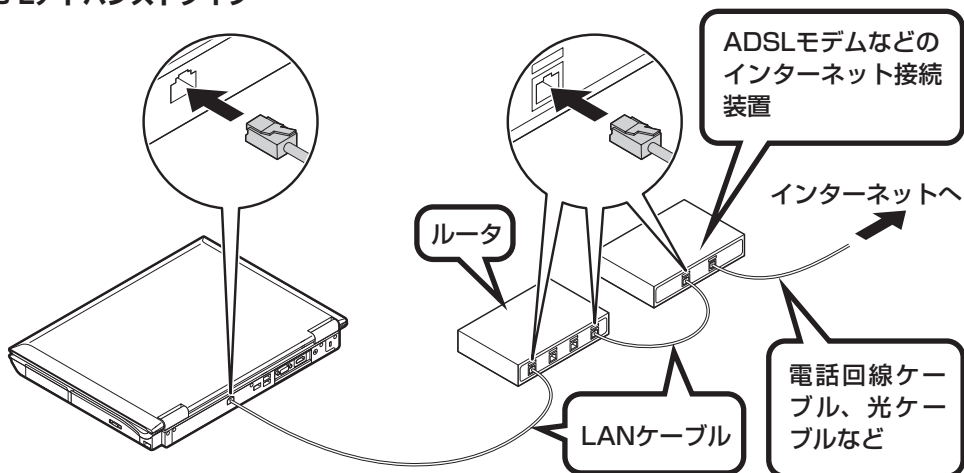
ルータを使う場合は、さらに次の機器や資料が必要になります。

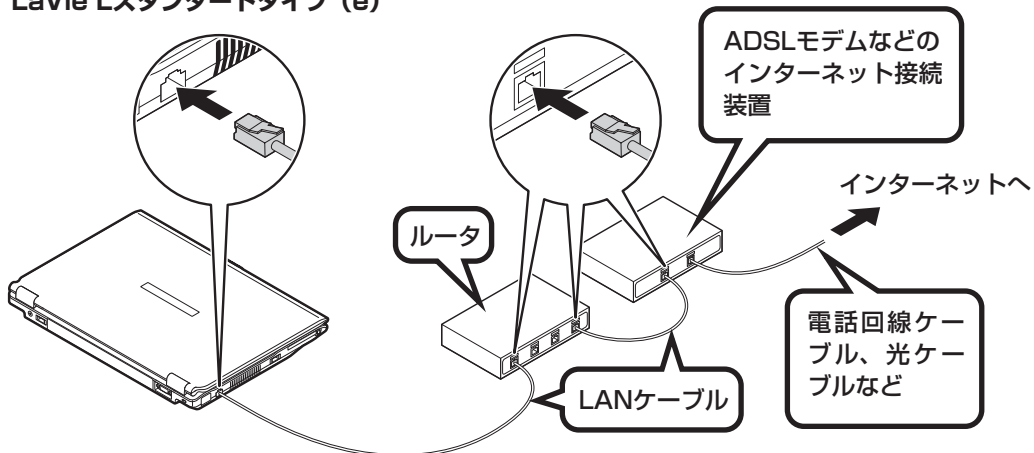
・ルータ

・ルータに添付されているマニュアル

図のように接続する

ルータを利用する場合

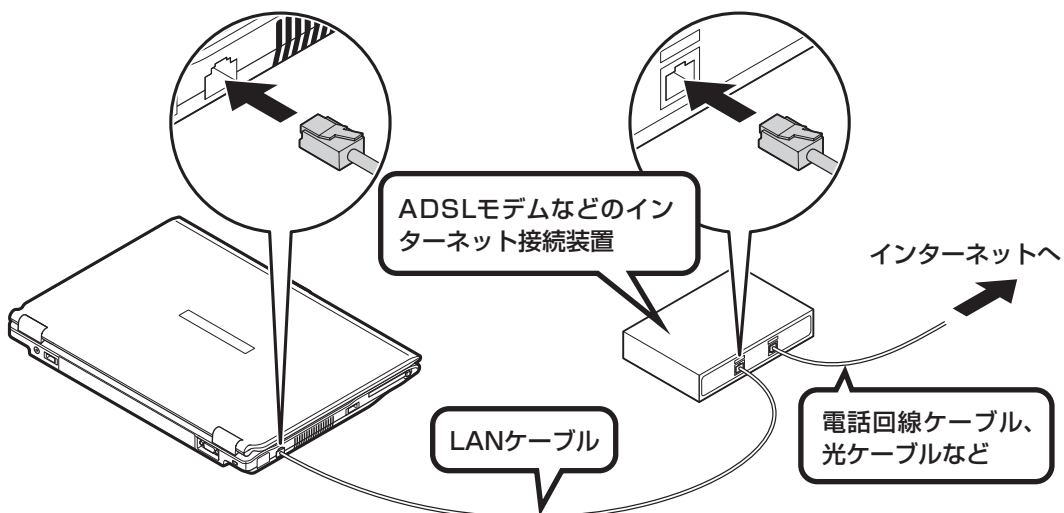
LaVie Lアドバンストタイプ

・ルータタイプのADSLモデムは、パソコンに直接接続します。
・ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

LaVie Lスタンダードタイプ（e）

・ルータタイプのADSLモデムは、パソコンに直接接続します。
・ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

ルータとパソコンを接続したら、ユーザー名やパスワードなどの接続情報をルータに設定、登録してください。詳しくは、ルータのマニュアルやプロバイダから入手した説明書、資料をご覧ください。

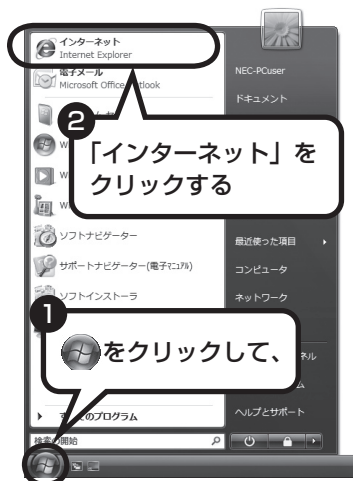
ルータを利用しない場合

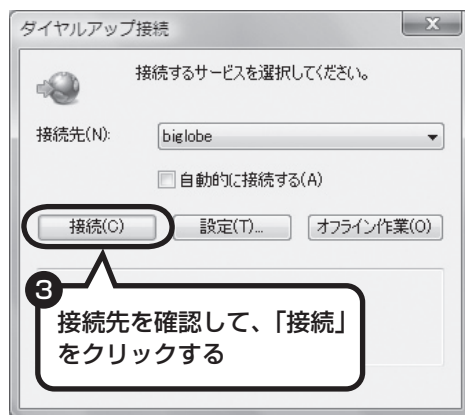
LaVie Lアドバンストタイプ

LaVie Lスタンダードタイプ（e）

ケーブルを接続したら、インターネットへの接続設定をおこないます。設定方法について詳しくは、ご加入のプロバイダや回線事業者から入手した資料をご覧ください。

インターネットに接続する

インターネットに接続できるか
確認しましょう。

1 Internet Explorerを起動する

ルータを利用しない場合

次の接続用画面が表示されます。
「接続」をクリックすると、Internet Explorer(インターネットエクスプローラ）が起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます（設定によっては、パスワードを入力する画面が表示されます)。

ルータ、ルータタイプのADSLモデム、ワイヤレスLANルータを利用している場合

ルータ、ルータタイプのADSLモデム、ワイヤレスLANルータを利用している場合、接続用の画面は表示されず、直ちにInternet Explorerが起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます。これは、パソコンの電源を入れると自動的にインターネットに接続されるためです。

インターネットから切断するときは、次の方法で操作します。

- ルータを利用していない場合
  画面右下の通知領域のを右クリックして表示されるメニューから、「切断」を選び、切断する接続をクリックします。
- ルータを利用している場合
  利用しているネットワークを無効にします。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「LAN」の「ネットワークから切断する」をご覧ください。
- ワイヤレスLANを利用している場合
  利用しているワイヤレスLANから切断します。詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)」の「ネットワークから切断する」をご覧ください。

これで、インターネット接続の設定は終わりです。
続けて次ページの「メールソフトを設定する」へ進んでください。

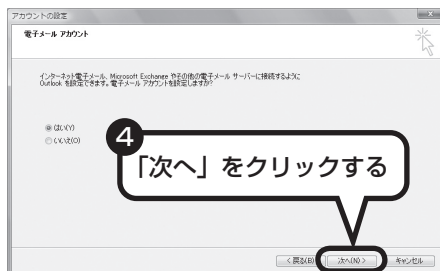
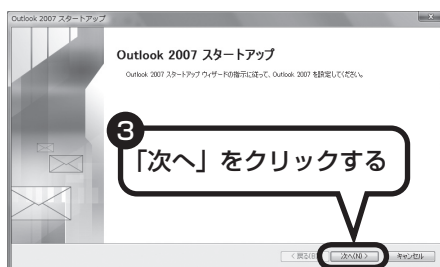
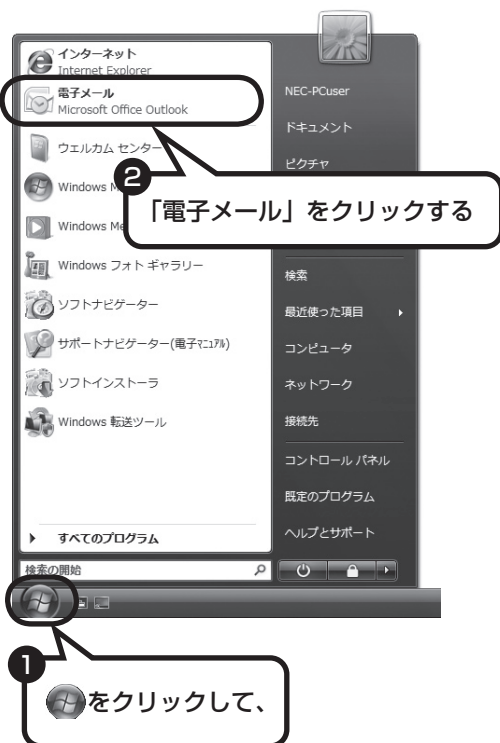
ワイヤレスLANの通信がうまくいかない場合

ワイヤレスLANを利用中に通信がうまくいかなくなった場合は、ワイヤレススイッチがオンになっているか、または画面右下の通知領域のアイコンが表示されているかを確認してください。ワイヤレススイッチがオンになっていて、画面右下の通知領域のアイコンが表示されていない場合は、パソコンを再起動してください。

メールソフトを設定する

このパソコンには、メールを利用したり、スケジュールを管理したりするために、Outlook(アウトルック)というソフトが用意されています。

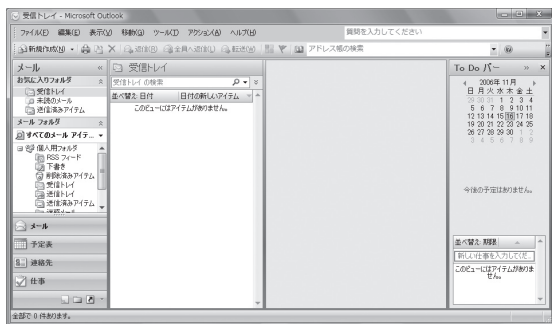
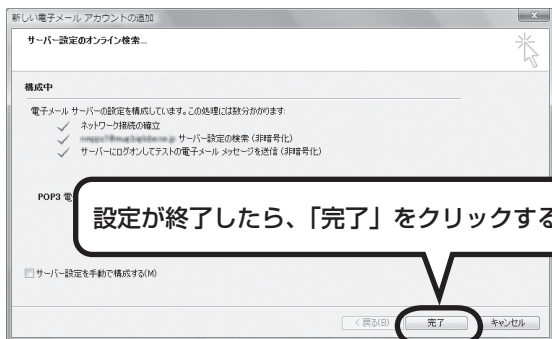
- FTTHやADSLで接続する場合、使用する機器やプロバイダによっては、ここでの説明とは異なる設定が必要になることがあります。プロバイダの資料やホームページに設定例などが記載されている場合は、そちらも併せてご覧になり、設定することをおすすめします。
- Outlookが入っていないモデルをお使いのかたは、「Windows® メール」というソフトでメールを利用できます。Windows® メールの設定については、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「Windows メール」をご覧ください。
- Outlookのセットアップ、インストールについてのお問い合わせ先（Microsoft）
  月～金曜日　午前9時30分～午前12時、午後1時～午後7時
  土曜日・日曜日　午前10時～午後5時／指定休業日、年末年始、祝祭日除く
  東京：03-5354-4500（有料）／大阪：06-6347-4400（有料）
  インターネットでのお問い合わせは
  URL：http://support.microsoft.com/select/?target=assistance
  その他、基本操作などについてのお問い合わせ先は『パソコンのトラブルを解決する本』の「ソフトのサポート窓口一覧」をご覧ください。

1 Outlookを起動する

2 サーバーのアカウントを自動で設定する

サーバーの自動アカウント設定に失敗したときは、設定内容を確認し、「次へ」をクリックしてください。それでも設定できない場合は、「サーバーの自動アカウント設定に失敗したら」（104ページ）をご覧ください。

■ 次の項目に入力してください。

名前	自分の名前を入力します。日本語、アルファベット、どちらで入力してもかまいません。
電子メールアドレス	ご利用の電子メールアドレスを入力します。
パスワード	会員証などを見て、メールパスワードとして記載されているものを入力します。「メールサーバーパスワード」などと呼ばれることもあります。
パスワードの確認入力	確認のため、上記パスワードを再度入力します。

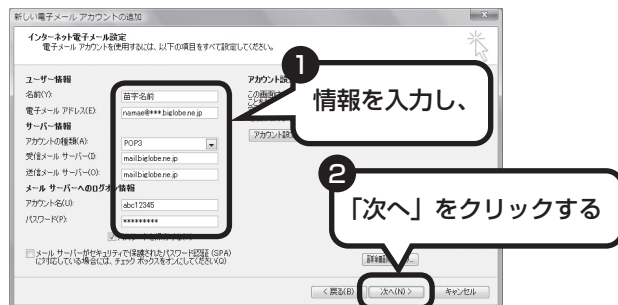
3 メールの設定を完了する

- セットアップが完了すると、「ユーザー名の指定」画面、「マイクロソフトソフトウェアライセンス条項」に同意する画面、プライバシーオプションを設定する画面やMicrosoft Updateを利用するための登録画面などが表示されます。説明をよく読んで、画面の指示にしたがって進めてください。
Microsoft Updateについて詳しくは、「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「Windowsを更新する」-「Microsoft Updateとは」をご覧ください。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

これで、メールが使えるようになりました。
メールを送ったり受け取ったりする方法については、
『活用ブック』の「パソコン初心者道場」-「メール編」をご覧ください。

サーバーの自動アカウント設定に失敗したら

「メールソフトを設定する」の手順2（102ページ）で設定に失敗した場合は、サーバーの設定を手動でおこなうことができます。

手動でおこなうには、失敗した画面で「サーバー設定を手動で構成する」をクリックしてにし、「次へ」をクリックします。その後、「電子メールサービスの選択」の画面で「インターネット電子メール」をにして「次へ」をクリックします。

次の画面が表示されたら、それぞれの情報を入力し、画面の説明を読んで設定してください。

■ この画面では、次の項目に入力してください。

名前	自分の名前を入力します。日本語、アルファベット、どちらで入力してもかまいません。
電子メールアドレス	ご利用の電子メールアドレスを入力します。
アカウントの種類	ほとんどのプロバイダは「POP3」という種類のサーバーを使っています。プロバイダが「IMAP」という種類のサーバーを使っている場合は「IMAP」を選びます。詳しくはプロバイダに確認してください。
受信メールサーバー	プロバイダの会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、「メールサーバー」、「POPサーバー」、「メール受信サーバー」などと呼ばれることもあります。
送信メールサーバー	会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、受信メールサーバーと送信メールサーバーのアドレスは同じことがあります。「メールサーバー」、「SMTPサーバー」、「メール送信サーバー」などと呼ばれることもあります。
アカウント名	会員証などを見て、アカウント名として記載されているものを入力します。「メールアカウント」、「メールサーバーログイン名」、「POPアカウント名」、「メールログイン名」などと呼ばれることもあります。
パスワード	会員証などを見て、メールパスワードとして記載されているものを入力します。「メールサーバーパスワード」などと呼ばれることもあります。

パソコンを安全に使うための設定をおこなう

ポイント
- セキュリティ対策をしっかりと
- ウイルス対策ソフトを最新の状態に

パソコンやインターネットを安全に使うために

パソコンの誤動作や内部のデータ破壊を引き起こす、ウイルスなどの不正プログラムの被害が多くなっています。電子メールのやりとり、インターネット経由のソフト入手、他人から受け取ったディスクの使用などが原因になって、知らないうちに不正プログラムがパソコンに侵入することもあります。これらの被害を防ぐには、定期的な対策が必要です。
このほか、パソコンやインターネットを安心して使うために注意することを『活用ブック』の「しっかりセキュリティであんしんインターネット」で紹介しています。
このページと併せてご覧になり、セキュリティ対策をしてください。

『活用ブック』で紹介していること

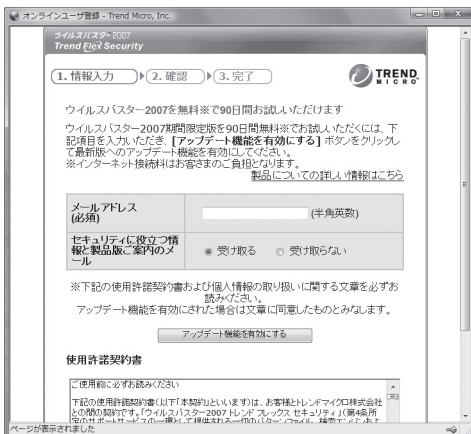
- Windows Update
  インターネットを通じて、Windowsの問題点を修復する「Windows Update」について説明しています。
- ウイルス対策ソフト
  このパソコンに入っているウイルス対策ソフト「ウイルスバスター」について説明しています。この後の「パソコンをウイルスから守るために」と併せてご覧ください。
- 個人情報を守るために
  クレジットカード番号などの大切な個人情報が流出するのを防ぐために、注意しなければいけないことを紹介しています。
- 無線LANを使うとき
  無線LANを使うときに、特に注意しなくてはいけないセキュリティの設定を説明しています。

パソコンをウイルスから守るために（1）

ウイルスとは、パソコンに誤動作やデータの破壊などのトラブルを引き起こす不正プログラムのことです。インターネットやメールからパソコンに入り込んだり、CDやDVD、各種メモリーカードなどのメディアから感染する場合もあります。
ウイルスによる被害は、自分のパソコンのデータが破壊されたり個人情報が流出したりするだけでなく、ほかの人へ大量の電子メールが自動的に送信されることもあります。自覚がないまま加害者になり得る可能性もあるのです。

「ウイルスバスター」を最新の状態に更新する

このパソコンには、ウイルス対策ソフト「ウイルスバスター」が入っていて、パソコンをウイルスから守ることができます。しかし、ウイルスは日々新しいものが出てくるので、新しいウイルスに対応するために、ソフトを常に最新の状態に更新（「アップデート」といいます）してウイルスチェックをしなければなりません。

このパソコンの「ウイルスバスター」では、はじめてアップデートを利用した日から90日間、無料でアップデートをおこなうことができます。90日間の無料期間を過ぎると、すべての機能が利用できなくなり、セキュリティ対策をおこなうことができません。無料期間終了後も継続してご利用いただくには、ダウンロード販売またはパッケージなどで製品版を購入し、ライセンスキーを入力していただく必要があります。
有料のサービスについて詳しくは、無料サービスの開始時に登録したメールアドレス宛に配信されるメールなどの案内をご確認ください。

アップデートするには、インターネット接続の設定が必要です。インターネット接続の設定方法について、これまでにパソコンを持っていなかったかたは第5章、パソコンを買い替えてインターネット接続をやりなおすかたは第6章をご覧ください。

アップデートのしかた

パソコンをご購入後、はじめてアップデートする場合は、まずインターネットに接続をして、90日間無償サポートを受けるため、アップデート機能を有効にする必要があります。
インターネット接続の設定が終わった後、画面右下のを右クリックして、「アップデート開始」をクリックしてください。必要事項を記入してから、使用許諾契約書をよく読み、「アップデート機能を有効にする」をクリックしてください。

登録のしかたや、アップデートの方法などの詳しい手順については、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルス対策ソフトを使い始める」をご覧ください。

パソコンをウイルスから守るために（2）

ウイルスの侵入を常にチェックする

「ウイルスバスター」には、ウイルスの侵入を常に監視する機能があります。その機能を「リアルタイム検索」といいます。「リアルタイム検索」を有効にしている間は、ウイルスの侵入が自動的に監視されます。
ご購入時の状態では、ウイルスの侵入を常に監視する（「リアルタイム検索」が有効）設定になっています。通常はこの状態でお使いください。画面右下のを右クリックして表示されるリストの「リアルタイム検索」右側にが付いていないときは「リアルタイム検索」は無効です。が付いているときは有効です。
「リアルタイム検索」を有効にしている間は、ウイルスの検査が頻繁におこなわれるため、ほかのソフトの動作が遅くなることがあります。ウイルスに対して安全な状況であるとわかっている場合、「リアルタイム検索」を一時的に無効にすることができます。
また、パソコンや周辺機器の設定、インターネット接続の設定をするときなどに、ウイルスチェックを停止するよう指示が表示される場合があります。その場合も、「リアルタイム検索」を一時的に無効に設定してください。
「リアルタイム検索」の有効/無効設定について詳しくは、「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルスを見張る」をご覧ください。

その他のウイルス対策ソフトを使う

「ウイルスバスター」以外のウイルス対策ソフトを使うこともできます。

「ウイルスバスター」以外のウイルス対策ソフトを使用する場合は、必ず「ウイルスバスター」を削除（アンインストール）してください。削除方法については、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「ウイルスバスター」の「追加方法と削除方法」をご覧ください。

お子様を有害ホームページから守るために

インターネットにアクセスすると、さまざまなホームページを閲覧できます。しかし、有害な情報や違法情報を含むホームページもあります。

このようなホームページへのアクセスを自動的に遮断してくれるフィルタリング機能を使うことをおすすめします。

フィルタリングには、パソコンにフィルタリングソフトを追加して利用する方法と、インターネットプロバイダのフィルタリングサービスを利用する方法があります。お使いのプロバイダがフィルタリングサービスをおこなっているかは、各プロバイダにお問い合わせください。

利用者それぞれに適した設定ができるため、お子様も安心してインターネットを楽しめるようになります。

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「安心安全に使う」-「安全に使うためのポイント」-「お子様を有害ホームページから守るために」をご覧ください。

インターネット・メールの楽しみ方を知るには

『活用ブック』では、セキュリティ対策のほかに、インターネットやメールでどんな楽しみ方ができるのか紹介しています。

お気軽に読み進めてください。

外出先でブロードバンドを楽しむには

外出先で公衆ワイヤレスLANサービスを利用する方法について説明します。

公衆ワイヤレスLANサービス

公衆ワイヤレスLANサービスを利用すると、外出先で手軽にインターネットに接続できます。
ファストフード店や駅、空港などに設置されている「無線LANスポット」を利用すると、手軽にワイヤレスLANを使ってインターネットに接続できます。
有料であらかじめ会員登録が必要なものや、フリースポットといって無料で接続できるものもあります。
また、プロバイダによっては、有料のワイヤレスLANサービスを用意している場合もあります。お使いのプロバイダがサービスをおこなっているか、ホームページなどで確認してみましょう。

「ホットスポット」アクセスを利用する

公衆ワイヤレスLANサービスの一例として、BIGLOBEの「ホットスポット」アクセス（有料）を利用したインターネット接続の流れを紹介します。

- 設定や注意事項について詳しくは、次のホームページ（BIGLOBEのホームページ）をご覧ください。
  http://mobile.biglobe.ne.jp/wifi/index3.html
- このサービスをご利用いただいた場合、BIGLOBEの月額基本料金とは別に「ホットスポット」アクセス サービス料金がかかります。詳しくは、BIGLOBEのホームページをご覧ください。

1 BIGLOBEに入会し、ユーザーIDとパスワードを入手する

一部のサービスのユーザーID、パスワードでは「ホットスポット」アクセスをご利用いただけない場合があります。詳しくは､BIGLOBEのホームページをご覧ください。

2 インターネットに接続し、BIGLOBEのホームページでSSIDとWEPキーを確認する

BIGLOBEのホームページで、ユーザーIDとパスワードを入力すると、パソコンの設定に必要なSSIDとWEPキーが表示されます。

3 このパソコンのワイヤレスLANの設定、ネットワークの設定、ブラウザの設定をする

4 ホットスポット サービスエリア検索のホームページで、利用可能な「無線LANスポット」(サービスエリア)を確認する

利用したい「無線LANスポット」を検索することができます。このホームページはBIGLOBEのホームページからアクセスできます。

5 「無線LANスポット」へ行き、パソコンのワイヤレスLAN機能をオンにし、ブラウザを起動する

6 「HOTSPOT」のログイン画面が表示されるので、次のログインIDとパスワードを入力しインターネットに接続する

ログインID:abc12345@biglobe.ne.jp(BIGLOBEのユーザー IDがabc12345の場合)
パスワード:BIGLOBEのパスワード

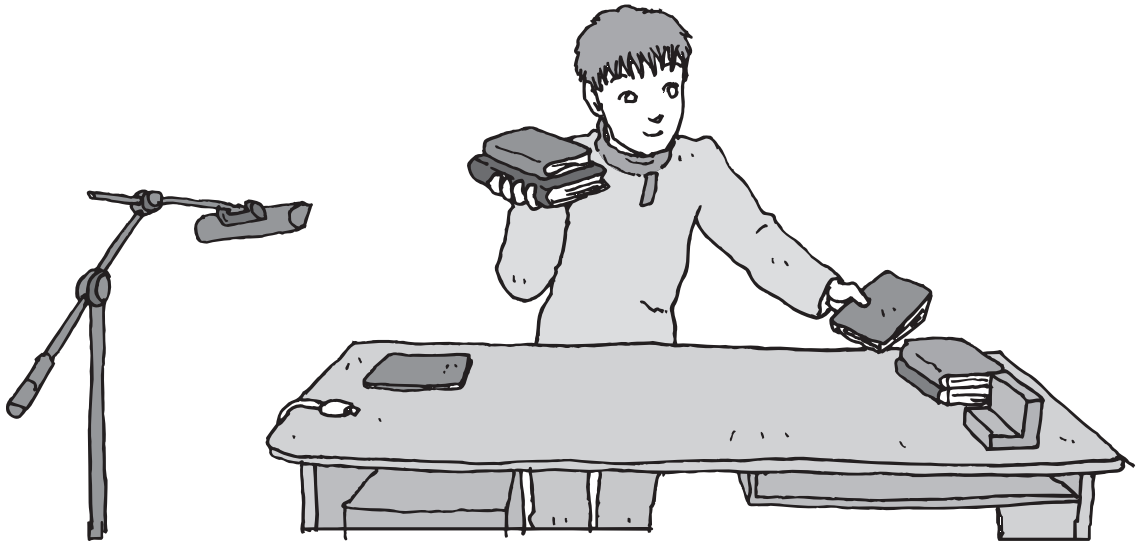
これでインターネット接続ができました。ログインすると、パソコンの画面にログアウト用の小さいウィンドウが表示されます。

7 インターネット接続を終了する場合は、「ログアウトします。」の画面の「OK」をクリックする

ログアウトが完了し、「ログアウトしました。」の画面が表示されます。

ログアウトを完了しないで、「無線LANスポット」を離れたりパソコンの電源を切ると、数分後に自動的にログアウトしますが、その間にも「ホットスポット」アクセス サービス料金がかかります。

第6章

パソコンを買い替えたかたへ

すでにパソコンを使っていたかたが、このパソコンでインターネットを利用できるようにしたり、前のパソコンからデータを移したり、前のパソコンで使っていたデータや周辺機器を使えるようにする方法について説明します。

インターネットを使えるようにする

これまでのパソコンで、インターネットを利用していたかたは、次の手順でインターネットの接続と設定をおこなってください。

今までダイヤルアップ接続を利用されていたかたは

このパソコンでは継続してダイヤルアップ接続を利用することはできません。引き続きインターネットを利用する場合は、ブロードバンド接続などにコースを変更する必要があります。コースの変更について詳しくは、各プロバイダにお問い合わせください。

CATVのかたは、ケーブルテレビ局に確認を

前のパソコンでCATV接続を利用されていたかたは、ご契約のケーブルテレビ局にパソコンを買い替えたときの設定方法についてお問い合わせください。

ブロードバンドの接続、設定をおこなう

ブロードバンド接続でインターネットを使えるようにするには、パソコンと通信回線の接続、インターネットの設定、メールソフトの設定が必要です。ご利用の機器に合わせて、第5章の該当するページをご覧ください。

ワイヤレスLANで接続する

「ワイヤレスLANを利用したブロードバンド接続の設定」(84ページ)をご覧ください。

ブロードバンドの接続設定をおこなう

「ブロードバンド接続の設定」(96ページ)をご覧ください。
設定については、回線事業者やプロバイダから入手した資料にしたがっておこなってください。

インターネットに接続する

「インターネットに接続する」(99ページ)をご覧ください。
設定が終わったら、インターネットへの接続を試してください。

メールソフトを設定する

「メールソフトを設定する」(101ページ)をご覧ください。
インターネットに接続してホームページを見ることができたら、必ず、メールソフトの設定をおこなってください。

上記の設定を済ませてから、「古いパソコンからデータを移す」(115ページ)へ進み、データや周辺機器、ソフトの移行作業をおこなってください。

古いパソコンからデータを移す

「Windows転送ツール」を利用すると、これまでお使いのパソコンからデータを移行することができます。

「Windows転送ツール」で移行できるデータ

次のデータを移行することができます。

・「Internet Explorer」の設定と「お気に入り」
・「Outlook」の予定表や連絡先、メールのアカウントや受信データなど
・電子メールのアカウント、アドレス帳や送受信データ
・ユーザーアカウントおよび設定
・フォルダとファイル（音楽、画像、ビデオなど）
・プログラムの設定

移行される内容について詳しくは、「ヘルプとサポート」で、「Windows 転送ツール」を検索して「ファイルと設定を転送する：よく寄せられる質問」をご覧ください。

「Windows転送ツール」の利用条件

使用していたOS（オーエス）が次のいずれかであること

・Windows Vista
・Windows XP
・Windows 2000※

これまでにお使いのパソコンのOSが上記以外の場合、「Windows転送ツール」は利用できません。

※Windows 2000をご利用の場合、プログラムの設定とシステムの設定は移行できません。

1 「Windows転送ツール」を使う準備をする

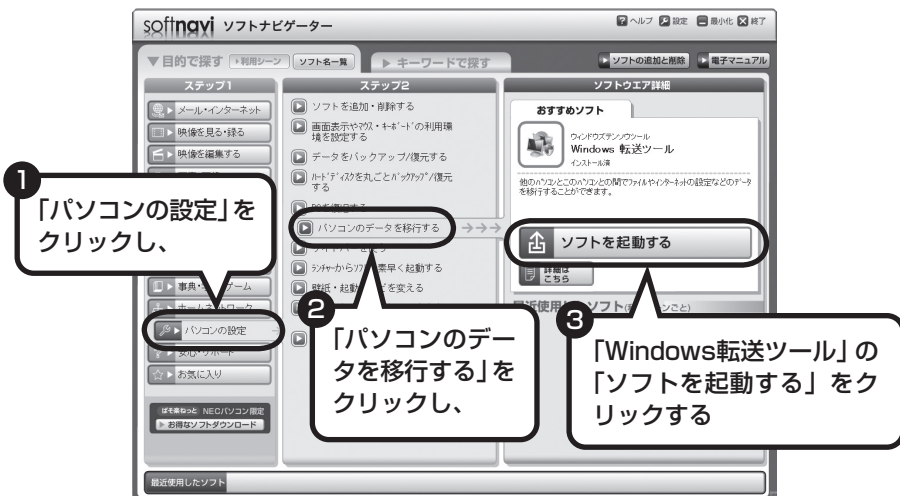
ご使用の状況によって、次のものが必要になる場合があります。

・書き込み可能なCDまたはDVD
・USBフラッシュメモリまたは外付けハードディスク
・LANケーブル
・転送ツールケーブル

- **使用可能なディスクについて詳しくは、「ヘルプとサポート」をご覧ください。**
- **HUB(ハブ)を使って接続するときは、2台のパソコンをそれぞれストレートケーブルでハブに接続してください(こちらの接続方法をおすすめします)。**
- **2台のパソコンをLANケーブルで直接接続するときは、クロスケーブルをお使いください。**
- **複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、管理者権限のあるユーザーでログオンしてください。ほかのユーザーはログオフしてください。**

2 「Windows転送ツール」を起動する

デスクトップ画面の (ソフトナビゲーター)をダブルクリックします。

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

3 画面の表示にしたがい操作する

画面の説明を読んで、「次へ」をクリックします。

その後は、画面に表示される説明を読みながら、設定を進めてください。

周辺機器を使えるようにする

古いパソコンに接続して利用していたプリンタなどの周辺機器は、そのままこのパソコンに接続できるとはかぎりません。

周辺機器を移行する前に確認が必要

Windows Vistaに対応していないソフトやドライバなどをインストールすると、不具合が起こる場合があります。十分な確認をおこなってください。

まずは、周辺機器のマニュアルでチェック

周辺機器に添付のマニュアルで、その機器がWindows Vistaに対応しているか確認してください。対応している場合、このパソコンとの接続方法や設定の手順についての説明をご覧ください。

メーカのホームページもチェック

周辺機器のマニュアルだけでなく、メーカのホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。Windows Vistaに対応した最新のドライバ（周辺機器を利用できるようにするためのソフト）がダウンロードできるときは、最新のドライバをお使いください。

周辺機器の一般的な移行手順

古いパソコンから周辺機器を取り外す

取り外しの手順については、周辺機器に添付のマニュアルや、古いパソコンに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンに周辺機器を取り付け・接続する

USB接続する周辺機器などの場合、このパソコンに取り付け・接続する前に、ドライバなどをインストールしておく必要があることもあります。マニュアルなどで確認してください。

このパソコンで使用できるように設定する

周辺機器によっては、取り付け・接続するだけで使えるようになるものもあります。パソコンでの設定方法についても、マニュアルなどで確認してください。

周辺機器の動作確認をおこなう

周辺機器を移行したら、うまく動作するか確認してください。うまく動作しないときは、ドライバや添付ソフトなどを確認して、周辺機器のメーカにお問い合わせください。

ソフトを移す

古いパソコンで利用していたソフトを、このパソコンで利用するときに注意することを説明します。

ソフトを移行する前に

Windows Vistaに対応していないソフトやドライバなどをインストールすると、不具合が起こる場合があります。十分な確認をおこなってください。

このパソコンに最新版が入っていないかチェック

このパソコンには、主要なソフトが入っています。これまで利用していたソフトの最新版や、同じ用途のソフトが見つかるかもしれません。

ソフトのマニュアルをチェック

ソフトに添付のマニュアルで、Windows Vistaに対応しているか確認してください。対応していない場合、このパソコンでは利用できません。

開発元のホームページもチェック

ソフトの開発元のホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。Windows Vistaに対応するための方法など、マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。

ソフトの一般的な移行手順

必要な情報を確認する

マニュアルなどで、インストールに必要な情報を確認します。ユーザー名やライセンスキーなどが必要な場合は、それらの情報をメモしておきましょう。ソフトによっては設定を移行する機能を持つものがあります。その場合、マニュアルやホームページなどで移行方法を調べてください。

ライセンスとは

ソフトのメーカが購入者に対して許諾する、使用権を「ライセンス」と呼びます。ライセンスの条件にしたがわずにソフトを使用した場合は不正使用になり、著作権を侵害してしまうこともあります。ライセンスの内容を確認して、不正使用にならないようにアンインストールやインストールをおこなってください。

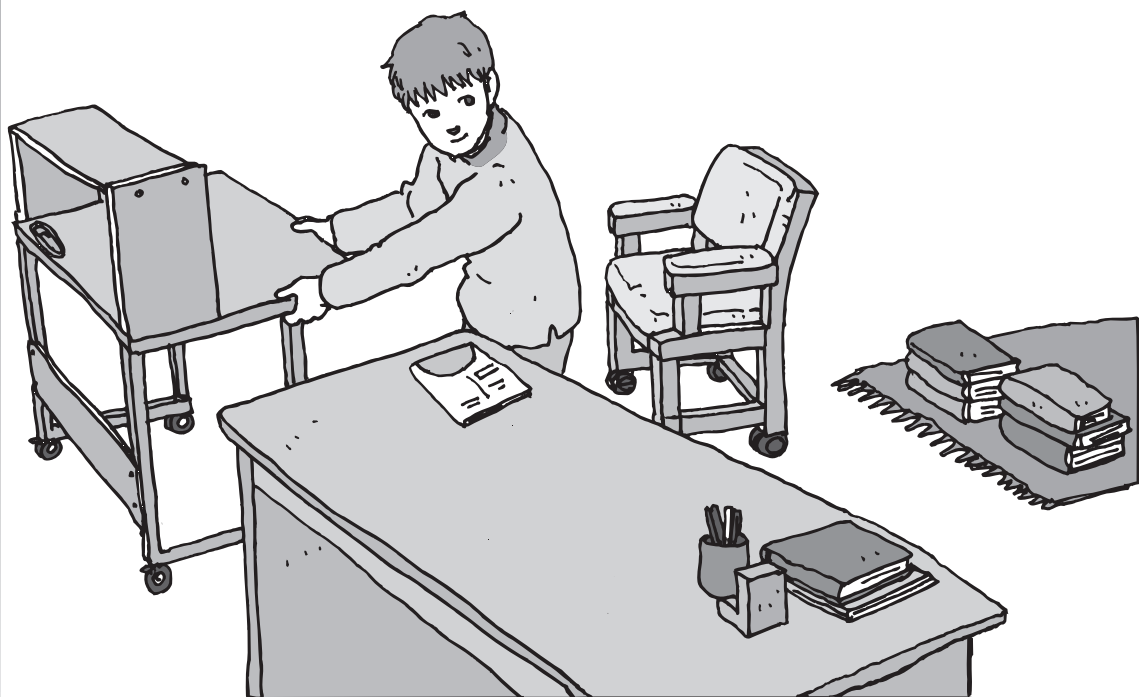
古いパソコンからソフトをアンインストールする

アンインストールの方法については、ソフトに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンにインストールする・必要な設定をおこなう

マニュアルなどをご覧になり、このパソコンにインストールしてください。必要に応じて、インストール後の設定作業をおこなってください。

第7章

前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ

このパソコンには、パソコンを接続してホームネットワークを作るためのソフト「ホームネットサポーター」が入っています。
家庭でネットワークを作ることの利点や、「ホームネットサポーター」の使い方を紹介します。

ホームネットワークでできること

複数のパソコンをつなぐことで、もっと便利にパソコンライフが広がります。

複数のパソコンから同時にインターネットを利用できる

FTTHなどでブロードバンド接続を利用している場合、複数のパソコンから同時にインターネットを楽しむことができるようになります。複数のパソコンでインターネットを利用しても、電話機はこれまでどおり使えます。

プリンタを共有して、複数のパソコンから印刷する

ホームネットワークがあれば、どのパソコンからも1台のプリンタで印刷できるようになります。そのたびにプリンタをつなぎ替えたり、プリンタが接続されたパソコンに移動したりする必要がありません。

パソコン同士で簡単にデータを受け渡しできる

デジタルカメラの画像やパソコンで作成した文書などを、家庭内のパソコン同士で受け渡せるようになります。フロッピーディスクやメモリーカードなどを使う必要はありません。ファイルサイズの大きなデータでも、手軽にやりとりできます。

ほかのパソコンの共有フォルダにデータをバックアップ

ホームネットワークがあれば、「バックアップ・ユーティリティ」というソフトを使ってこのパソコンのデータをネットワーク上にあるほかのパソコンの共有フォルダにバックアップを取ることができます。大切なデータを間違って削除してしまったときなどに、ほかのパソコンにバックアップを取っておいたデータを使ってもとに戻すことができます。
1日1回、週に1回などバックアップを取るスケジュールを設定できるので、定期的にバックアップを取ることができます。

ホームネットワークも、LANのひとつ

会社や学校で、複数のパソコンをつないでいる環境があるかたは、「LAN(ラン)」という言葉を耳にしたことがあるかもしれません。「LAN」とは「ローカル・エリア・ネットワーク」の略で、同じ建物に置かれたパソコンやプリンタなどの周辺機器をつないで情報をやりとりできるようにしたものです。ホームネットワークも、LANのひとつです。

ホームネットワークを構成するのに必要な機器

3台以上のパソコンをつなぐには、ルータまたはHUB(ハブ)という中継機器が必要になります。2股や3股のLANケーブルを使うのではありません。ホームネットワークとインターネットとの中継に利用する場合にはルータを使用するとよいでしょう。そのほか、接続できる台数によっても種類があります。目的に合わせて別途ご購入ください。

複数のパソコンを ホームネットワークでつなぐ

「ホームネットサポーター」が利用できる条件や、設定の進め方について説明します。

「ホームネットサポーター」の利用条件

「ホームネットサポーター」を使用するには、次の条件を満たしている必要があります。

接続したいパソコンのOSが次のいずれかに該当すること

- Windows Vista Ultimate
- Windows Vista Home Premium
- Windows Vista Home Basic
- Windows Vista Business
- Windows XP Professional Service Pack 2
- Windows XP Home Edition Service Pack 2
- Windows XP Media Center Edition 2005

接続したいパソコンのOSが上記以外の場合、「ホームネットサポーター」は利用できません。

ご利用の回線がFTTHまたはADSLであること

ISDN、CATVをご利用の場合、「ホームネットサポーター」は利用できません。
また、はじめてインターネットに接続する際のルータ設定機能は、FTTHをサポートしていません。あらかじめインターネットの接続設定を手動でおこなった後、ホームネットサポーターを利用してください。

「ホームネットサポーター」が利用できないとき

パソコンのOSや通信回線などが上記の条件に該当しないときは、手動でネットワークの設定をおこなう必要があります。詳しくは、パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「LAN」をご覧ください。

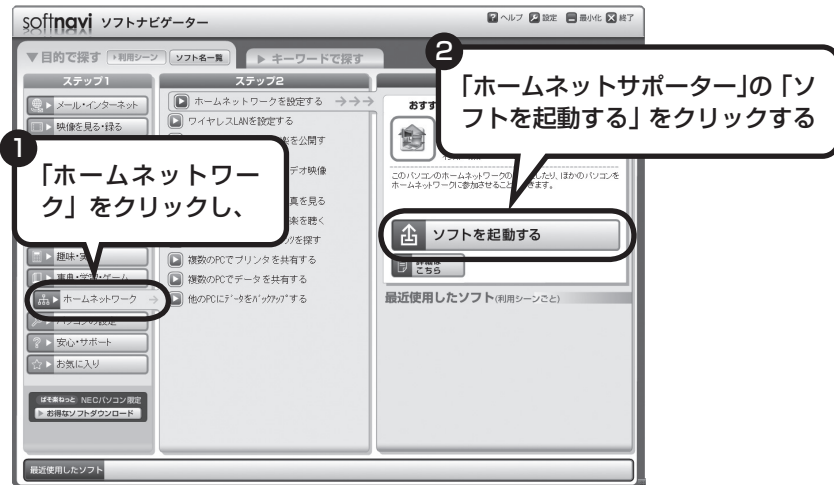
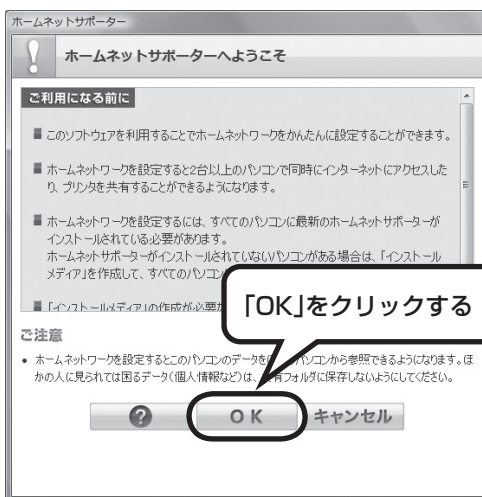
1 「ホームネットサポーター」を使う準備をする

未使用のディスク（CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW、DVD-RAM）を1枚用意します。
ホームネットワークに接続するほかのパソコンに、「ホームネットサポーター」をインストールするディスクを作成します。

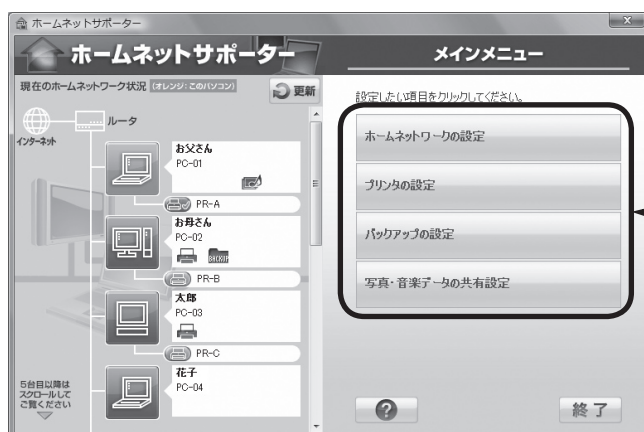
複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、管理者のユーザーでログオンしてください。ほかのユーザーはログオフしてください。

2 「ホームネットサポーター」を起動する

デスクトップ画面の（ソフトナビゲーター）をダブルクリックします。

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

「ホームネットサポーターへようこそ」の画面が表示されます。

「インストールメディア」を作成する画面が表示されます。画面の説明を見て、インストールメディアを作成し、ホームネットワークの初期設定をしてください。設定が終わると次の画面が表示されます。

3 ホームネットワークを設定する

メインメニューから設定したい項目をクリックし、画面に表示される説明を読みながら、設定を進めてください。

メインメニューからは次の設定をおこなえます。
・ホームネットワークの設定
・プリンタの設定
・バックアップの設定
・写真・音楽データの共有設定

インストールされているソフトやその他の条件により、利用できる機能には違いがあります。また、パソコンのOSによっては、画面や設定手順が異なります。

ワイヤレスLANのセキュリティについて

ワイヤレスLANを使ってホームネットワークを構成することもできます。ワイヤレスLANは便利ですがセキュリティ設定をしなければ外部のネットワークから不正にアクセスされたり、ウイルスなどに侵入されたりする危険があります。トラブルの防止のためにもセキュリティ対策をしっかりおこなってください。
使用できるワイヤレスLANのセキュリティと設定方法は、お使いのワイヤレスLANアクセスポイントまたはワイヤレスLANルータによって異なります。詳しくは、ワイヤレスLANアクセスポイントまたはワイヤレスLANルータに添付のマニュアルをご覧ください。

第8章

パソコン内部に取り付ける

メモリを増設して、パソコンをパワーアップすることができます。パソコン内部のほかの部品を傷つけたりしないよう、手順の説明をよく読んでから作業してください。

メモリ

メモリを増やすことで、より多くのソフトを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。
このパソコンでメモリを増やすときには、別売の増設RAM(ラム)ボードをメモリスロットに取り付けます。

メモリを増やすには

どのくらいメモリを増やすかを決める

LaVie Lアドバンストタイプの場合は、最大4.5Gバイトまで、
LaVie Lスタンダードタイプ（e）の場合は、最大2Gバイトまで増やせます。

必要なものを準備する

必要な増設RAMボードなどを準備します。

増設RAMボードを取り付ける

本体底面のメモリスロットのカバーを取り外し、用意した増設RAMボードを専用のスロットに取り付けます。取り付けたらカバーをもとに戻します。

メモリが増えたかどうか確認する

本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

LaVie Lアドバンストタイプの場合、最大4.5Gバイトのメモリを搭載可能ですが、使用できる領域は4Gバイトまでとなります。また､PCIデバイス等のメモリ領域を確保するために､すべての領域を使用することはできません。なお、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。

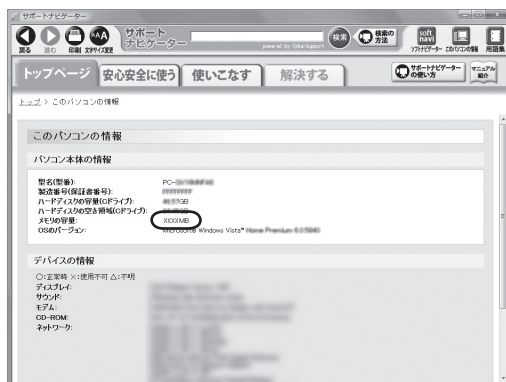
メモリを確認する

お使いのモデルのメモリ容量は次の方法で確認できます。

1 デスクトップの （サポートナビゲーター（電子マニュアル））をダブルクリックする

パソコンの画面で見るマニュアル「サポートナビゲーター」が表示されます。

2 をクリックする

メモリ容量が表示されます。

メモリ容量は実際より少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。

メモリの増やし方の例

LaVie Lアドバンストタイプ

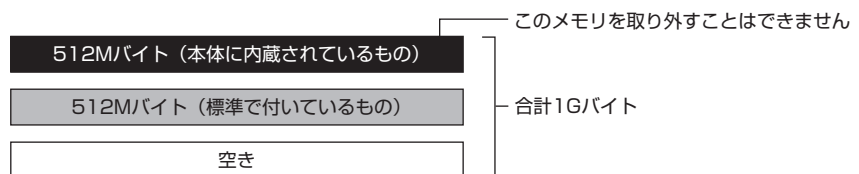
このパソコンには、本体内部に512Mバイトのメモリが内蔵されていて、さらに増設RAMボード(SO-DIMM:エスオーディィム)を差し込むスロット(コネクタ)が、2つ用意されています。このパソコンは、デュアルチャネルのメモリアクセスに対応しております。

ここでは、標準で本体内部に512Mバイト、スロットに512Mバイトの合計1Gバイトのメモリが付いている場合を例にメモリの増やし方を説明します。

このメモリを取り外すことはできません

512Mバイト(本体に内蔵されているもの)

512Mバイト(標準で付いているもの)

空き

合計1Gバイト

※標準で付いているメモリの数は、モデルによって異なります。

デュアルチャネルとは、内蔵されているメモリを内部的に2つのチャネルに分けることで、データ転送性能を約2倍に高速化する技術のことです。このパソコンでは、内蔵されている512Mバイトと増設スロットに追加した増設RAMボードの512Mバイト(合計1Gバイト)の容量分がデュアルチャネルとして動作します。差分の容量はシングルチャネルとして動作します。

空いている残りの1スロットに、増設RAMボードを追加することで、メモリを増やします。また、標準で付いているRAMボードを取り外して、より大きな容量の増設RAMボードに取り替えることもできます。メモリは、最大で4.5Gバイト(内蔵されている512Mバイト+2Gバイトの増設RAMボード×2枚)まで増やすことができます。

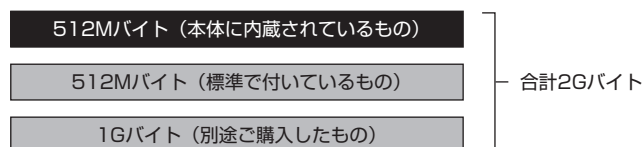
●例1:2Gバイトにする場合

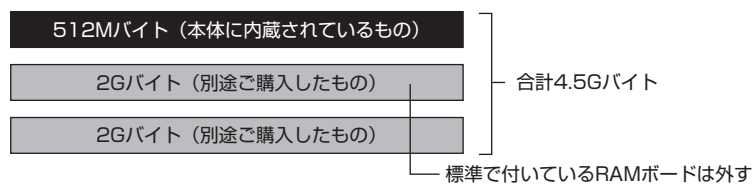
空いているスロットに1Gバイトの増設RAMボードを1枚取り付けます。

512Mバイト(本体に内蔵されているもの)

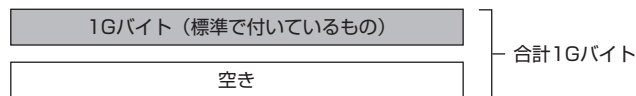
512Mバイト(標準で付いているもの)

1Gバイト(別途ご購入したもの)

合計2Gバイト

●例2：4.5Gバイト（最大）にする場合

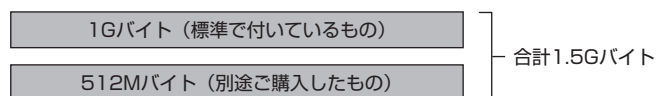
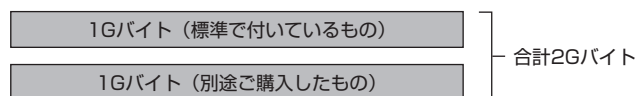
標準で付いているRAMボードを取り外し、2Gバイトの増設RAMボードを2枚取り付けます。

実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より少ない値になります。

LaVie Lスタンダードタイプ（e）

このパソコンには、増設RAMボード（SO-DIMM：エスオーディム）を差し込むスロット(コネクタ)が､2つ用意されています。
ここでは、標準で1GバイトのRAMボードが付いている場合を例にメモリの増やし方を説明します。

※標準で付いているメモリの数は、モデルによって異なります。

空いている残りの1スロットに、増設RAMボードを追加することで、メモリを増やします。メモリは、最大で2Gバイト（1Gバイトの増設RAMボード×2枚）まで増やすことができます。

ご購入時に、512MバイトのRAMボードを選択された場合は、標準で付いているRAMボードを取り外し、より容量の大きい増設RAMボードを追加することでメモリを増やします。

● 例1：1.5Gバイトにする場合
512Mバイトの増設RAMボードを1枚追加します。

● 例2：2Gバイト（最大）にする場合
1Gバイトの増設RAMボードを1枚追加します。

実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より少ない値になります。

このパソコンで使える増設RAMボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設RAMボード」というボードを使います。

このパソコンでは、次の増設RAMボードを使うことをおすすめします。

型名	メモリ容量
PC-AC-ME021C	512Mバイト
PC-AC-ME022C	1Gバイト
PC-AC-ME025C※1	2Gバイト

(DDR2 SDRAM/SO-DIMM、PC2-5300タイプ※2)

※1:LaVie Lアドバンストタイプのみ使用できます。
※2:LaVie Lスタンダードタイプ（e）では、PC2-4200として動作します。

- 「SIMM(シム)」や、DDR2が付かない「SDRAM/SO-DIMM」というタイプの増設RAMボード（メモリ）は使用できません。間違ってご購入しないように注意してください。
- 市販の増設RAMボードに関する動作保証やサポートはNECではおこなっていません。販売元にお問い合わせください。

増設RAMボードを取り扱うときの注意

- 増設RAMボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因になります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- 増設RAMボードの金属端子部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因になります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

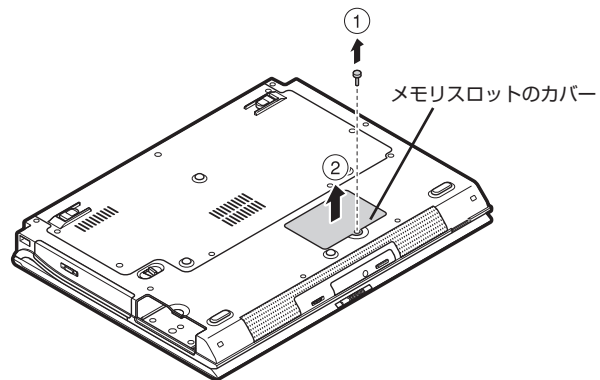
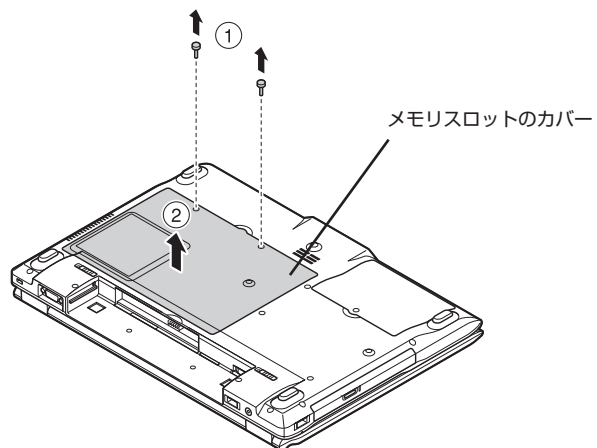
増設RAMボードの取り付けと取り外し

増設RAMボードの取り付け方

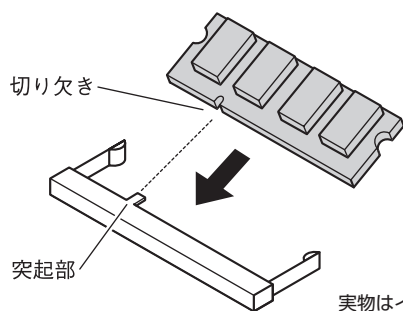
増設RAMボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で扱うと破損する原因になりますので、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に触れて静電気を取り除いてください。

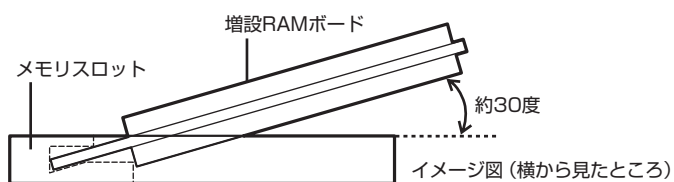
1 「バッテリパックの取り外し方」(7ページ)の手順でバッテリパックを取り外す

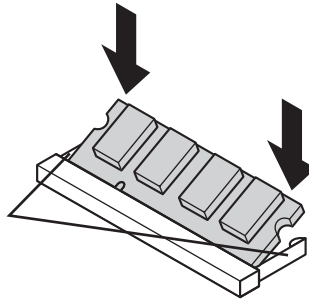
2 図のネジをプラスドライバーでゆるめて外し、メモリスロットのカバーを取り外す

● LaVie Lアドバンストタイプの場合

● LaVie Lスタンダードタイプ(e)の場合

3 **増設RAMボードの切り欠き部分とメモリスロットにある突起部を合わせ、スロットに対して約30度の角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで差し込む**

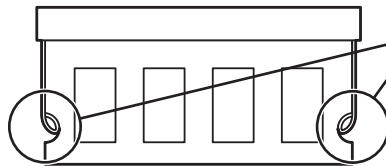
増設RAMボードが奥まで入っている場合は、端子部分（金色）のほとんどが、メモリスロットに差し込まれた状態になります。

増設RAMボードの表と裏が間違っている場合、増設RAMボードの切り欠きとメモリスロットの突起部の位置が合わず、差し込むことができません。間違った向きのままで無理に取り付けようとすると、メモリスロットや増設RAMボードが破損する原因になりますので注意してください。

実物はイラストと多少異なる場合があります

イメージ図（横から見たところ）

差し込むときに、メモリスロットが固いことがありますが、奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順をおこなうと、コネクタを破損するおそれがあります。

4 カチッと音がする位置まで増設RAMボードをメモリスロットに強く倒し込む

5 増設RAMボードがメモリスロットにしっかりロックされたことを確認する

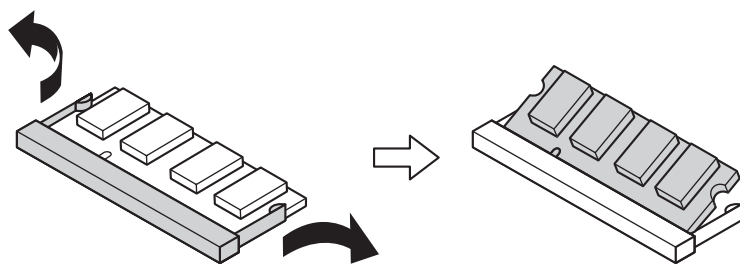
正しくロックされている場合は、増設RAMボードが水平で、端子の金色の部分が少し（1mm程度）見える状態です。

確実にロックされていないと、メモリスロットや増設RAMボードの故障の原因になります。また、パソコンが正しくメモリを認識できないこともあります。

6 メモリスロットのカバーをもとに戻し、ネジでカバーを本体底面に取り付ける

7 バッテリパックとACアダプタを取り付ける

増設RAMボードの取り外し方

1 「増設RAMボードの取り付け方」の手順1 ～ 2をおこない、メモリスロットのカバーを取り外す

2 メモリスロットの両端部分を左右に押し広げる
増設RAMボードが図のように起き上がります。

3 起き上がった増設RAMボードをそのまま斜めに引き抜く

4 メモリスロットのカバーをもとに戻し、外したネジでカバーを本体底面に取り付ける

5 バッテリパックとACアダプタを取り付ける

増やしたメモリ容量を確認する

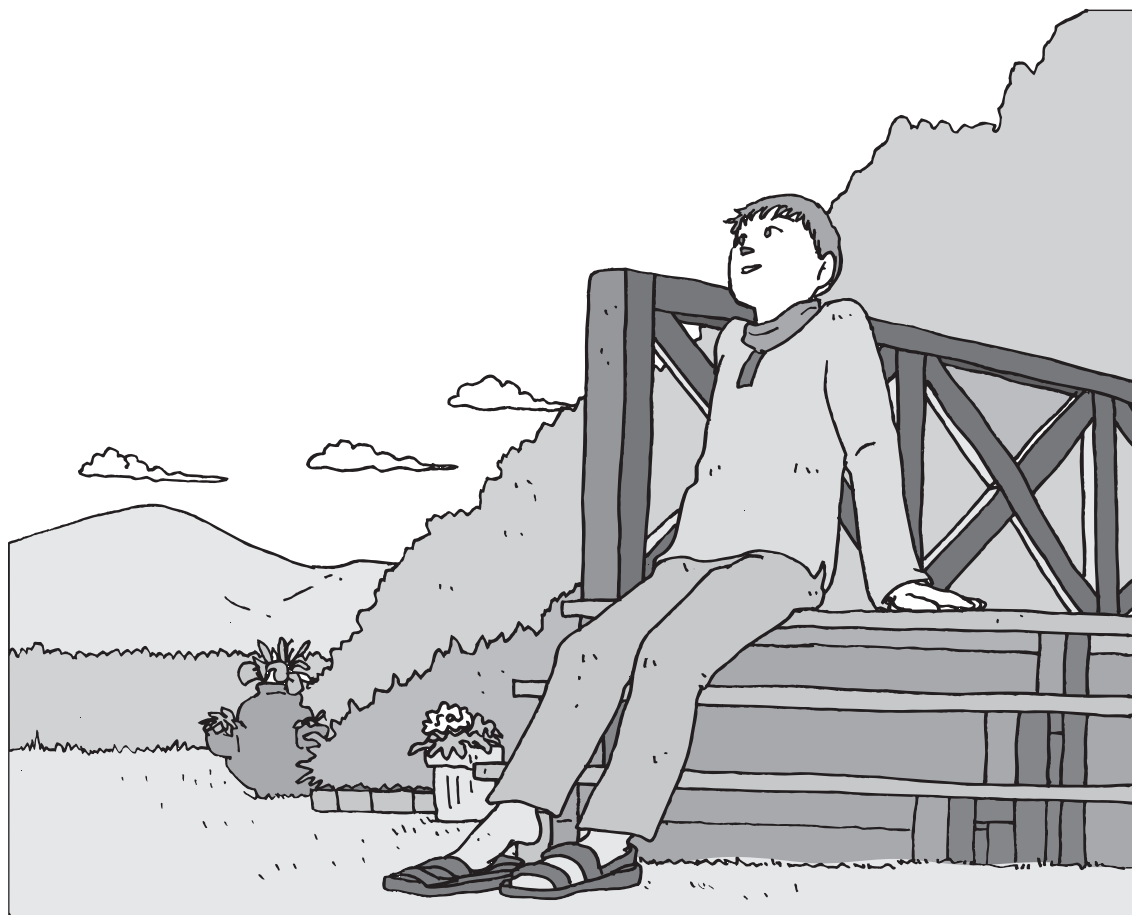
パソコンの電源を入れ、「メモリを確認する」(129ページ)の手順で増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

メモリを増設した場合、初期化のため、電源を入れてからディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。

メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

- メモリが正しく取り付けられているか?
- このパソコンで使える増設RAMボードを取り付けているか?

付　録

FeliCaポートを使う

Felica対応モデルには、FeliCaを利用した非接触ICカードを読み書きできる「FeliCaポート」が内蔵されています。

FeliCaプラットフォームマークは、本製品がFeliCaを利用したマルチアプリケーションプラットフォームに対応していることを表しています。

FeliCaとは

非接触ICカード技術方式 “FeliCa”とは、電子マネー、交通機関のプリペイドカード、各社のポイントカードなどに採用されているICカード規格のひとつです。非接触型なのでこのパソコンの「FeliCaポート」やお店の読取装置、改札機にかざすだけで使えます。
このパソコンで使えるのは「FeliCa対応カード」と「FeliCa対応携帯電話」です。

- **このマニュアルでは、「FeliCa対応カード」と「FeliCa対応携帯電話」をあわせて「FeliCa対応カード」と呼びます。**
- **このパソコンに内蔵されている「FeliCaポート」でご利用できるFeliCa対応カードについては、(http://www.justsystem.co.jp/atlife/kazasu/card/)をご覧ください。**
- **「FeliCaポート」は、無線機器の一種です。取り扱いの注意事項について、『安全にお使いいただくために』もご覧ください。**

「FeliCaポート」利用上の注意

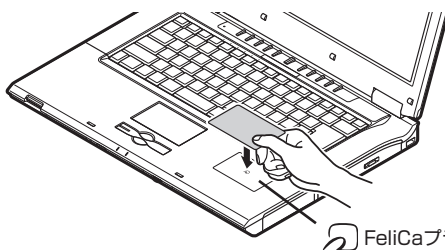
- 本製品は、日本国内での電波法に基づく型式指定を受けた誘導式読み書き通信設備です。
- 本製品を分解、改造したり、型式番号を消したりすると法律により罰せられることがあります。
- 心臓ペースメーカ装着部位から30センチ以上離して使用してください。
  電波によりペースメーカの作動に影響をあたえる場合があります。
- 医療機関側が本製品の使用を禁止した区域では、本製品のポーリングをオフにしてください。

● パスワードの扱いにご注意ください

FeliCa対応カードやおサイフケータイは、現金やクレジットカードなどと同等の価値を持っています。サービスをご利用の際に必要となる暗証番号は、他人に知られないように十分ご注意ください。
暗証番号の不正使用により生じた損害については弊社では保証いたしかねます。

FeliCa対応カードを使う

1 FeliCa対応カードのかざし方

FeliCa対応カードの中心を「FeliCaポート」の「FeliCaプラットフォームマーク」に合わせて置きます。カードの裏表は問いませんが、携帯電話の場合は電話側のFeliCaプラットフォームマークが付いている面と合わせて置いてください。

FeliCa対応カードを「FeliCaポート」にかざすと、FeliCa対応ソフト「かざしてナビ」が表示されます。

- **カードは必ず1枚のみセットしてください。複数枚のカードをかざすと、正しく読み取れません。**
- **「FeliCaポート」からはみ出したり、傾けたりしてカードをかざすと、正しく認識できないことがあります。**

2 「かざしてナビ」を使う

FeliCa対応カードやFeliCa対応携帯電話をかざすと、FeliCa対応カードをパソコンで活用するためのソフト「かざしてナビ」が自動的に表示されます。

この画面から対応するソフトを起動してください。

- 各ソフトについて詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」または、各ソフトのヘルプをご覧ください。
- FeliCa対応カードをかざすタイミングは、各ソフトにより異なります。各ソフトの画面表示を見ながら操作してください。

「スクリーンセーバーロック2」について

スクリーンセーバーロック2を登録したが、登録したFeliCa対応カードや携帯電話、またはパスワードを両方なくしてしまったときは、次の方法でスクリーンセーバーを解除してください。

【Ctrl】と【Alt】を押しながら【Del】を1 回押してください。Windowsのログオン画面が表示された場合は、ログオン中のアカウントをクリックしてログオンしてください。ロックが解除されます。

- Windowsのログオンパスワードを要求された場合は、パスワードを入力します。
- メニュー画面が表示された場合は、「ユーザーの切り替え」をクリックすると、Windowsのログオン画面が表示されます。

ロックが解除されたら、スクリーンセーバーロック2に、別のFeliCa対応カードや携帯電話と、新しいパスワードを登録してください。

- 上記の方法でのスクリーンセーバーロック2の解除はFeliCa対応カードや携帯電話、パスワードを必要としません。より安全にお使いいただくためには、Windowsログオンパスワードを設定し、ロック解除時にパスワードを入力するように設定することをおすすめします。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

1. 「スタート」-「コントロール パネル」-「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」-「ユーザーアカウントの追加または削除」をクリックする
2. 「変更するアカウントを選択してください」欄で、パスワードを設定するアカウントをクリックする
3. 「パスワードの作成」をクリックする
4. 「新しいパスワード」欄と「新しいパスワードの確認」欄に新しく設定するパスワードを入力し、必要に応じて「パスワードのヒントの入力」を入力する
5. 「パスワードの作成」をクリックする
6. 画面右上の[x]をクリックする
7. 「スタート」-「コントロールパネル」-「デスクトップのカスタマイズ」-「スクリーンセーバーの変更」をクリックする

8.「再開時にログオン画面に戻る」の☐をクリックして☑にする

9.「OK」をクリックする

この設定をおこなうと、スクリーンセーバーのロックを解除するときだけでなく、パソコンを起動するときや省電力状態から復帰するときにもWindowsのログオンパスワードの入力が必要になります。
また、パスワード入力の手間を省くためには、FeliCa対応ソフト「シンプルログオン」の併用をおすすめします。
登録したFeliCa対応カードをかざすことで、Windowsにログオンできるようになります。
詳しい操作方法については、シンプルログオンのヘルプを参照してください。

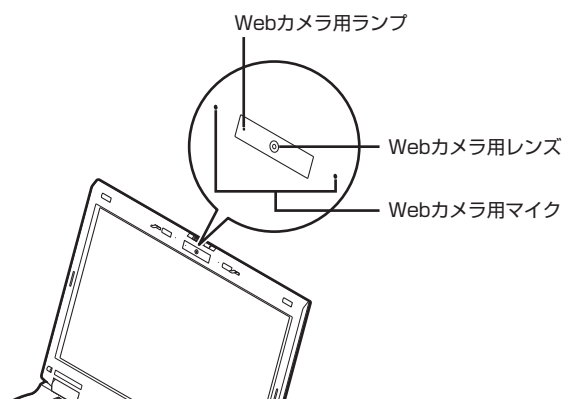
Webカメラを使う

ここでは、Webカメラの使い方について説明します。

Webカメラとは

LaVie Lアドバンストタイプのwebカメラを搭載したモデルでは、インスタントメッセンジャーを利用してテレビ電話（ビデオチャット）を楽しんだり、ビデオや写真を撮影してメールで送ることができます。Webカメラに顔を映してパソコンにログオンする顔認証として利用することもできます。

インスタントメッセンジャーとは、インターネットを通じてリアルタイムコミュニケーションを実現するアプリケーションのことです。ここでは、「Windows Live Messenger」というソフトを使用します。

Webカメラは、ディスプレイ上部中央に搭載されており、レンズ、マイク、およびランプで構成されています。レンズで対象を撮影し、マイクで音声を収集します。ランプはWebカメラを使用しているときに点灯します。

ご購入時には、レンズとランプ部に破損防止のための保護用シールが貼られています。Webカメラをご使用になる前に取り外してください。

Webカメラでできること

- **テレビ電話（ビデオチャット）**
  「Windows Live Messenger」というソフトを使用します。
- **写真やビデオの撮影**
  「Qcam for NEC」というソフトを使用します。「Qcam for NEC」については、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフト一覧」-「Qcam for NEC」をご覧ください。
- **顔認証でパソコンにログオン**
  「シンプルログオン」というソフトを使用します。

詳しい内容については、『活用ブック』の「今、注目の新機能／「Webカメラ」で気軽なコミュニケーション」をご覧ください。

テレビ電話をかける準備をする

- **テレビ電話を利用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。あらかじめインターネットの設定を済ませておいてください。送受信するデータ容量が大きくなるため、FTTHやADSLなどのブロードバンド接続をおすすめします。**
- **テレビ電話は、相手側にもWebカメラやマイクロフォンなどの周辺機器が必要になります。**
- **手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。**

ご購入時の状態では、「Windows Live Messenger」はインストールされていません。
はじめてテレビ電話をかけるときは、次の手順をおこなってください。

1 「ソフトナビゲーター」-「趣味・実用」-「Webカメラを使う」-「Windows Live Messenger」の「インストールして起動」をクリックする

画面の指示にしたがい、「Windows Live Messenger」をインストールしてください。インストール終了後、自動的にサインイン画面が表示されます。

- **「Windows Live Messenger」のインストールについて詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「ソフトの追加と削除」-「各ソフトの追加と削除について」をご覧ください。**
- **次回からは、デスクトップ画面の（Windows Live Messenger）をダブルクリックすると、サインイン画面が表示されるようになります。**

2 **サインイン画面下の「Windows Live IDの取得」をクリックして、IDを登録する**

IDの登録は無料です。

3 **メールアドレスとパスワードを入力し、「サインイン」をクリックする**

次回からは、取得したメールアドレスとパスワードを入力すると、すぐに始められます。

- **「メールアドレスと状態の保存」や「パスワードの保存」の左の□をクリックして☑にしておくと、次回から入力の手間を省くことができます。ただし、これらのチェックを入れた場合は、セキュリティをしっかり設定してください。**
- **メールアドレスとパスワードについて詳しくは、Windows Live Messengerのヘルプをご覧ください。**

テレビ電話を開始する場合は、次の手順に進んでください。

4 **画面右上の をクリックする**

5 **「操作」-「映像通話」-「映像通話の開始」をクリックする**

通話可能なメンバーが表示されます。

6 **通話するメンバーを選択し、「OK」をクリックする**

以降の操作は、画面に表示される説明を読みながら進めてください。

詳しい操作方法については、Windows Live Messengerのヘルプをご覧ください。

顔認証でパソコンにログオンする

「シンプルログオン」に顔写真を登録しておくと、Webカメラに顔を映すだけでWindowsにログオンできるようになります。

1 「ソフトナビゲーター」-「趣味・実用」-「Webカメラを使う」-「シンプルログオン」の「ソフトを起動する」をクリックする

シンプルログオン画面が表示されます。

2 「次へ」をクリックする

3 「Webカメラで顔を撮影してログオンします」の◯をクリックして◉にし、「次へ」をクリックする

4 認証用の顔写真を3枚撮影し、「次へ」をクリックする

5 「OK」をクリックする

6 撮影した顔写真で認証のテストをおこない、正しく認証できることを確認したら「登録」をクリックする

7 Windowsにログオンするときの表示名を入力し、「完了」をクリックする

ログオン画面で「シンプルログオン」が選択されていないときは、「ユーザーの切り替え」で「シンプルログオン」に切り換えます。詳しい操作方法については、シンプルログオンのヘルプを参照してください。

Qcam for NECを設定する

初めて「Qcam for NEC」を使用する場合は、次の設定をおこなってください。

マイクのセットアップ

Webカメラ用マイクからの録音音量を適切な状態に設定します。

1 「ソフトナビゲーター」-「趣味・実用」-「Webカメラを使う」-「Qcam」の「ソフトを起動する」をクリックする

2 表示されたメニューバーのをクリックする

3 表示された画面のタブをクリックする

4 「自動調整ウィザード」をクリックする

画面の表示にしたがい設定を進めてください。

アンチフリッカ（ちらつき軽減）

蛍光灯照明で撮影するときのちらつきを低減します。

1 「ソフトナビゲーター」-「趣味・実用」-「Webカメラを使う」-「Qcam」の「ソフトを起動する」をクリックする

2 表示されたメニューバーのをクリックする

3 表示された画面のタブをクリックする

4 「アンチフリッカ（ちらつき軽減）」から適切な値を選択する

ご購入時には「60Hz(西日本)」に設定されていますが、地域によって「50Hz(東日本)」に設定変更が必要です。また、蛍光灯照明の部屋で使用しない場合は、「オフ」に設定してください。

イメージの向き

録画する画像の向きを設定します。

1 「ソフトナビゲーター」-「趣味・実用」-「Webカメラを使う」-「Qcam」の「ソフトを起動する」をクリックする

2 表示されたメニューバーの をクリックする

3 表示された画面の タブをクリックする

4 「イメージの向き」で必要な設定項目の をクリックして にする

パソコンのお手入れ

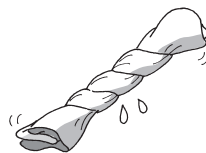
パソコンが汚れたときなど、日常のお手入れのしかたを説明します。

水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。

準備するもの

軽い汚れのとき

乾いたきれいな布

汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませて、よくしぼった布

シンナーやベンジンなど、揮発性の有機溶剤は使わないでください。これらの有機溶剤を含む化学ぞうきんも使わないでください。キーボードなどを傷め、故障の原因になります。

こんなものもあると便利

- OA用クリーニングキット
- 掃除機など

パソコンの電源を切って、電源コードを抜いてから

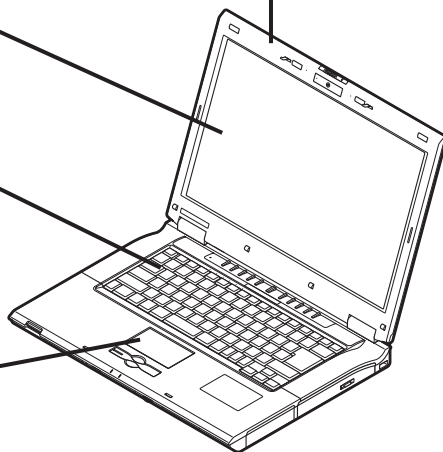
お手入れの前には、必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切ってください。通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっています。一度、Windowsを起動してから、「電源を切る（シャットダウンする）」（40ページ）の手順で電源を切ってください。電源コードはコンセントから抜いてください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電することがあります。

パソコン各部の清掃のしかた

液晶ディスプレイ
やわらかい素材の乾いたきれいな布でふいてください。
化学ぞうきんやぬらした布は使わないでください。

パソコン本体
やわらかい布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

キーボード
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。
キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。

NXパッド
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

電源コード／ACアダプタ
電源コードのプラグを長期間コンセントに接続したままにすると、プラグにホコリがたまることがあります。
定期的にやわらかい布でふいて、清掃してください。

マウス（添付モデルのみ）
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

※イラストはモデルによって異なります。

バッテリリフレッシュについて

バッテリの機能を回復するバッテリリフレッシュについて説明します。バッテリについて詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「バッテリ」をご覧ください。

バッテリは、使い続けていくうちに、フル充電してもバッテリの電源のみでパソコンを使用できる時間が以前よりも短くなっていきます。このようなときは、バッテリリフレッシュをおこなうことでバッテリの性能を回復できます。

バッテリリフレッシュをおこなうのは、次のようなときです。

・バッテリの電源のみでパソコンを使用できる時間が、以前よりも短くなったとき
・ご購入直後や長期間放置した後で、バッテリの性能が一時的に低下しているとき
・バッテリの残量表示に誤差が生じているとき

バッテリリフレッシュは数時間かかります。時間に余裕のあるときにおこなってください。

バッテリリフレッシュをおこなう

1 パソコンの電源を切る

通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっています。一度、Windowsを起動してから、「電源を切る（シャットダウンする）」（40ページ）の手順で電源を切ってください。

2 バッテリリフレッシュをおこないたいバッテリパックをパソコンに取り付ける

取り付けられているバッテリをバッテリリフレッシュする場合は、そのまま手順3に進みます。バッテリの取り付け方については6ページをご覧ください。

3 パソコンにACアダプタを接続し、電源コードをコンセントに差し込む

バッテリ充電ランプ（）が点滅している場合は、一度ACアダプタを取り外し、バッテリパックを取り付けなおしてください。

4 バッテリをフル充電する

バッテリがフル充電されると、バッテリ充電ランプが消灯します。

5 パソコンの電源を入れ、「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。

BIOSセットアップユーティリティが表示されないときは、電源を入れなおして、【F2】を押す間隔を変えてください。

6 電源コードのプラグをコンセントから抜き、ACアダプタをパソコンから取り外す

7 【→】を押して「終了」を選び、【↓】を押して「バッテリリフレッシュ」を選んでから【Enter】を押す

バッテリリフレッシュが始まります。

バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。また、バッテリリフレッシュ中はACアダプタを接続しないでください。

バッテリリフレッシュが完了すると、自動的にパソコンの電源が切れます。
電源が切れたら、ACアダプタと電源コードを接続してバッテリをフル充電してください。

バッテリリフレッシュを中断する

●電源スイッチから中断する

バッテリリフレッシュ中に電源スイッチを押すと、バッテリリフレッシュが中断されて、パソコンの電源が切れます。

バッテリリフレッシュ中に、【Esc】を押したり、ACアダプタを接続したりすると、バッテリリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。このとき、ACアダプタを接続している場合はACアダプタを取り外した後、【↑】または【↓】を押して「Continue Battery Refresh」を選んで【Enter】を押してください。バッテリリフレッシュが続行されます。

DVD/CDドライブからディスクが取り出せなくなったときは

DVD/CDドライブからディスクが取り出せなくなったときの取り出し方を説明します。

パソコンの電源が入っていないと、DVD/CDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクは出てきません。
パソコンの電源が入っているにもかかわらず、ディスクトレイが出てこなくなった場合は、ソフトの異常な操作などでディスクが取り出せなくなっていることが考えられます。次の操作でディスクを取り出してください。

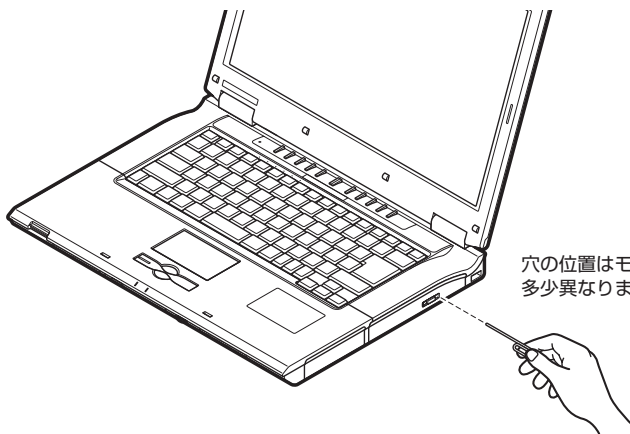
- **この方法でディスクを取り出す前に、『パソコンのトラブルを解決する本』第2章の「その他のトラブルがおきたとき」-「DVD/CDドライブからディスクを取り出せなくなった」をご覧になり、ディスクが取り出せないか試してください。**
- **この方法でディスクを取り出すときは、ディスクにアクセスしていない（CD/ハードディスクアクセスランプが点灯、点滅していない）ことを確認してください。アクセス中に取り出そうとすると、データが失われたり、ディスクが使えなくなる場合があります。**

⚠注意

ペーパークリップを使うときは、ペーパークリップのとがった部分で指を切ったりしないように、注意して作業してください。

1　太さが1.3mm程度、まっすぐな部分の長さが45mm程度（指でつまむ部分を除く）の針金を用意する

大きめのペーパークリップを伸ばして作ることができます。

2　非常時ディスク取り出し穴に、手順1で作った針金を差し込み、強く押し込む

ディスクトレイが少し飛び出します。

3　ディスクトレイを手前に引き出し、ディスクを取り出す

アフターケアについて

このパソコンに対する保守サービスや、消耗品・有寿命部品の内容について説明します。

保守サービスについて

保守サービスについては、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。詳しくは、添付の『121wareガイドブック』をご覧ください。

NEC 121コンタクトセンターなどにこのパソコンの修理を依頼する場合は、設定したパスワードを解除しておいてください。

消耗品と有寿命部品について

このパソコンには、消耗品と有寿命部品が含まれています。安定してご使用いただくためには、定期的な保守による部品交換が必要になります。特に長期間連続して使用する場合には、安全などの観点から早期の部品交換が必要です。

種類	内容説明	該当品または部品（代表例）
消耗品	使用頻度や使用量により消耗の進行が異なります。お客様ご自身でご購入いただき、交換していただくものです。本体の保証期間内であっても有償になります。	フロッピーディスク、CD-ROMディスク、DVD-ROMディスク、バッテリ、乾電池など
有寿命部品	使用頻度や経過時間、使用環境によって摩耗、劣化の進行に大きな差が生じ、修理による再生ができなくなる部品です。本体の保証期間内であっても部品代は有償になる場合があります。詳しくは、NEC 121コンタクトセンターの故障診断・修理受付窓口にご相談ください。	液晶ディスプレイ、ハードディスクドライブ、DVD/CDドライブ、キーボード、マウス、ファン、NXパッド

- 記載部品は代表例です。機種により構成部品が異なります。詳しくは、「仕様一覧」をご覧ください。
- 有寿命部品の交換時期の目安は、1日8時間のご使用で1年365日として約5年です。上記期間はあくまでも目安であり、上記期間中に故障しないことや無償修理をお約束するものではありません。
  また、長時間連続使用等のご使用状態や、温湿度条件等のご使用環境によっては早期に部品交換が必要となり、製品の保証期間内であっても有償となることがあります。
- 本製品の補修用性能部品の最低保有期間は、PC本体、オプション製品については製造打切後6年です。

パソコンの譲渡、廃棄、改造について

パソコンを他人に譲るとき、廃棄のときの注意事項を説明します。また、パソコンの改造はおこなわないでください。

このパソコンを譲渡するには

パソコン内のハードディスクには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように、譲渡の際にはこれらの情報を削除することをおすすめします。このパソコンのハードディスクのデータを消去する方法については、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを使って再セットアップする」-「ハードディスクのデータ消去」をご覧ください。

譲渡するお客様へ

このパソコンを第三者に譲渡（売却）する場合は、次の条件を満たす必要があります。

1. 本体に添付されているすべてのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと。
2. 各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと。
3. 譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、削除した後譲渡すること（本体に添付されている「ソフトウェア使用条件適用一覧」をご覧ください）。

※ 第三者に譲渡（売却）する製品をお客様登録している場合は、121ware.comのマイページ(http://121ware.com/my/)の保有商品情報で削除いただくか、または Eメールアドレス webmaster@121ware.com宛にご連絡ください。

譲渡を受けたお客様へ

NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」での登録をお願いします。

http://121ware.com/my/　にアクセス

- はじめて登録するかた

  「新規取得」をクリックして登録

- 以前ハガキ、オンライン、FAXなどで登録されたかた

  「インターネット以外の方法でご登録済みの方はこちら」をクリックして登録

- すでにログインIDをお持ちのかた

  「ログイン」をクリックして、ログイン後、保有商品情報の「新規・追加登録」で登録

インターネットに接続できないかたは、お客様登録に必要な次の事項を記入し、郵送してください。

1. 本体型番、型名のいずれかと保証書番号

（本体背面／底部または保証書に記載の型番／型名のいずれかと製造番号）

2. 氏名、住所、電話番号、Eメールアドレス、中古購入された場合はそのご購入先、ご購入日

3. 121wareお客様登録番号

（以前登録されてすでに「121wareお客様登録番号」をお持ちのかたは、記入をお願いします。）

宛先

〒143-8691　東京都大森郵便局 私書箱5号

NEC121ware登録センター係

このパソコンを廃棄するには

本製品は「資源有効利用促進法」に基づく回収再資源化対応製品です。PCリサイクルマークが銘板（パソコン本体の底面にある型番、製造番号が記載されたラベル）に表示されている、またはPCリサイクルマークのシールが貼り付けられている弊社製品は、弊社が責任を持って回収、再資源化いたします。希少資源の再利用のため、不要になったパソコンのリサイクルにご協力ください。

当該製品をご家庭から排出する際、弊社規約に基づく回収･再資源化にご協力いただける場合は、別途回収再資源化料金をご負担いただく必要はありません。

廃棄時の詳細については、NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」(URL:http://121ware.com/support/recyclesel/)をご覧ください。

なお、下記の窓口でも廃棄についてお問い合わせいただけます。

NEC 121コンタクトセンター

回収リサイクルのお問い合わせ　受付時間:9:00 ～ 17:00 (年中無休)

フリーコール 0120-977-121

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

携帯電話やPHS、もしくはIP電話など、フリーコールをご利用いただけないお客様は下記電話番号へおかけください。

03-6670-6000 (東京)(通話料金はお客様負担になります)

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

当該製品が事業者から排出される場合（産業廃棄物として廃棄される場合）、当社は資源有効利用促進法に基づき、当社の回収・リサイクルシステムにしたがって積極的に資源の有効利用につとめています。廃棄時の詳細については、下記のホームページで紹介している窓口にお問い合わせください。

URL：http://www.nec.co.jp/eco/ja/products/3r/shigen_menu.html

※本文に記載された電話番号や受付時間などは、将来予告なしに変更することがあります。

ハードディスク、メモリーカード上のデータ消去に関するご注意

本内容は「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」の趣旨に添った内容で記載しています。詳細は以下のホームページをご覧ください。
http://it.jeita.or.jp/perinfo/release/020411.html

パソコンのハードディスクやメモリーカードには、お客様が作成、使用した重要なデータが記録されています。このパソコンを譲渡または廃棄するときに、これらの重要なデータ内容を消去することが必要になります。「データやファイルの消去」、「ハードディスクの初期化（フォーマット）」、「メモリーカードの初期化（フォーマット）」、「パソコンの再セットアップ」などの操作をおこなうと、記録されたデータの管理情報が変更されるためにWindowsでデータを探すことはできなくなりますが、ハードディスクやメモリーカードに磁気的に記録された内容が完全に消えるわけではありません。
このため、データ回復用の特殊なソフトウェアを利用すると、ハードディスクやメモリーカードから消去されたはずのデータを読み取ることが可能な場合があり、悪意のある人によって予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が廃棄・譲渡などをおこなう際、ハードディスクおよびメモリーカード上の重要なデータの流出トラブルを回避するために、記録された全データをお客様の責任において完全に消去することが非常に重要です。データを消去するためには、専用ソフトウェアまたはサービス（ともに有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊（メモリーカードの場合は、金槌による物理的破壊のみ）して、読めなくすることを推奨します。有償のデータ消去サービスは、NECフィールディング株式会社にご依頼ください。

NECフィールディングホームページURL：http://www.fielding.co.jp/

このパソコンでは、再セットアップディスクを作成して、ハードディスクのデータ消去ができます。詳しくは『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを使って再セットアップする」-「ハードディスクのデータ消去」 をご覧ください。

また、ハードディスクやメモリーカード上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなく譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。十分な確認をおこなってください。

パソコンの改造はおこなわない

添付されているマニュアルに記載されている以外の方法で、このパソコンを改造・修理しないでください。記載されている以外の方法で改造・修理された製品は、当社の保証や保守サービスの対象外になることがあります。

仕様一覧

本体仕様一覧

LL850/KG、LL800/KG、LL750/KG

型名			LL850/KG	LL800/KG	LL750/KG
型番			PC-LL850KG	PC-LL800KG	PC-LL750KG
インストールOS・サポートOS			Windows Vista® Home Premium（日本語版）※1※2		
CPU			インテル® Core™ 2 Duo プロセッサー T7250（2GHz）※34 （拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジー搭載※3）		インテル® Celeron® プロセッサー 530（1.73GHz）
	キャッシュメモリ	1次	インストラクション用32KB×2/データ用32KB×2		インストラクション用32KB/データ用32KB
		2次	2,048KB		1,024KB
バスクロック	システムバス		800MHz		533MHz
	メモリバス		667MHz		
チップセット			ATI Radeon™ Xpress 1250/SB600		
メインメモリ※4	標準容量／最大容量※5		1GB※6（DDR2 SDRAM/On Board 512MB＋SO-DIMM 512MB、デュアルチャネル対応、PC2-5300対応）／4GB※8※7※33		
	スロット数		2スロット［空き1］		
表示機能	内蔵ディスプレイ		15.4型ワイド 高輝度・広色度域・広視野角TFTカラー液晶（スーパーシャインビューEX3液晶）[WXGA+(最大1,440×900ドット表示)]	15.4型ワイド 高輝度・広色度域・広視野角TFTカラー液晶（スーパーシャインビューEX2液晶）[WXGA(最大1,280×800ドット表示)]	15.4型ワイド 高輝度・広色度域・広視野角TFTカラー液晶（スーパーシャインビューEX3液晶）[WXGA+(最大1,440×900ドット表示)]
		LCDドット抜けの割合※14	0.00018%以下	0.00023%以下	0.00018%以下
	表示色（解像度）※9	内蔵ディスプレイ	最大1,677万色※10 (1,440×900ドット、1,024×768ドット、800×600ドット)	最大1,677万色※10 (1,280×800ドット、1,024×768ドット、800×600ドット)	最大1,677万色※10 (1,440×900ドット、1,024×768ドット、800×600ドット)
		別売の外付けディスプレイ接続時（HDMI接続時）※11	最大1,677万色 (1,920×1,080ドット※12、1,600×1,200ドット、1,280×1,024ドット、1,280×720ドット※12、1,024×768ドット、800×600ドット、720×480ドット※12) 対応映像方式：1125p(1080p)、1125i(1080i)、750p(720p)、525p(480p)、525i(480i)		
		別売の外付けディスプレイ接続時※13	最大1,677万色 (1,920×1,440ドット、1,600×1,200ドット、1,280×1,024ドット、1,024×768ドット、800×600ドット)		
	グラフィックアクセラレータ		ATI Radeon™ Xpress 1250に内蔵		
	グラフィックスメモリ		最大320MB※6		
ドライブ	ハードディスクドライブ※15		約120GB(Serial ATA、高速5,400回転/分)		
	Windows®システムから認識される容量※16	Cドライブ／空き容量	約69GB ／約49GB		
		Dドライブ／空き容量	約26GB ／約25GB		
	DVD/CDドライブ（詳細は別表をご覧ください）		DVDスーパーマルチドライブ（DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW）内蔵 (バッファアンダーランエラー防止機能付き)[DVD-R/+R 2層書込み]		
	フロッピーディスクドライブ		ー【別売、専用オプション（型番:PC-AC-DU001C）※17】		
サウンド機能	スピーカ		内蔵ステレオスピーカ（2.0W + 2.0W）		
	音源／サラウンド機能		インテル® High Definition Audio 準拠（最大192kHz/24ビット※31 ステレオPCM同時録音再生機能、MIDI再生機能［OS標準]）、3Dオーディオ（Direct Sound 3D対応）、 マイク機能（ノイズ抑制、音響エコーキャンセル、ビームフォーミング）		
	サウンドチップ		RealTek社製 ALC262搭載		
通信機能	LAN		1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T対応		
	ワイヤレスLAN		トリプルワイヤレスLAN(Super AG®）本体内蔵※18※19 (IEEE802.11a/b/g準拠)		

型名			LL850/KG	LL800/KG	LL750/KG
入力装置	キーボード		本体一体型（キーピッチ19mm※20、キーストローク3.0mm)、JIS標準配列（87キー)、 右コントロールキー付き		
	マウス		光センサー USBマウス（スクロール機能付き）		
	ポインティングデバイス		スクロールボタン付きNXパッド標準装備		
	ボタン		ワンタッチスタートボタン（ソフトボタン含む)、LED消灯ボタン、ECOボタン、DVDボタン、 DVD/CDコントロールボタン搭載		
	Webカメラ		有効画素数198万画素 （総画素数212万画素）	―	有効画素数198万画素 （総画素数212万画素）
	マイク		2マイクアレイ （ノイズ抑制、ビームフォーミング）	―	2マイクアレイ （ノイズ抑制、ビームフォーミング）
外部インターフェイス	USB		コネクタ4ピン×5 [USB2.0]（パソコン本体左側面の端子にパワーオフUSB充電機能付き）※35		
	IEEE1394（DV)		4ピン×1		
	ディスプレイ		ミニD-sub15ピン×1、HDMI出力端子×1※23※24		
	LAN		RJ45コネクタ×1		
	サウンド関連	ライン出力	ヘッドフォン出力と共用（ライン出力レベル　1Vrms)		
		マイク入力※22	ステレオミニジャック×1（マイク入力インピーダンス 64kΩ、 入力レベル 100mVrms(マイクブースト有効時［+30dB］は5mVrms、バイアス電圧 2.5V)		
		ヘッドフォン出力	ステレオミニジャック×1（ヘッドフォン出力インピーダンス　16Ω-100Ω「推奨32Ω」、 出力電力　5mW/32Ω)		
	カードスロット	メモリーカードスロット	トリプルメモリースロット×1※25※26 [SDメモリーカード（SDHCメモリーカード)、 メモリースティック（メモリースティック PRO)、xD-ピクチャーカード]		
		PCカード	ExpressCard/54×1（ExpressCard™ Standard Release 1.0準拠)、 TypeⅡ×1（PC Card Standard準拠、CardBus対応)		
FeliCaポート			内蔵	―	内蔵
バッテリ駆動時間※27※28	標準		約1.0時間		約0.9時間
	最大（オプションバッテリ装着時）		約1.9時間		約1.6時間
バッテリ充電時間（電源ON時／OFF時）※27	標準		約2.2時間/約2.2時間		
	最大（オプションバッテリ装着時）		約3.1時間/約2.7時間		
電源※21			ニッケル水素バッテリ（DC9.6V 4000mAh）またはACアダプタ （AC100～240V±10%、50/60Hz）※29		
消費電力	標準／最大		約38W／約90W		約45W／約90W
エネルギー消費効率（2007年度省エネ基準達成率）※30			I区分 0.0009（AA)		I区分 0.0015（A)
電波障害対策			VCCI ClassB		
温湿度条件			5～35℃、20～80%(ただし結露しないこと)		
外形寸法	本体（突起部除く）		370（W）×278（D）×43.3（H)mm		
	バッテリ		約153.0（W）×80.5（D）×24.1（H)mm		
	ACアダプタ		約133.0（W）×58.0（D）×31.0（H)mm		
質量	本体（標準バッテリパック含む)／マウス		約3.5kg／約86g	約3.6kg／約86g	約3.5kg／約86g
	バッテリ		約550g		
	ACアダプタ※32		約417g		
主な添付品			ACアダプタ、マニュアル、光センサー USBマウス		

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

※　1：32ビット版です。添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。別売のOSをインストールおよびご利用することはできません。
※　2：ネットワークでドメインに参加する機能はありません。
※　3：電源の種類（AC電源、バッテリ）やシステム負荷に応じて動作性能を切り換える機能です。
※　4：増設メモリは、PC-AC-ME021C（512MB、PC2-5300）、PC-AC-ME022C（1GB、PC2-5300）、PC-AC-ME025C（2GB、PC2-5300）を推奨します。
※　5：他社製の増設メモリの装着は、動作を保証するものではありません。他社製品との接続は各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。
※　6：グラフィックスメモリは、メインメモリを使用します。出荷時のBIOS Setup Menuの設定値は128MBになります（256MB選択可）。パソコンの動作状況によりグラフィックスメモリ容量が最大値まで変化します。搭載するメインメモリの容量によって利用可能なグラフィックスメモリの総容量は異なります。利用可能なグラフィックスメモリの総容量とは、Windows Vista®上で一時的に使用する共有メモリやシステムメモリを含んだ最大の容量を意味します。
※　7：最大メモリ容量にする場合、本体に標準実装されているメモリを取り外して、別売の増設メモリ（2GB）を2枚実装する必要があります。
※　8：メモリを増設する場合は、増設メモリの容量にかかわらず1GB分のみデュアルチャネル動作となります。
※　9：本体液晶ディスプレイより小さい解像度を選択した場合、拡大表示機能により液晶画面全体に表示します。ただし、拡大表示によって文字や線などの太さが不均一になることがあります。
※ 10：1,677万色表示は、グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現します。
※ 11：すべてのHDMI規格に対応した外部ディスプレイやTVでの動作確認はしておりません。HDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビによっては正しく表示されない場合があります。
※ 12：TV接続時のみ。
※ 13：本機のもつ解像度および色数の能力であり、接続するディスプレイ対応解像度、リフレッシュレートによっては表示できない場合があります。本体の液晶ディスプレイと外付けディスプレイの同時表示可能です。ただし拡大表示機能を使用しない状態では、外付けディスプレイ全体には表示されない場合があります。
※ 14：ISO13406-2の基準にしたがって、副画素（サブピクセル）単位で計算しています。
※ 15：1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。
※ 16：右記以外の容量は、再セットアップ用領域として占有されます。
※ 17：2モード（720KB/1.44MB）に対応しています（ただし720KBモードのフォーマットは不可です）。
※ 18：5GHz帯ワイヤレスLANは、IEEE802.11a準拠（J52/W52/W53/W56）です。J52/W52/W53/W56は社団法人 電子情報技術産業協会による表記です。詳細はhttp://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/050516_5ghz/index.html をご参照ください。
※ 19：IEEE802.11a/b/g準拠、WEP（64/128bit）対応、WPA-PSK（TKIP/AES）対応、WPA2-PSK（AES）対応。
接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のアプリケーションソフトウェア、OSなどによっても通信速度、通信距離に影響する場合があります。IEEE802.11b/g（2.4GHz）とIEEE802.11a（5GHz）は互換性がありません。IEEE802.11a（J52、W52、W53）ワイヤレスLANの使用は、電波法令により屋内での使用に限定されます。Super AG®機能を使用するには、接続先のワイヤレスLAN機器もSuper AG®に対応している必要があり、各ワイヤレスLAN機器の設定変更が必要になる場合があります。設定変更については、各ワイヤレスLAN機器のマニュアルをご参照してください。Super AG®機能は、IEEE802.11a及びIEEE802.11gのみに対応しています。
※ 20：キーボードのキーの横方向の間隔。キーの中心から隣のキーの中心までの長さ（一部キーピッチが短くなっている部分があります）。
※ 21：パソコン本体のバッテリ、およびリモコンなどに使用する各種電池は消耗品です。
※ 22：パソコン用マイクとして市販されているコンデンサマイクやヘッドセットを推奨します。
※ 23：本機のHDMIインターフェイスは、High-Definition Multimedia Interface Specification Version 1.2a規格に対応しています。
※ 24：本機で著作権保護されたコンテンツを再生し、HDMI出力端子に接続した機器に表示する場合、接続する機器はHDCP規格に対応している必要があります。HDCP規格に非対応の機器を接続した場合は、コンテンツの再生または表示ができません。
HDMIのCEC（Consumer Electronics Control）には対応しておりません。HDMIケーブルを介した機器制御方式には対応しておりません。
HDMIケーブルは長さ1.5m以下を推奨します。
※ 25：それぞれのメモリーカードは、各々同時に使用することはできません。「マルチメディアカード（MMC）」はご利用できません。「SDIOカード」には対応しておりません。「miniSD/microSDカード」をご使用の場合には、「miniSD/microSDカード」カードアダプタをご利用ください。microSD→miniSDアダプタ→SDアダプタの2サイズ変換には対応しません。詳しくは「miniSD/microSDカード」の取扱説明書をご覧ください。「メモリースティック Duo」をご使用の場合は、必ずメモリースティック Duoアダプタをご利用ください。詳しくは「メモリースティック Duo」の取扱説明書をご覧ください。
※ 26：著作権保護機能には対応しておりません。ただし、「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」は添付ソフト「SD-MobileImpact Ver.1.1」では、SD-Audio規格に準拠した「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」の著作権保護機能に対応しています。「マジックゲート」機能には対応しておりません。
※ 27：バッテリ駆動時間や充電時間は、ご利用状況によって記載時間と異なる場合があります。
※ 28：JEITAバッテリ動作時間測定法（Ver.1.0）に基づいて測定したバッテリ駆動時間です。詳しい測定条件は、インターネット（http://121ware.com/lavie/ → 各シリーズページ →「仕様」）でご案内しています。
※ 29：標準添付されている電源コードはAC100V用（日本仕様）です。
※ 30：エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。省エネ基準達成率の表示語Aは達成率100%以上200%未満、AAは達成率200%以上500%未満、AAAは達成率500%以上を示します。
※ 31：使用出来る量子化ビットやサンプリングレートは、OSや使用するアプリケーションなどのソフトウェアによって異なります。
※ 32：電源コードの質量を除く。
※ 33：最大4.5GBのメモリを搭載可能ですが、使用できる領域は4GBまでとなります。また、PCIデバイス等のメモリ領域を確保するために、すべての領域を使用することはできません。なお、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。
※ 34：インテル® ダイナミック・アクセラレーションには対応しておりません。
※ 35：動作確認済み機器に関しましてはhttp://121ware.com/lavie/→各シリーズのページでご確認ください。ACアダプタを接続している場合のみ使えます。ACアダプタを外した状態では使えません。

DVD/CDドライブ仕様一覧

ドライブ※1	DVDスーパーマルチドライブ（DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW）内蔵 （バッファアンダーランエラー防止機能付き）[DVD-R/+R 2層書込み]
DVD-RAM読出し※2※3	最大5倍速
DVD-RAM書換え※2※3※11	最大5倍速
DVD+R（1層）書込み	最大8倍速
DVD+R（2層）書込み※4	最大4倍速
DVD+RW書換え	最大8倍速
DVD-R（1層）書込み※5	最大8倍速
DVD-R（2層）書込み※6※7	最大4倍速
DVD-RW書換え※8	最大6倍速
DVD読出し	最大8倍速
CD読出し※9	最大24倍速
CD-R書込み	最大24倍速
CD-RW書換え※10	最大10倍速

※　1：使用するディスクによっては、一部の書込み／読出し速度に対応していない場合があります。
※　2：DVD-RAM Ver.2.0/2.1/2.2（片面4.7GB）に準拠したメディアに対応しています。また、カートリッジ式のメディアは使用できませんので、カートリッジなし、あるいはメディア取り出し可能なカートリッジ式でメディアを取り出してご利用ください。
※　3：DVD-RAM Ver.1（片面2.6GB）の読出し/書換えはサポートしておりません。
※　4：DVD+R 2層書込みはDVD+R（2層）ディスクのみに対応しています。
※　5：DVD-Rは、DVD-R for General Ver.2.0/2.1に準拠したメディアの書込みに対応しています。
※　6：DVD-R 2層書込みは、DVD-R for DL Ver.3.0に準拠したメディアの書込みに対応しています。
※　7：作成したDVD-R（2層）ディスクについては、当社製パソコンに搭載されているDVD-R（2層）対応ドライブでのみ読出しが可能です。
※　8：DVD-RWは、DVD-RW Ver.1.1/1.2に準拠したメディアの書換えに対応しています。
※　9：Super Audio CDは、ハイブリッドのCD Layerのみ読出し可能です。
※ 10：Ultra Speed CD-RWメディアはご使用になれません。
※ 11：DVD-RAM12倍速メディアの書込みはサポートしておりません。

LAN仕様一覧

項目	規格
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u、IEEE802.3ab
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	1000BASE-T使用時：1000Mbps 100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	1000BASE-T使用時：UTPカテゴリ5e以上 100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時 ：UTPカテゴリ3または5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1,024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長※	1000BASE-T：最大約200m/ステーション間 100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

※リピータの台数など、条件によって異なります。

本体仕様一覧

LL370/KG

型名			LL370/KG
型番			PC-LL370KG
インストールOS・サポートOS			Windows Vista® Home Premium（日本語版）※1※2
CPU			インテル® Celeron® M プロセッサー 520（1.60GHz）
	キャッシュメモリ	1次	インストラクション用32KB/データ用32KB
		2次	1,024KB
	クロック周波数		1.60GHz
バスクロック	システムバス		533MHz
	メモリバス		533MHz
チップセット			ATI Radeon™ Xpress 1100 / SB600
メインメモリ※3	標準容量／最大容量※4		1GB※5（DDR2 SDRAM/SO-DIMM 1GB、PC2-4200対応）／ 2GB
	スロット数		2スロット［空き1］
表示機能	内蔵ディスプレイ		15.4型ワイド 高輝度・低反射TFTカラー液晶（スーパーシャインビュー液晶）[WXGA（最大1,280×800ドット表示）]
		LCDドット抜けの割合※9	0.00027%以下
	表示色（解像度）※6	内蔵ディスプレイ	最大1,677万色※7 （1,280×800ドット、1,024×768ドット、800×600ドット）
		別売の外付けディスプレイ接続時※8	最大1,677万色 （1,920×1,440ドット、1,600×1,200ドット、1,280×1,024ドット、1,024×768ドット、800×600ドット）
	グラフィックアクセラレータ		ATI Radeon™ Xpress 1100に内蔵
	グラフィックスメモリ		最大320MB※5
ドライブ	ハードディスクドライブ※10		約120GB(Serial ATA）
	Windows®システムから認識される容量※11	Cドライブ／空き容量	約69GB ／約50GB
		Dドライブ／空き容量	約25GB ／約25GB
	DVD/CDドライブ（詳細は別表をご覧ください）		DVDスーパーマルチドライブ（DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW）内蔵 （バッファアンダーランエラー防止機能付き）[DVD-R/+R 2層書込み]
	フロッピーディスクドライブ		ー【別売、専用オプション（型番:PC-AC-DU001C）※12】
サウンド機能	スピーカ		内蔵ステレオスピーカ（1W + 1W）
	音源／サラウンド機能		インテル® High Definition Audio 準拠（最大192kHz/24ビット※23 ステレオPCM同時録音再生機能、MIDI再生機能［OS標準］)、3Dオーディオ（Direct Sound 3D対応)、 マイク機能（ノイズ抑制、音響エコーキャンセル、ビームフォーミング）
	サウンドチップ		RealTek社製 ALC262搭載
通信機能	LAN		100BASE-TX/10BASE-T対応
	ワイヤレスＬＡＮ		トリプルワイヤレスLAN(Super AG®）本体内蔵※13※14 (IEEE802.11a/b/g準拠)
入力装置	キーボード		本体一体型（キーピッチ19mm※15、キーストローク3.0mm)、JIS標準配列（87キー)、 右コントロールキー付き
	ポインティングデバイス		スクロールボタン付きNXパッド標準装備

型名			LL370/KG
外部インターフェイス	USB		コネクタ4ピン×3 [USB2.0]
	ディスプレイ（アナログ）		ミニD-sub15ピン×1
	LAN		RJ45コネクタ×1
	サウンド関連	ライン出力	ヘッドフォン出力と共用（ライン出力レベル　1Vrms）
		マイク入力※17	ステレオミニジャック×1（マイク入力インピーダンス 64kΩ、入力レベル 100mVrms（マイクブースト有効時は 5mVrms）、バイアス電圧 2.5V）
		ヘッドフォン出力	ステレオミニジャック×1（ヘッドフォン出力インピーダンス　16Ω-100Ω「推奨32Ω」、出力電力　5mW/32Ω）
	カードスロット	メモリーカードスロット	トリプルメモリースロット×1※18 [SDメモリーカード（SDHCメモリーカード）、メモリースティック（メモリースティック PRO）、xD-ピクチャーカード]
		PCカード	TypeⅡ×1、PC Card Standard準拠、CardBus対応
バッテリ駆動時間※19※20	標準		約0.9時間
バッテリ充電時間（電源ON時／OFF時）※19	標準		約2.2時間／約2.2時間
電源※16			ニッケル水素バッテリ（DC7.2V、4000mAh）またはACアダプタ（AC100～240V±10%、50/60Hz）※21
消費電力	標準／最大		約30W ／約60W
エネルギー消費効率（2007年度省エネ基準達成率）※22			I区分 0.0011（AA）
電波障害対策			VCCI ClassB
温湿度条件			5～35℃、20～80%(ただし結露しないこと)
外形寸法	本体（突起部除く）		362（W）×261（D）×30.5～40（H)mm
	バッテリ		約213.6（W）×43.4（D）×22.1（H)mm
	ACアダプタ		約114.5（W）×49.5（D）×28.5（H)mm
質量	本体（標準バッテリパック含む）		約2.8kg
	バッテリ		約450g
	ACアダプタ※24		約270g
主な添付品			ACアダプタ、マニュアル

上記の内容は本体のハードウェアの仕様であり、オペレーティングシステム、アプリケーションによっては、上記のハードウェアの機能をサポートしていない場合があります。

※　1：32ビット版です。添付のソフトウェアは、インストールされているOSでのみご利用できます。別売のOSをインストールおよび利用することはできません。
※　2：ネットワークでドメインに参加する機能はありません。
※　3：増設メモリは、PC-AC-ME021C（512MB、PC2-5300）、PC-AC-ME022C（1GB、PC2-5300）を推奨します。ただし、本体の仕様上メモリバス533MHz（PC2-4200）で動作します。
※　4：他社製の増設メモリの装着は、動作を保証するものではありません。他社製品との接続は各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。
※　5：グラフィックスメモリは、メインメモリを使用します。出荷時のBIOS Setup Menuの設定値は128MBになります（256MB選択可）。パソコンの動作状況によりグラフィックスメモリ容量が最大値まで変化します。搭載するメインメモリの容量によって利用可能なグラフィックスメモリの総容量は異なります。利用可能なグラフィックスメモリの総容量とは、Windows Vista®上で一時的に使用する共有メモリやシステムメモリを含んだ最大の容量を意味します。
※　6：本体液晶ディスプレイより小さい解像度を選択した場合、拡大表示機能により液晶画面全体に表示します。ただし、拡大表示によって文字や線などの太さが不均一になることがあります。
※　7：1,677万色表示は、グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現します。
※　8：本機のもつ解像度および色数の能力であり、接続するディスプレイ対応解像度、リフレッシュレートによっては表示できない場合があります。本体の液晶ディスプレイと外付けディスプレイの同時表示可能です。ただし拡大表示機能を使用しない状態では、外付けディスプレイ全体には表示されない場合があります。
※　9：ISO13406-2の基準にしたがって、副画素（サブピクセル）単位で計算しています。
※ 10：1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。
※ 11：右記以外の容量は、再セットアップ用領域として占有されます。
※ 12：2モード（720KB/1.44MB）に対応しています（ただし720KBモードのフォーマットは不可です）。
※ 13：5GHz帯ワイヤレスLANは、IEEE802.11a準拠（J52/W52/W53/W56）です。J52/W52/W53/W56は社団法人 電子情報技術産業協会による表記です。詳細はhttp://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/050516_5ghz/index.html をご参照ください。
※ 14：IEEE802.11a/b/g準拠、WEP（64/128bit）対応、WPA-PSK（TKIP/AES）対応、WPA2-PSK（AES）対応。
接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のアプリケーションソフトウェア、OSなどによっても通信速度、通信距離に影響する場合があります。IEEE802.11b/g（2.4GHz）とIEEE802.11a（5GHz）は互換性がありません。IEEE802.11a（J52、W52、W53）ワイヤレスLANの使用は、電波法令により屋内での使用に限定されます。Super AG®機能を使用するには、接続先のワイヤレスLAN機器もSuper AG®に対応している必要があり、各ワイヤレスLAN機器の設定変更が必要になる場合があります。設定変更については、各ワイヤレスLAN機器のマニュアルをご参照してください。Super AG®機能は、IEEE802.11a及びIEEE802.11gのみに対応しています。
※ 15：キーボードのキーの横方向の間隔。キーの中心から隣のキーの中心までの長さ（一部キーピッチが短くなっている部分があります）。
※ 16：パソコン本体のバッテリ、およびリモコンなどに使用する各種電池は消耗品です。
※ 17：パソコン用マイクとして市販されているコンデンサマイクやヘッドセットを推奨します。
※ 18：著作権保護機能には対応しておりません。「マジックゲート」機能には対応しておりません。ただし、添付ソフト「SD-MobileImpact Ver.1.1」では、SD-Audio規格に準拠した「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」の著作権保護機能に対応しています。「メモリースティック Duo」をご使用の場合は、必ずメモリースティック Duoアダプタをご利用ください。詳しくは「メモリースティック Duo」の取扱説明書をご覧ください。「miniSD/microSDカード」をご使用の場合には、必ず専用のカードアダプタをご利用ください。microSD → miniSDアダプタ → SDアダプタの2サイズ変換には対応しておりません。詳しくは「miniSD/microSDカード」の取扱説明書をご覧ください。
「マルチメディアカード（MMC）」はご利用できません。「SDIOカード」には対応しておりません。それぞれのメモリーカードは、各々同時に使用することはできません。
※ 19：バッテリ駆動時間や充電時間は、ご利用状況によって記載時間と異なる場合があります。
※ 20：JEITAバッテリ動作時間測定法（Ver.1.0）に基づいて測定したバッテリ駆動時間です。詳しい測定条件は、インターネット（http://121ware.com/lavie/ → 各シリーズページ →「仕様」）でご案内しています。
※ 21：標準添付されている電源コードはAC100V用（日本仕様）です。
※ 22：エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。省エネ基準達成率の表示語Aは達成率100%以上200%未満、AAは達成率200%以上500%未満、AAAは達成率500%以上を示します。
※ 23：使用出来る量子化ビットやサンプリングレートは、OSや使用するアプリケーションなどのソフトウェアによって異なります。
※ 24：電源コードの質量を除く。

DVD/CDドライブ仕様一覧

ドライブ	DVDスーパーマルチドライブ (DVD-RAM/R/RW with DVD+R/RW)[DVD-R/+R 2層書込み] ※1
DVD-RAM読出し※2	最大5倍速
DVD-RAM書換え※2※4	最大5倍速
DVD+R（1層）書込み	最大8倍速
DVD+R（2層）書込み※5	最大4倍速
DVD+RW書換え	最大8倍速
DVD-R(1層）書込み※6	最大8倍速
DVD-R(2層）書込み※7	最大4倍速
DVD-RW書換え※8	最大6倍速
DVD読出し	最大8倍速
CD読出し	最大24倍速
CD-R書込み	最大24倍速
CD-RW書換え※3	最大10倍速

※　1：使用するディスクによっては、一部の書込み／読み出し速度に対応していない場合があります。
※　2：DVD-RAM Ver.2.0/2.1/2.2（片面4.7GB）に準拠したメディアに対応しています。また、カートリッジ式のメディアは使用できませんので、カートリッジなし、あるいはメディア取り出し可能なカートリッジ式でメディアを取り出してご利用ください。
※　3：Ultra Speed CD-RWメディアはご使用になれません。
※　4：DVD-RAM Ver.1（片面2.6GB）およびDVD-RAM12倍速メディアの書き換えはサポートしておりません。
※　5：DVD+R 2層書込みは、DVD+R（2層）ディスクのみに対応しています。
※　6：DVD-Rは、DVD-R for General Ver.2.0/2.1に準拠したメディアの書込みに対応しています。
※　7：DVD-R 2層書込みは、DVD-R for DL Ver.3.0に準拠したメディアの書込みに対応しています。作成したDVD-R(2層）ディスクについては、当社製パソコンに搭載されているDVD-R(2層）対応ドライブでのみ読み出しが可能です。
※　8：DVD-RWは、DVD-RW Ver.1.1/1.2に準拠したメディアの書き換えに対応しています。

LAN仕様一覧

項目	規格
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u、IEEE802.3ab
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時 ：UTPカテゴリ3または5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1,024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長※	100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

※リピータの台数など、条件によって異なります。

ワイヤレスLAN仕様一覧

Draft IEEE802.11n(2.4/5GHz) 規格のワイヤレスLANの仕様については、『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

■トリプルワイヤレスLAN

本機能はトリプルワイヤレスLANモデルのみの機能です。

トリプルワイヤレスLANは、Atheros Communications社が開発したワイヤレス通信の高速化技術「Super AG®」に対応しています。※

※:Super AG®機能を使用するには、接続先のワイヤレスLAN機器もSuper AG®に対応している必要があります。

●5GHzワイヤレスLAN

項　目	規　格
準拠規格	IEEE802.11a　ARIB STD-T71※4
通信モード	54/48/36/24/18/12/6 (Mbpsモード) ※1
変調方式	OFDM方式
無線チャンネル	36ch、40ch、44ch、48ch(アクティブスキャン) 34ch、38ch、42ch、46ch、52ch、56ch、60ch、64ch、100ch、104ch、108ch、112ch、116ch、120ch、124ch、128ch、132ch、136ch、140ch(パッシブスキャン) ※5
周波数帯域	5GHz帯域 (5.15～5.35GHz、5.47～5.725GHz) ※2
セキュリティ	WPA-PSK(TKIP/AES)、WPA2-PSK(AES) WEP(鍵長64bit/128bit※3)

※　1: 各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記であり、実効速度とは異なります。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のOS、アプリケーション、ソフトウェアなどによっても、通信速度、通信距離に影響する場合があります。

※　2: 34ch、36ch、38ch、40ch、42ch、44ch、46ch、48ch、52ch、56ch、60ch、64chを利用したワイヤレスLANの使用は、電波法令により屋内に限定されます。

※　3: ユーザーが設定可能な鍵長は、それぞれ40bit、104bitです。

※　4: ARIBについての表記の説明は「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)」の「使用上の注意」をご覧ください。

※　5: パッシブスキャンのチャンネルは接続に時間がかかる場合があります。

●2.4GHzワイヤレスLAN

項　目	規　格
準拠規格	IEEE802.11g、IEEE802.11b　ARIB STD-T66※3
通信モード	IEEE802.11gモード:54/48/36/24/18/12/6 (Mbpsモード) ※1 IEEE802.11bモード:11/5.5/2/1 (Mbpsモード) ※1
変調方式	OFDM方式 (54/48/36/24/18/12/6Mbpsモード時) DS-SS方式 (11/5.5/2/1Mbpsモード時)
無線チャンネル	1～13ch(アクティブスキャン)
周波数帯域	2.4GHz帯域 (2.4～2.4835GHz)
セキュリティ	WPA-PSK(TKIP/AES)、WPA2-PSK(AES) WEP(鍵長64bit/128bit※2)

※　1: 各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記であり、実効速度とは異なります。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のOS、アプリケーション、ソフトウェアなどによっても、通信速度、通信距離に影響する場合があります。

※　2: ユーザーが設定可能な鍵長は、それぞれ40bit、104bitです。

※　3: ARIBについての表記の説明は「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)」の「使用上の注意」をご覧ください。

その他のご注意

[著作権に関するご注意]

・ お客様が複製元のCD-ROMやDVD-ROMなどの音楽コンテンツやビデオコンテンツの複製や改変を行う場合、複製元の媒体などについて、著作権を保有していなかったり、著作権者から複製や改変の許諾を得ていない場合、利用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。
・ 複製の際は、複製元の媒体の利用許諾条件、複製などに関する注意事項にしたがってください。
・ お客様が録音・録画したものは、個人として楽しむなどのほかには、著作権法上、著作権者に無断で使用することはできません。

[電波に関するご注意]

＜ワイヤレスLAN対応商品＞

・ 病院内や航空機内など電子機器、無線機器の使用が禁止されている区域では使用しないでください。機器の電子回路に影響を与え、誤作動や事故の原因となるおそれがあります。
・ 埋め込み型心臓ペースメーカを装備されている方は、本商品をペースメーカ装置部から30cm以上離して使用してください。

＜ワイヤレスLAN(2.4GHz)IEEE802.11g ／ IEEE802.11b対応商品＞

・ 本商品では、2.4GHz帯域の電波を使用しています。この周波数帯域では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。
・ 本商品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
・ 万一、本商品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合は、速やかに本商品の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
・ 電波干渉の事例が発生し、お困りのことが起きた場合には、121コンタクトセンターまでお問い合わせください。

ワイヤレスLAN（2.4GHz）

2.4 DS·OF 4

2.4 DS 1

＜ワイヤレスLAN(5GHz)IEEE802.11a対応商品＞

・ 5GHz帯ワイヤレスLANは、IEEE802.11a準拠（J52/W52/W53/W56）です。J52/W52/W53/W56は社団法人 電子情報技術産業協会による表記です。詳細は http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/050516_5ghz/index.html をご参照ください。
・ IEEE802.11a(J52、W52、W53)ワイヤレスLANの使用は、電波法令により屋内での使用に限定されます。

[DVD/CDの読み込み／書き込みについて]

・ DVDビデオの再生は、ソフトウェアによるMPEG2再生方式です。NTSCのみ対応しております。Regionコード「2」、「ALL」以外のDVDビデオの再生は行えません。再生するDVDディスクおよびビデオCDの種類によってはコマ落ちする場合があります。リニアPCM（96kHz/24bit）で記録されている20kHz以上の音声信号は再生できません。DVDレコーダで記録されたDVDで、書き込み形式により再生できないものがあります。そのような場合はDVDレコーダの取扱説明書などをご覧ください。DVDレコーダや他のパソコンで作成されたDVDは、再生できないことがあります。DVDレコーダや他のパソコンで作成されたDVDは、再生できないことがあります。
・ このパソコンで書き込まれたディスクは、他のパソコンや機器では動作しない場合があります。
・ コピーコントロールCDなど一部の音楽CDでは、再生やCD作成ができない場合があります。
・ 別途アップデートを行うことでCPRM（Content Protection for Recordable Media）の著作権保護機能に対応することができます。
・ メディアの種類、フォーマット形式によって読み取り性能が出ない場合があります。また、記録状態が悪い場合など、読み取りできない場合があります。
・ 12cmDVD/CD、8cm音楽CD、8cmDVDのみ使用できます。ハート形、カード形などの特殊形状をしたCDはサポート対象外となります。
・ 設定した書込み、書換え速度を実現するためには、書込み、書換え速度に応じたメディアが必要になります。
・ ライティングソフトウェアが表示する書込み予想時間と異なる場合があります。
・ 作成したDVDは家庭用のDVDプレーヤ、DVD-ROM搭載パソコンで再生できますが、一部のDVDプレーヤ、DVD-ROMドライブでは再生できないことがあります。また、メディアやプレーヤの状態により再生できないことがあります。
・ ソフトウェアによっては書込み速度において最大速度を表示しない場合があります。

[周辺機器接続について]

・ 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、各種インターフェイスに対応している必要があります。
・ 接続する周辺機器によっては対応していない場合があります。
・ USB1.1対応の周辺機器も利用できます。USB2.0で動作するにはUSB2.0対応の周辺機器が必要です。
・ IEEE1394インターフェイスを装備した商品と他社製デジタルビデオカメラの連携は、機種により対応していない場合があります。
・ 他社製増設機器、および増設機器に添付のソフトウェアにつきましては、動作を保障するものではありません。他社製品との接続は、各メーカにご確認の上、お客様の責任において行ってくださるようお願いいたします。
・ 光デジタルオーディオ出力端子に接続するオーディオ機器は48kHzのサンプリング周波数に対応している必要があります。また、一般のCDプレーヤ・MDデッキ類と同様に、SCMS（シリアルコピーマネジメントシステム）に準拠した信号を出力します。

「サポートナビゲーター」詳細目次

安心安全に使う

使いこなす

●パソコン各部の説明

・パソコンの機能
・パソコンにつなげる

●ソフトの紹介

・ソフト一覧
・ソフトの追加と削除

●Windowsの操作

▼使いやすい設定に変更する
・安定した状態で使うには
・マウスポインタ（矢印）の速度を変える
・ダブルクリックの速度を変える
・ダブルクリックの代わりの操作をする
・マウスを左きき用にする
・Internet Explorerを使いやすくする
・コントロール パネルを表示する
・デバイス マネージャを表示する
・日付と時刻を合わせる
・ウィンドウの開き方を変える
・画面をクラシック表示にする
・パソコン画面のデザインを変える
・起動時やエラー時の音を変える
・ドライブ文字を変える
・パソコンの動作を速くする
▼使いこなすためのコツ
・パソコンのいろいろな終了方法
・ソフトをすばやく起動する
・ドラッグ＆ドロップを使いこなす
・ショートカットキーを使いこなす
・住所の入力を楽にする（郵便番号辞書）
・よく使う言葉を登録しておく（単語登録）
・入力方式を選ぶ
・IME言語バーを表示する
▼ファイルの使い方
・ファイルとフォルダの基礎知識
・「エクスプローラ」でファイルを操作する
・「エクスプローラ」のさまざまな機能
・ファイルを探す
・便利な検索機能を活用する
・ファイルやソフトをスタートメニューに表示する
・ファイルのバックアップと復元
・システムの状態を復元する
▼みんなで1台のパソコンを使う
・みんなでパソコンを使う
・パスワードを設定する
・ユーザーを追加する
・「ユーザーの切り替え」を使う
・ファイルを共有して使う

解決する

●困ったときには

・大切なのは、おちつくこと
・急にパソコンが動かなくなったら
・突然、見知らぬ画面が表示されたら
・ソフトの使い方を知りたい
・ハードウェアについて知りたい
・知りたい情報を検索するには

●Q&A一覧

●最新情報はインターネットで

・修正プログラムを探す
・最新のQ&Aを探す
・ウイルス／セキュリティ情報を確認する
・NEC以外のホームページで探す

●電話で問い合わせる

・電話をかける前の準備
・リモートサポートを利用する

●NECのサポート・サービス

●トラブル解決ナビ

索　引

数字

アルファベット

A

B

C

D

E

F

G

H

I

L

N

S

W

かな

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

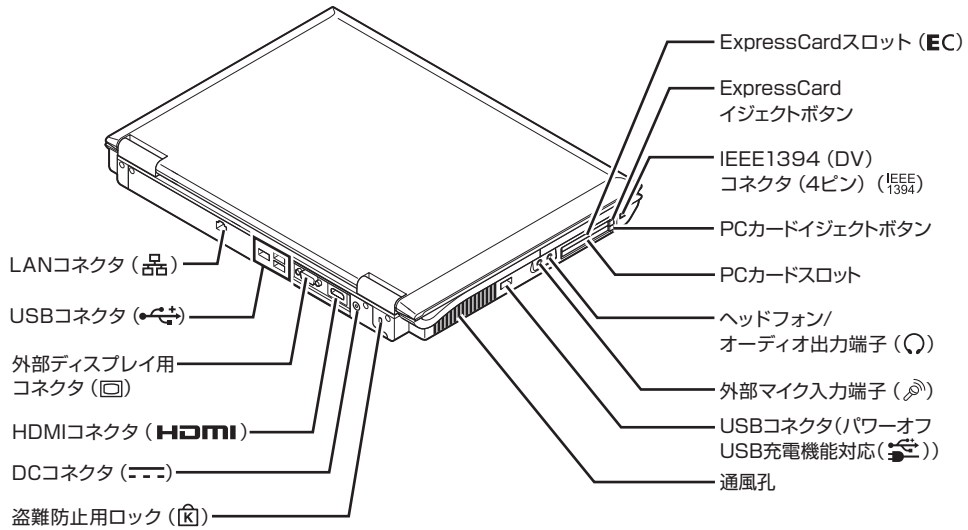
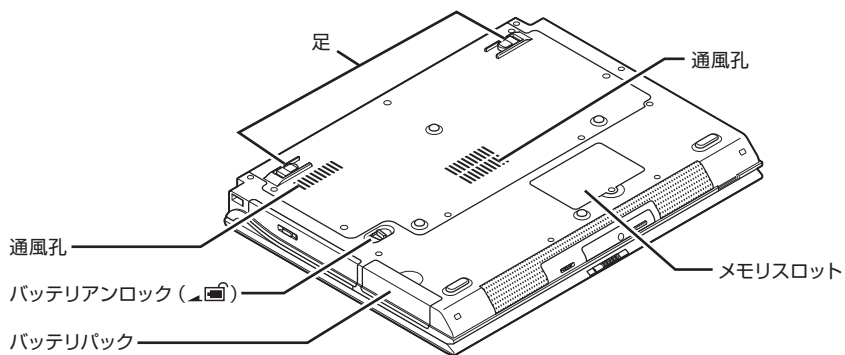
わ

各部の名称（1）LaVie Lアドバンストタイプ

※1：Webカメラが搭載されているモデルのみ
※2：FeliCa対応モデルのみ
※3：指紋センサが搭載されているモデルのみ
※4：ワイヤレスLAN機能搭載モデルのみ

①自動輝度センサ
②ECOボタン
③ワンタッチスタートボタン
④LED消灯ボタン
⑤電源スイッチ（⏻）
⑥DVDボタン
⑦DVD/CDコントロールボタン
⑧ECOランプ
⑨トリプルメモリースロットアクセスランプ
⑩ディスクアクセスランプ
⑪キャップスロックキーランプ
⑫スクロールロックキーランプ
⑬ニューメリックロックキーランプ

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」をご覧ください。

各部の名称（2）LaVie Lアドバンストタイプ

● 本体背面/左側面 ●

● 本体底面 ●

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」をご覧ください。

各ランプの状態

電源ランプ（⏻）と電源の状態

電源ランプの状態	ACアダプタを接続しているとき	ACアダプタを外しているとき
青色に点灯	電源が入っている	電源が入っている
青色に点滅	スリープ状態	スリープ状態
オレンジ色に点灯	ー	電源が入っていて、バッテリ残量が少ない
オレンジ色に点滅	ー	次のいずれか 1：電源が入っていて、バッテリ残量があとわずか 2：スリープ状態で、バッテリ残量が少ない、またはあとわずか
消灯	電源が切れている、または休止状態	電源が切れている、または休止状態※1

バッテリ充電ランプ（▭）とバッテリの充電状態

バッテリ充電ランプの状態	バッテリの充電状態
青色に点灯	バッテリ充電中
オレンジ色に点滅	バッテリのエラー※2
消灯	ACアダプタが接続されていない、または充電完了

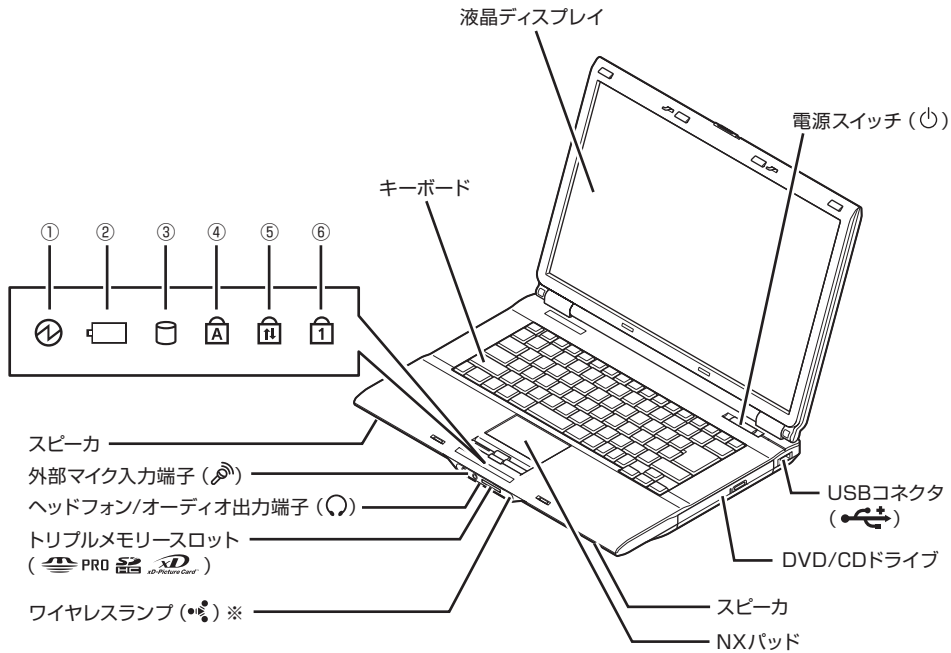
ワイヤレスランプ（LAN）とワイヤレスLAN機能の状態

ワイヤレスランプの状態	ワイヤレスLAN機能の状態
数秒に1回青色に点灯	オン（ワイヤレスLANアクセスポイントなどをスキャン中）
青色に点灯	オン（ワイヤレス通信が可能な状態）
青色に素早く点滅	オン（データの送信または受信中）
消灯	オフ（ワイヤレスLAN機能が使用不可）

※1：バッテリ残量が少ないままバッテリの電源のみでパソコンを使い続けると、バッテリ残量が少ないというメッセージが表示されます。その後しばらくすると自動的に休止状態になり、電源ランプが消灯します。
※2：バッテリ充電時のエラー、バッテリの寿命、または劣化時にエラーとなります。

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」をご覧ください。

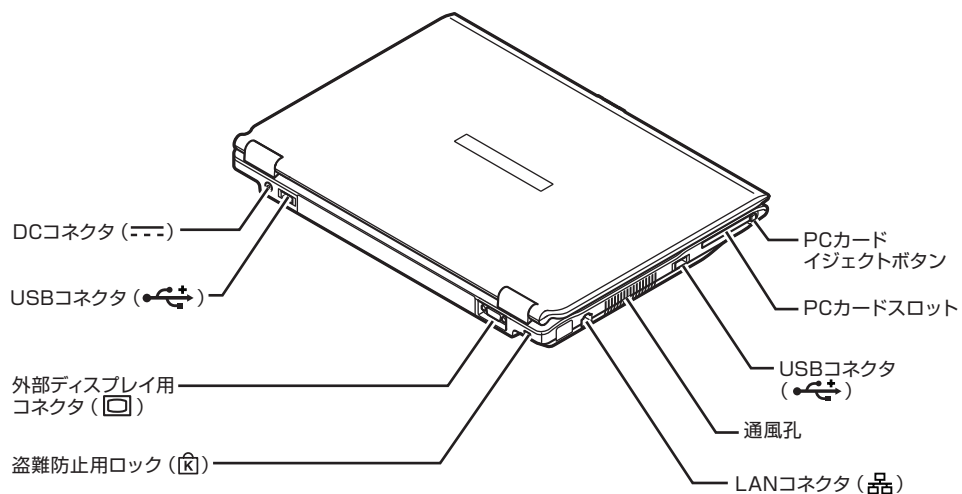
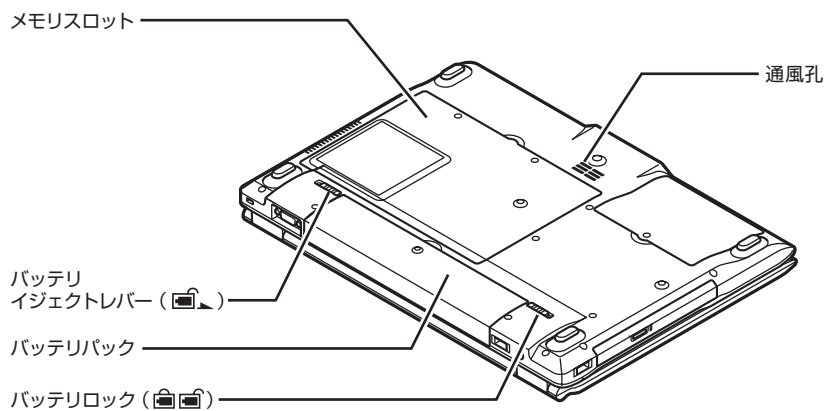
各部の名称（1）LaVie Lスタンダードタイプ（e）

● 本体前面/右側面 ●

※：トリプルワイヤレスLANモデルのみ

①電源ランプ	④キャップスロックキーランプ
②バッテリ充電ランプ	⑤スクロールロックキーランプ
③CD/ハードディスクアクセスランプ	⑥ニューメリックロックキーランプ

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」をご覧ください。

各部の名称（2）LaVie Lスタンダードタイプ（e）

● 本体背面/左側面 ●

● 本体底面 ●

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」をご覧ください。

各ランプの状態

電源ランプ（⏻）と電源の状態

電源ランプの状態	ACアダプタを接続しているとき	ACアダプタを外しているとき
緑色に点灯	電源が入っている	電源が入っている
緑色に点滅	スリープ状態	スリープ状態
オレンジ色に点灯	ー	電源が入っていて、バッテリ残量が少ない
オレンジ色に点滅	ー	次のいずれか 1：電源が入っていて、バッテリ残量があとわずか 2：スリープ状態で、バッテリ残量が少ない、またはあとわずか
消灯	電源が切れている、または休止状態	電源が切れている、または休止状態※1

バッテリ充電ランプ（▭）とバッテリの充電状態

バッテリ充電ランプの状態	バッテリの充電状態
オレンジ色に点灯	バッテリ充電中
オレンジ色に点滅	バッテリのエラー※2
消灯	ACアダプタが接続されていない、または充電完了

ワイヤレスランプ（ ）とワイヤレスLAN機能の状態

ワイヤレスランプの状態	ワイヤレスLAN機能の状態
緑色に点灯（数秒に1回消灯）	オン（ワイヤレスLANアクセスポイントなどをスキャン中）
緑色に点滅	オン（ワイヤレス通信が可能な状態）
緑色に素早く点滅	オン（データの送信または受信中）
消灯	オフ（ワイヤレスLAN機能が使用不可）※3

※1：バッテリ残量が少ないままバッテリの電源のみでパソコンを使い続けると、バッテリ残量が少ないというメッセージが表示されます。その後しばらくすると自動的に休止状態になり、電源ランプが消灯します。
※2：バッテリ充電時のエラー、バッテリの寿命、または劣化時にエラーとなります。
※3：「ワイヤレスネットワーク接続」でワイヤレスLAN機能をオフにした場合は、ワイヤレスランプは消灯せず緑色に点灯します。

詳しくは、「サポートナビゲーター」-「使いこなす」-「パソコンの機能」をご覧ください。

パソコンの中にもマニュアルがある

● サポートナビゲーターで調べてみよう ●

このパソコンには、使いながら画面で説明を見るための、サポートナビゲーターが入っています。

デスクトップにある サポートナビゲーター(電子マニュアル) をダブルクリックすれば、いつでも利用できます。

必要に応じて、次の３種類の説明を利用してください。

▶ 安心安全に使う	インターネットを安心して使うためのウイルス対策やセキュリティの設定などについて説明しています。
▶ 使いこなす	Windowsの便利な使い方、このパソコンに入っているソフトの使い方、このパソコンの各部の機能や設定についての詳しい情報など、一歩進んだ使い方を説明しています。
▶ 解決する	うまくいかないときや、故障かな？と思ったときに利用してください。サポート窓口への問い合わせ方なども説明しています。

2 準備と設定

LaVie

810601693B

2版 2007年9月
NEC
853-810601-693-B
Printed in Japan

NECパーソナルプロダクツ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11-1（ゲートシティ大崎 ウエストタワー）

このマニュアルは古紙パルプ配合率70%以上の再生紙を使用しています。